

KENWOOD

コンパクト コンポ ステレオ ロキシー

ROXY J3

取扱説明書

ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
本機は日本国内専用モデルですので、外国で使用することはできません。

株式会社 ケンウッド
KENWOOD CORPORATION

はじめに

ケンウッド商品をお買い上げいただき、ありがとうございます。本機を正しくお使いいただくため本説明書をよくお読みになり、末永くご愛用くださるようお願いいたします。また、お読みになったあとも、大切に保存してください。

目次

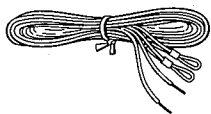
ご注意：△のついた項目は感電や火災からあなたを守るためにご使用前に必ずお読みください。

付属品	2	CDのききかた	34
△取扱上のご注意	3	トラックモード	34
△ご使用前に	4	ランダムプレイ	35
接続のしかた	6	プログラムモード	36
音を出してみましょう	11	リピートプレイ	38
各部の名称	12	カセットテープのききかた	39
リモコンの使いかた	16	DPSSの使いかた	41
アンプの操作	14	録音のしかた	43
映像機器を使用するには	18	録音の準備	43
サラウンドとスーパーウーハーの使いかた	19	録音レベルの合わせかた	44
チューナーの使いかた	20	CDの録音のしかた (CCRS)	46
放送を受信し、プリセットする	20	TRACKモードによる録音	47
プリセットした局を受信する	21	PGMモードによる録音	47
放送局名を表示させるには	22	編集 (EDIT) による録音	48
放送局名を変更するには	23	X. FADE 録音のしかた	50
グラフィックイコライザーの使いかた	24	CCRS倍速録音のしかた	50
デモンストレーションのしかた	24	ダビングのしかた	52
AI AUTOの使いかた	26	時刻合わせ	53
AI MANUALの使いかた	27	タイマーの使いかた	54
MANUAL/REFERENCEの使いかた	28	プログラムタイマーの準備	54
イコライザーパターン一覧表	29	AI TIMERの使いかた	58
自由にイコライザーパターンを作るには	30	AI TIMER 1/2の使いかた	58
パラメトリックモード	30	スリープタイマーの使いかた	59
グラフィックモード	31	故障と思われる症状ですが	60
イコライザー効果をかけた録音のしかた	32	アフターサービスについて	63
グラフィックイコライザーのはたらき	33	定格	63

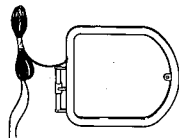
付属品

次の部品が全てそろっていることを確認してください。

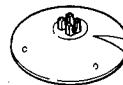
FM・TV用T型室内アンテナ
(1本)



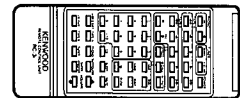
AMループアンテナ
(1個)



ループアンテナスタンド
(1個)



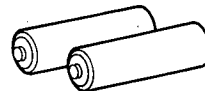
リモートコントロールユニット
(1個)



スピーカーコード(2本)



リモコン用単3乾電池(2個)



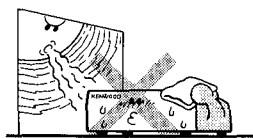
スピーカーコードを除く上記付属品はアンプ部に同梱されています。

取扱上のご注意

⚠ この頁は安全確保のために必ずお読みください

■設置上のご注意

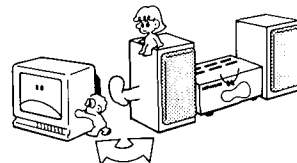
直射日光の当たる所、暖房器具など発熱物の近くは避けてください。



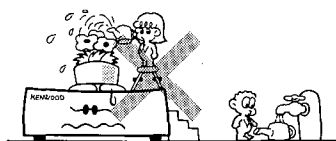
極端に寒い(水が凍るような)場所では十分な性能が発揮できないことがあります。



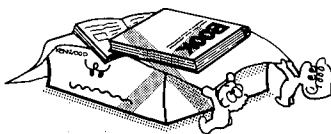
雑音が入る場合は、テレビからできるだけ離してご使用ください。



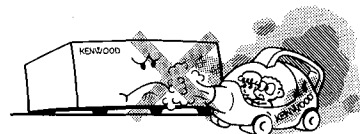
花びん、化粧品など液体の入ったものは、上に置かないでください。また、湿気の多いところは避けてください。



放熱をよくするため、本など、ものをセットの上に置かないでください。また、壁から10cmくらい離して置いてください。

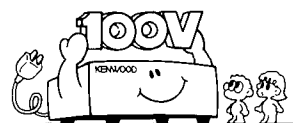


不安定な棚などは避け、ホコリ、震動の少ない水平な場所に設置してください。また、放熱孔をふさぐジュース、ソファ、ベッド等の上では使用しないでください。



■安全上のご注意

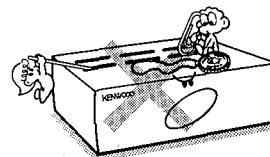
本機は、交流100V専用です。200Vでは絶対不使用しないでください。



電源プラグの抜き差しは、ぬれた手で行なわないでください。感電するおそれがあります。



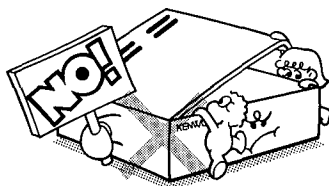
ケースの空気孔等にヘアピン、縫い針などの金属物が入ると故障や感電の原因になります。とくにお子様へのご注意をお願いします。



電源コードを強くひっぱったり、無理に折り曲げたり、継ぎ足したりすることは、通電しなくなったり、ショートのおそれがありますのでやめましょう。抜くときは、プラグを持ってください。

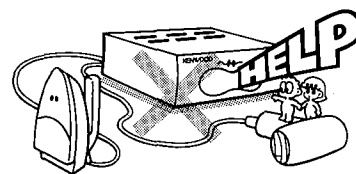


ケースなどをはずし、内部に触れることは避けてください。内部に手を触れると感電、故障の原因となることがあります。



背面の電源コンセントは音響機器専用です。下記の表示容量より大きい消費電力の機器は接続しないでください。

・連動電源コンセント **200W**



■セットのお手入れ

前面パネル、ケースなどが汚れたときは、やわらかい布でからぶきします。シンナー、ベンジン、アルコールなどは変色の原因になることがありますので、ご使用にならないでください。



■異常にお気づきのさいは

万一、煙が出ている、また変なにおいがするなどの異常がおきたときは、電源スイッチをすばやくOFFにして電源コードを抜いてください。そのうえで速やかに購入店または最寄りのケンウッドサービスセンター、営業所へご連絡ください。

POWER OFF

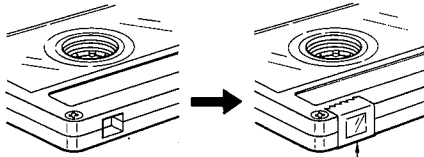
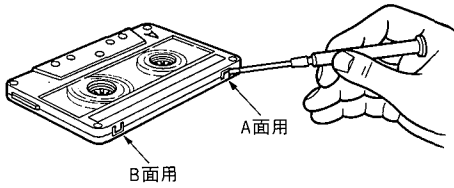


ご使用の前に

■カセットテープについてのご注意

●誤消去防止装置

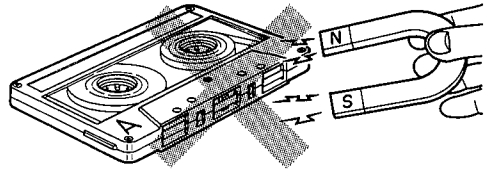
大切な録音のあとには、カセットのツメを折ってください。誤消去・誤録音を防げます。



再び録音するには

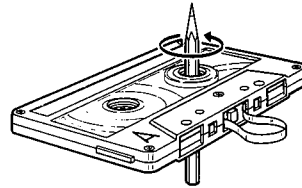
●カセットテープの保管について

直射日光下や暖房器などのそばに放置しないでください。また、磁石や磁気は近づけないでください。



●テープがたるんでいる場合

このような場合には、リール軸に鉛筆などを差込んで、テープのたるみをとってから装着してください。



ご注意：

1. 120分用テープについて

120分用テープは大変薄く、ピンチローラーに巻きついたり、切れたりしてトラブルが発生しやすいのでご使用は避けてください。

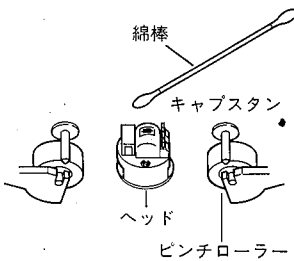
2. エンドレステープについて

エンドレステープは故障の原因となりますのでご使用は避けてください。

■ヘッドのお手入れ

ヘッド回りのクリーニング

いつまでも最良の状態でご使用になるには、テープ再生時間約10時間ごとに、消去ヘッド、録音・再生ヘッド、キャプスタン、ピンチローラーのクリーニングを心がけてください。クリーニングは、次の手順で行ってください。



1. イジェクトキーを押し、カセットホルダーをあげてください。
2. 消去ヘッド、録音・再生ヘッド、およびキャプスタン、ピンチローラーを、市販のクリーニング液を含ませた綿棒で注意深くクリーニングしてください。

ヘッドの消磁

録音・再生ヘッドが磁気を帯びると雑音が大きくなります。市販のヘッドイレーサーで消磁してください。

ご注意：

ヘッドのテープガイドなど、精密に調整された部分があります。クリーニングのさいは、引っかけたり、強い衝撃などを加えないように注意してください。

■露付きにご注意

水蒸気が、冷たいものの表面にふれて水滴が付くことを“露付き”といいます。この現象がおきますと、正常に動作しないか、または、まったく動作しないことがあります。

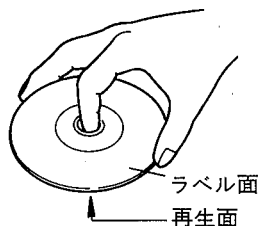
これは故障ではありませんが、露がとれるまでしばらく乾燥させる必要があります。

本機の電源を入れた状態で、そのまま放置しておいてください。長くても数時間で露が乾いてきます。

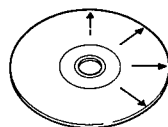
次のような状態のときは、特に露付きにご注意ください。

- 寒いところから暖かい部屋など気温差の大きいところへ持ち込んだとき。
- 暖房をきかせはじめたとき。
- 冷房のよくきいた部屋から、湿度が高く気温の高い部屋へ持ち込んだとき。
- その他本機の温度と外気温度との差が大きく、露付きの状態となりやすい条件のとき。

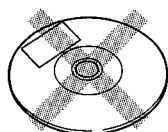
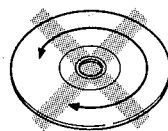
■ディスク取扱上のご注意



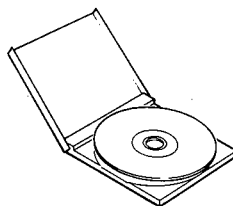
取り扱い
再生面に触れないように持つてください。



お手入れ
ディスクに指紋や汚れがついたときは、やわらかい布などで、放射状に軽くふきとってください。



再生面はもちろん、ラベル面にも紙やテープなどを貼らないでください。



保存
長い間使用しないときは、本機から取りだし、ケースに入れて保管してください。

ステレオ音のエチケット

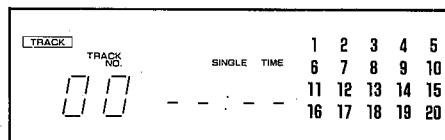


楽しい音楽も、時と場所によっては気になるものです。隣り近所への配慮を充分いたしましょう。ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。特に静かな夜間には、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドホンをご利用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

CDプレイヤーの輸送時または移動時のご注意

CDプレイヤーを輸送するときや、移動するとき、下記の操作を行ってください。

1. ディスクを入れないで電源をONにします。
2. 数秒間待って、ディスプレイ部が図の表示になったことを確かめてください。



3. 電源をOFFにします。

ドルビーノイズリダクションおよび HX PRO^{プロ}ヘッドルームエクステンションは、ドルビーラボラトリーズライセンスコーポレーションからの実施権に基づき製造されています。HX PRO はバング アンド オルフセンの考案です。

ドルビー^{ドルビー} DOLBY, ダブルD記号^{プロ}および HX PRO はドルビーラボラトリーズライセンスコーポレーションの登録商標です。

ご注意:

あなたが録音したテープは、個人として楽しむほかは、著作権法上の権利者に無断で使用できません。

スピーカーの防磁とテレビについて

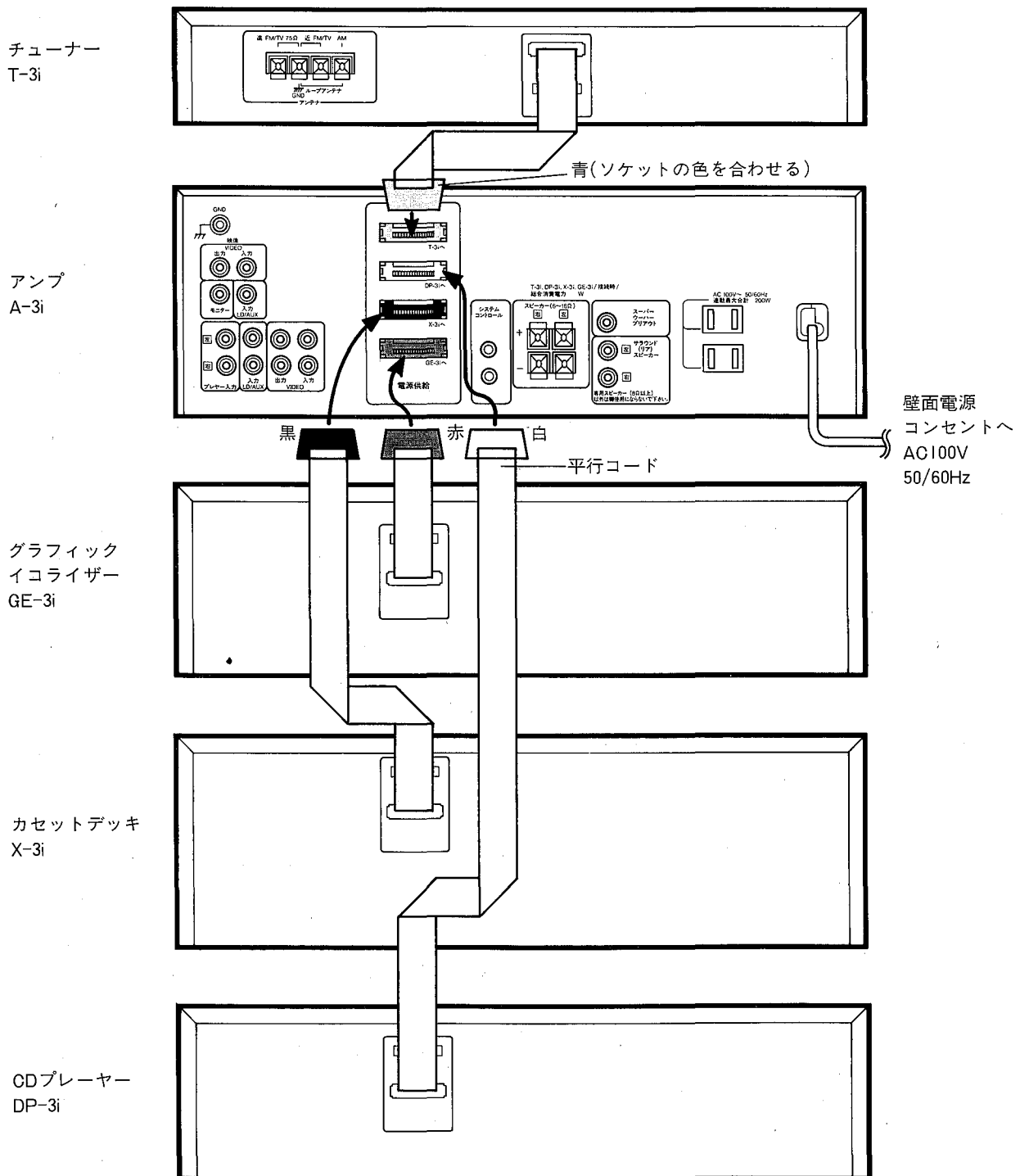
1. このシステムのスピーカーは、テレビとの近接使用が可能なスピーカーシステムですが、設置のしかたによっては、色ムラを生じる場合があります。その場合は、一度テレビの電源を切り、15分～30分後に再びスイッチを入れてください。テレビの自己消磁機能により、画面への影響が改善されます。その後も色ムラが残るような場合には、スピーカーをさらに離してご使用ください。
2. 近くに磁石等磁気が発生するものが置かれている場合には、スピーカーとの相互作用により、テレビに色ムラが発生する場合がありますので、設置にご注意ください。

接続のしかた

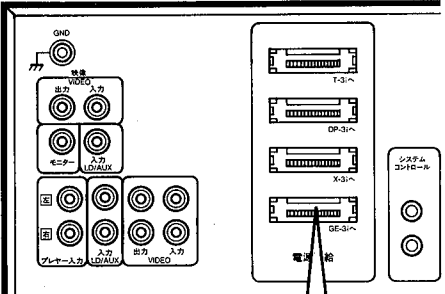
■基本システムの接続

接続が完了するまで、電源コードのプラグをコンセントに差し込まないでください。

- セットの積み重ねは、接続図通りに行ってください。平行コードは、ソケットの色を合わせて接続します。
- チューナーのアンテナ接続とアンプのスピーカー接続についてはそれぞれ“アンテナの接続”と“スピーカーコードの接続”をごらんください。

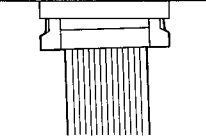


■ 平行コードの接続

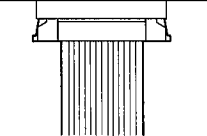


不完全な接続 正しい接続

×

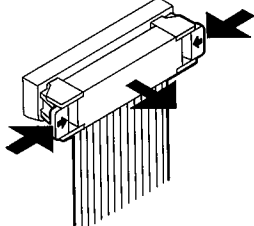


○

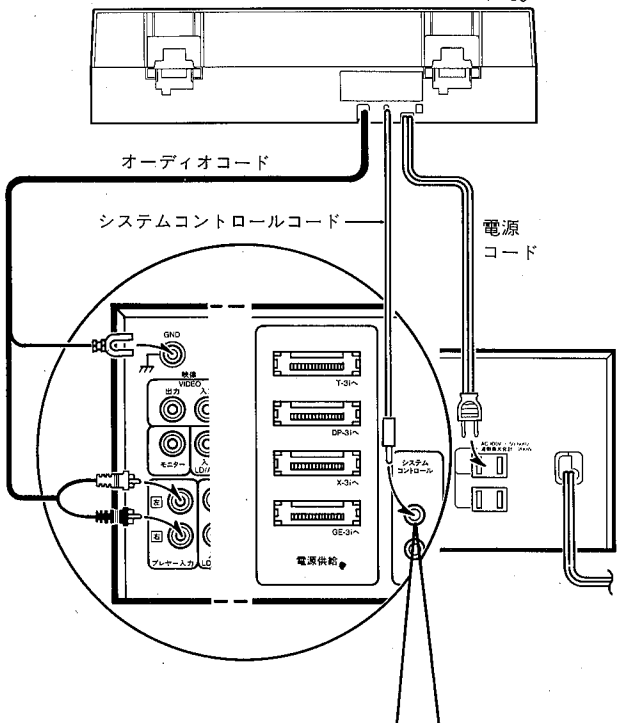


- 平行コードは、カチッと音がするまで平行に差し込み、確実にロックしてください。
- 平行コードは、ソケットの色を合わせて接続します。

コードを抜くとき
ソケット部分の両端を押しながまますぐに引き抜きます。

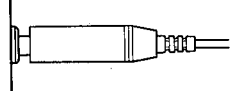


■ レコードプレーヤーの接続 (別売KENWOOD P-3J)

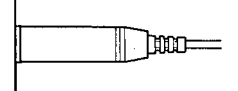


不完全な接続 正しい接続

×



○



- システムコントロールプラグは根元まで差し込みます。

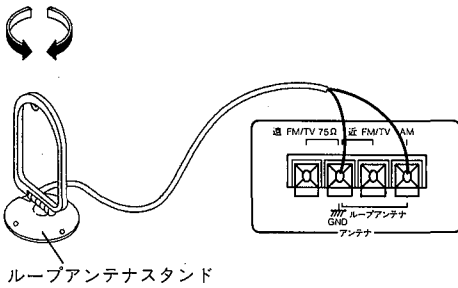
- システムコントロールコードとオーディオコードが正しく接続されていないと、リモートコントロールおよびシステム機器相互間の自動システムが作動しませんのでご注意ください。

ご注意：

1. 全ての接続コードは確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと、音が出なくなったり、雑音が発生することがあります。
2. 背面の電源コンセントには、表示されている定格以上の機器を接続しないでください。
3. 接続コードを抜き差しする場合は、必ず電源コードを電源コンセントから抜いてください。電源コードを抜かずに接続コードの抜き差しを行うと、誤動作または破損の原因となります。

■AMループアンテナの接続

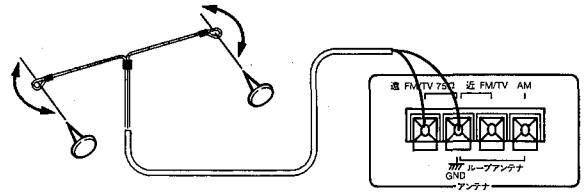
付属のアンテナは室内用です。本機、TV、スピーカーコード、電源コードからなるべく離れたところで、受信状態の一番よい方向に向けます。



■FM・TV T型アンテナの接続

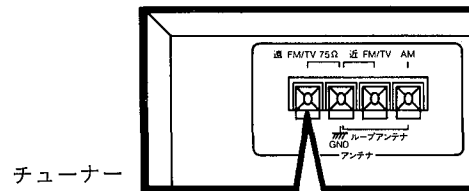
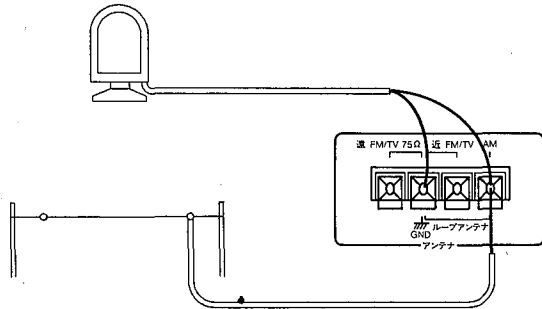
付属のアンテナは室内用で、一時的に使用するものです。安定した受信のために、なるべく早く屋外アンテナを接続してください。屋外アンテナを接続したら室内用アンテナは、取り外してください。

- ①受信状態のよい方向を探す。
- ②両端を画びょうなどで固定する。



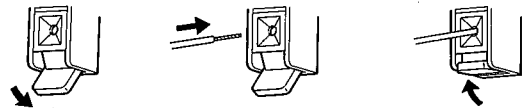
■AM屋外アンテナの接続

AMループアンテナでは受信状態が悪い場合、ループアンテナをつないだまま、6m以上のビニール被覆線を屋外に張ります。



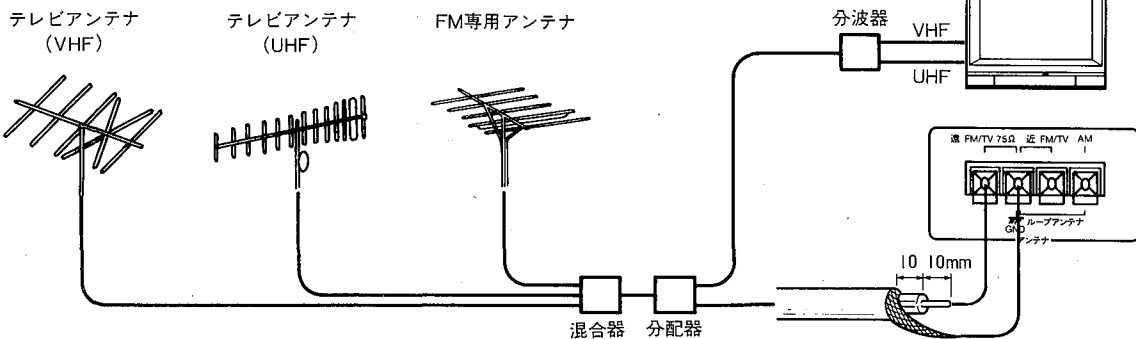
各アンテナ端子の接続要領

- ①レバーを下げる ②コードを差し込む ③レバーを上げる

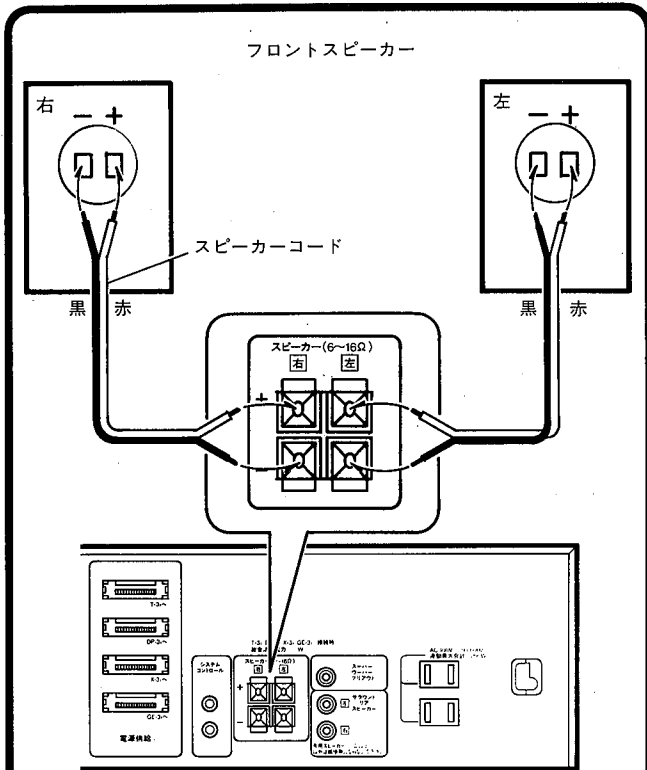


■FM・TV屋外アンテナの接続

75Ω同軸ケーブルを使って屋内へ引き込み、TV用と本機用に分配し、“遠FM/TV端子”に接続します。放送局が近く、電波が強い場合は、“近FM/TV端子”に接続します。

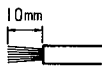


■スピーカーの接続

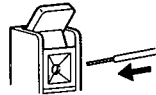


①コードの処理

- 皮膜をとる (Remove the insulation)
- 線をねじる (Twist the wires)



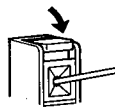
③コードを差し込む



②レバーを押す



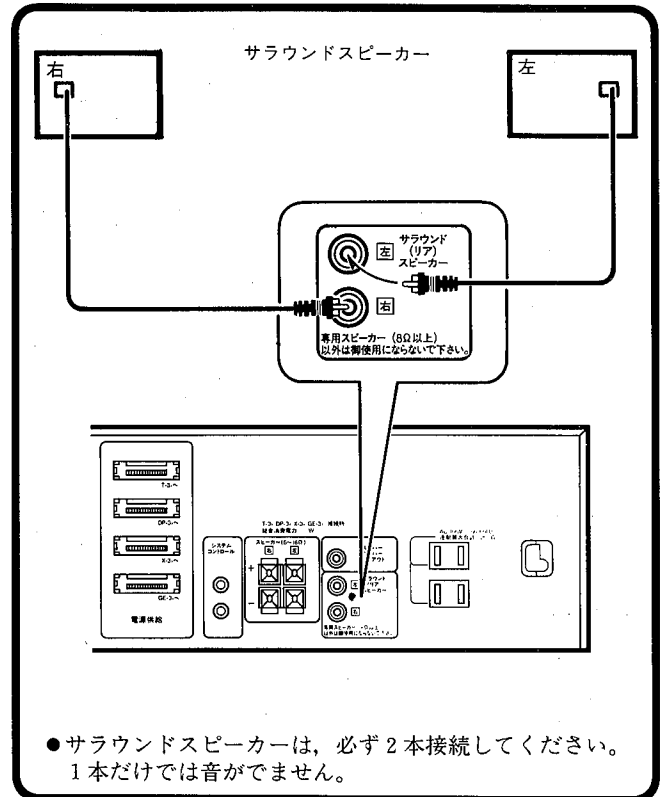
④レバーをロックする



ご注意:

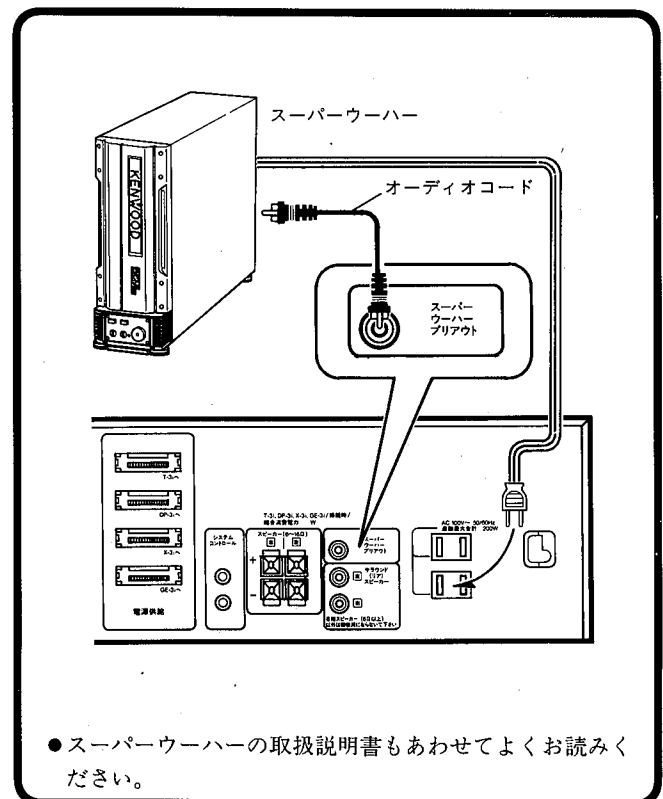
1. スピーカーコードの+と-は絶対にショートさせないでください。
2. 左右を逆にしたり、極性をまちがえて接続しますと、楽器などの位置がはっきりせず、不自然な音となります。正しく接続してください。

■サラウンドスピーカーの接続 (KENWOOD別売)



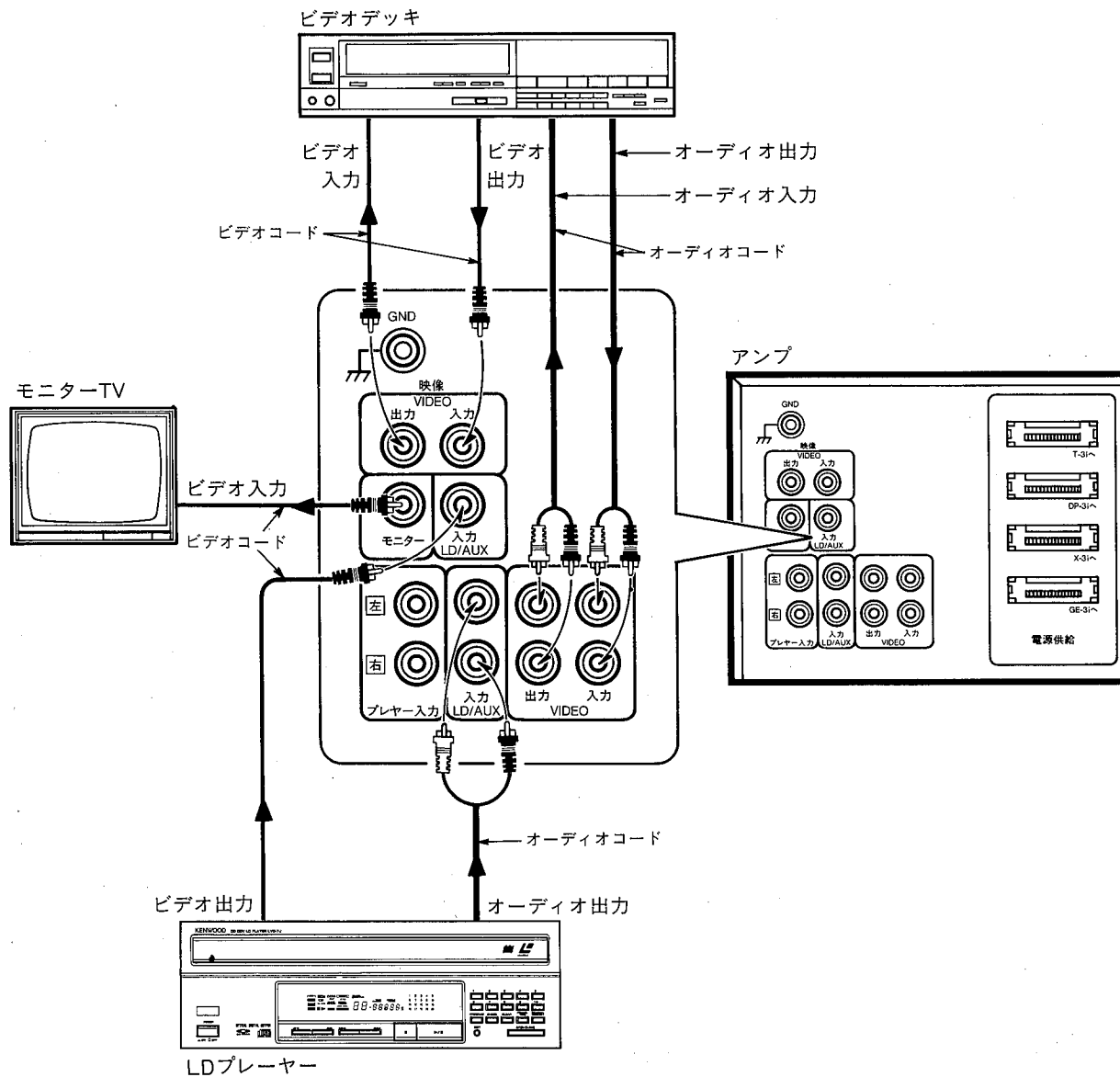
- サラウンドスピーカーは、必ず2本接続してください。1本だけでは音ができません。

■スーパーウーハーの接続 (KENWOOD別売)



- スーパーウーハーの取扱説明書もあわせてよくお読みください。

■AV機器(別売)との接続



LDプレイヤーのかわりに次のような映像機器が接続できます。

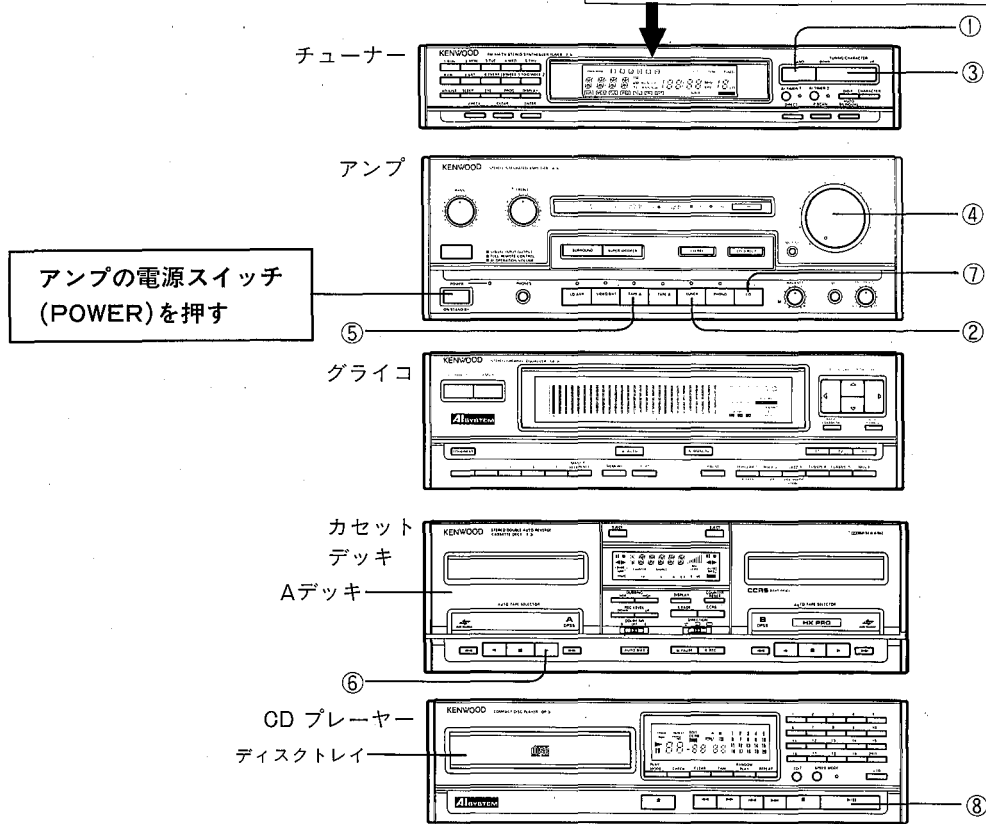
- ビデオ再生専用デッキ
- ビデオカメラ
- BSチューナー

●接続コードは、本システムに付属していません。

音を出してみましよう

詳しくは、各機器の操作ページをご覧ください。

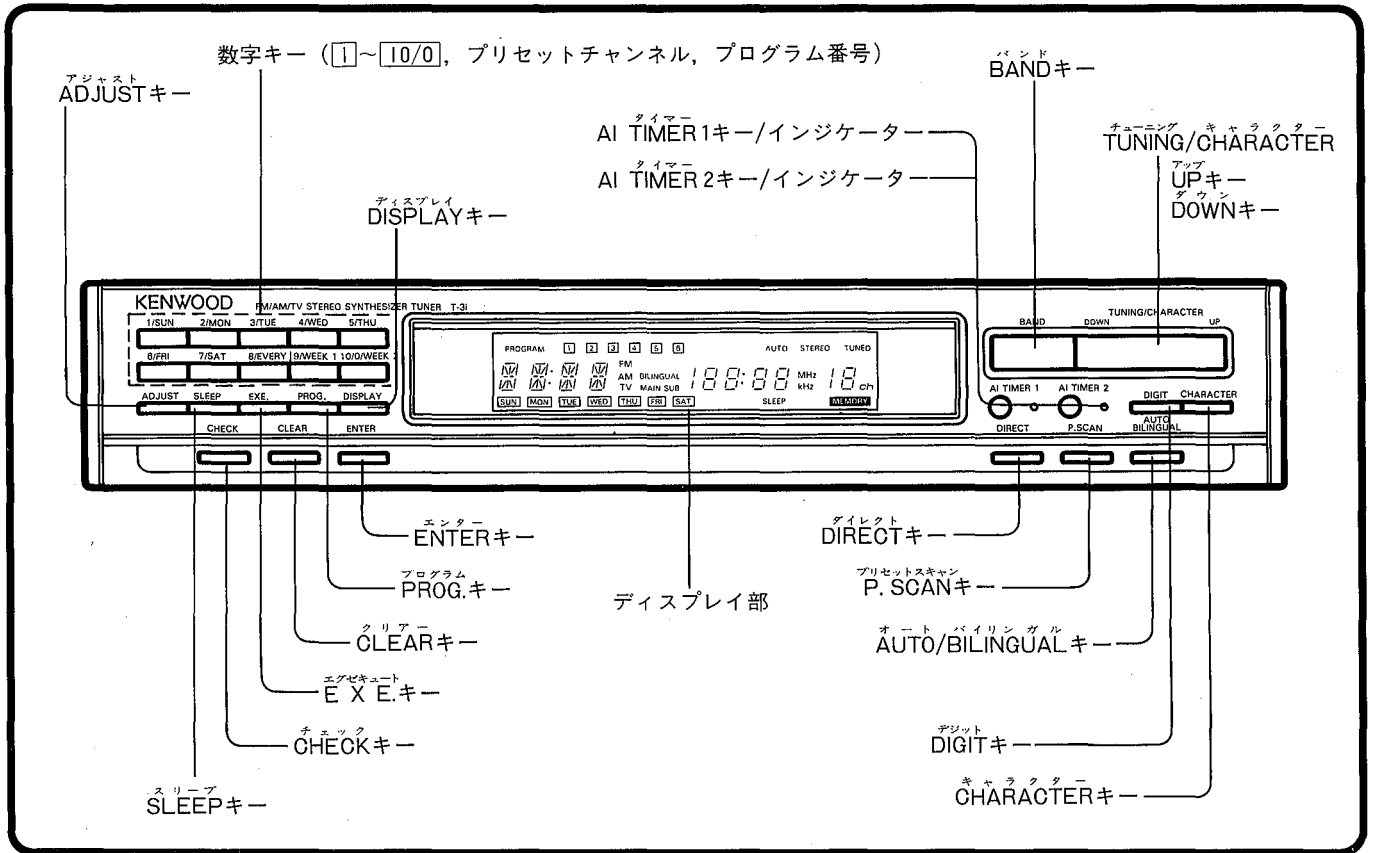
点滅! 時刻合わせは、53ページをお読みください。



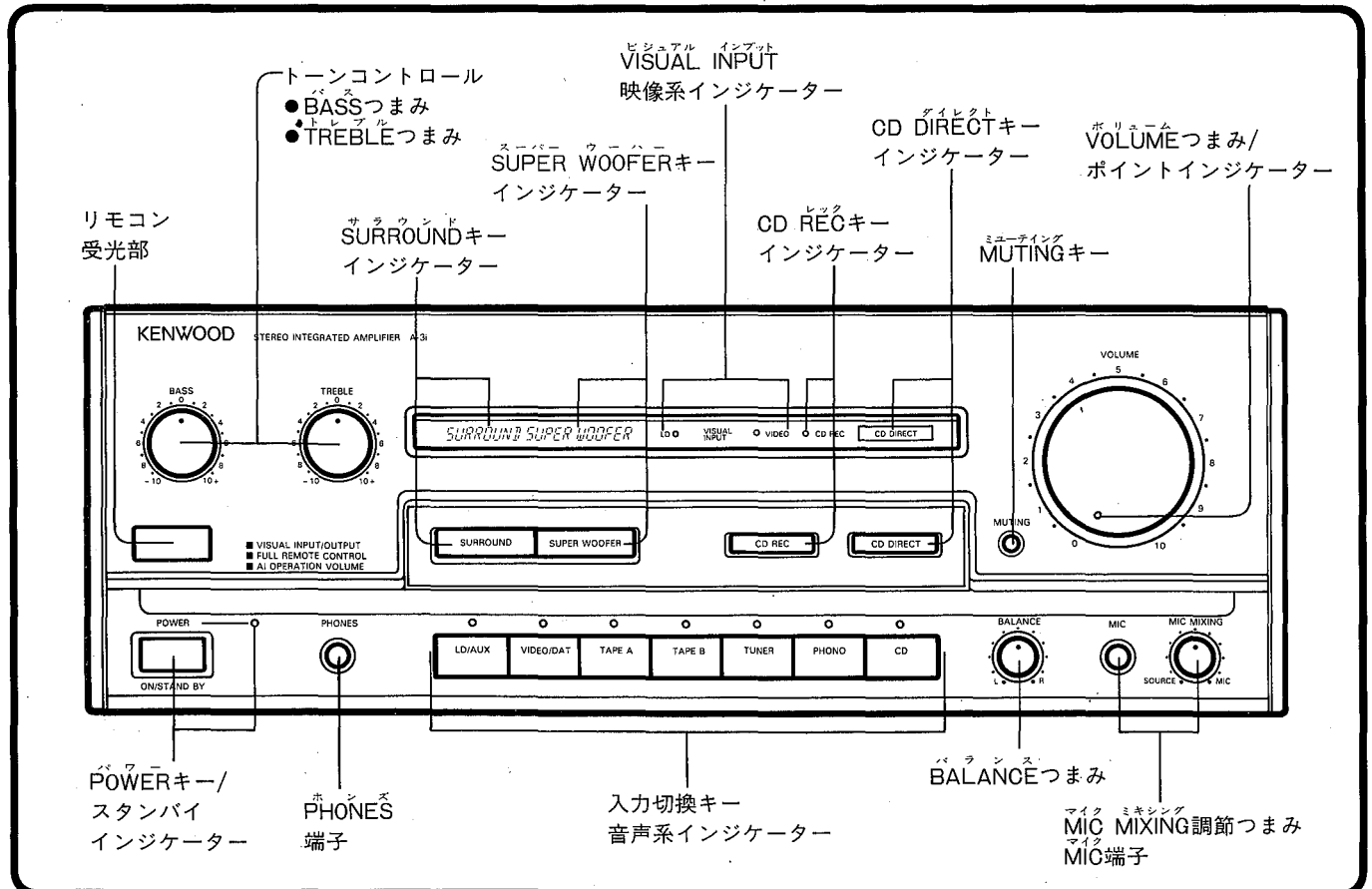
	放送をきくとき	テープをきくとき	CDをきくとき
1	<p>チューナーを選ぶ</p> <p>TUNER ② または BAND ① を押す</p>	<p>テープをAデッキに入れる</p>	<p>ディスクをトレイに入れる</p>
2	<p>放送局を選ぶ</p> <p>TUNINGのUP, DOWN ③ を押す。</p>	<p>再生する</p> <p>TAPE A ⑤ を押す。または再生キー ⑥ を押す。</p>	<p>再生する</p> <p>CD ⑦ を押す。またはプレイ/ポーズキー ⑧ を押す。</p>
3	<p>音量を調節する</p> <ul style="list-style-type: none"> ● VOLUMEつまみ ④ をまわして、音の大きさを決めます。 ● 音が出ない場合は6ページ以降の接続のしかたを、もう一度確認してください。 		

各部の名称

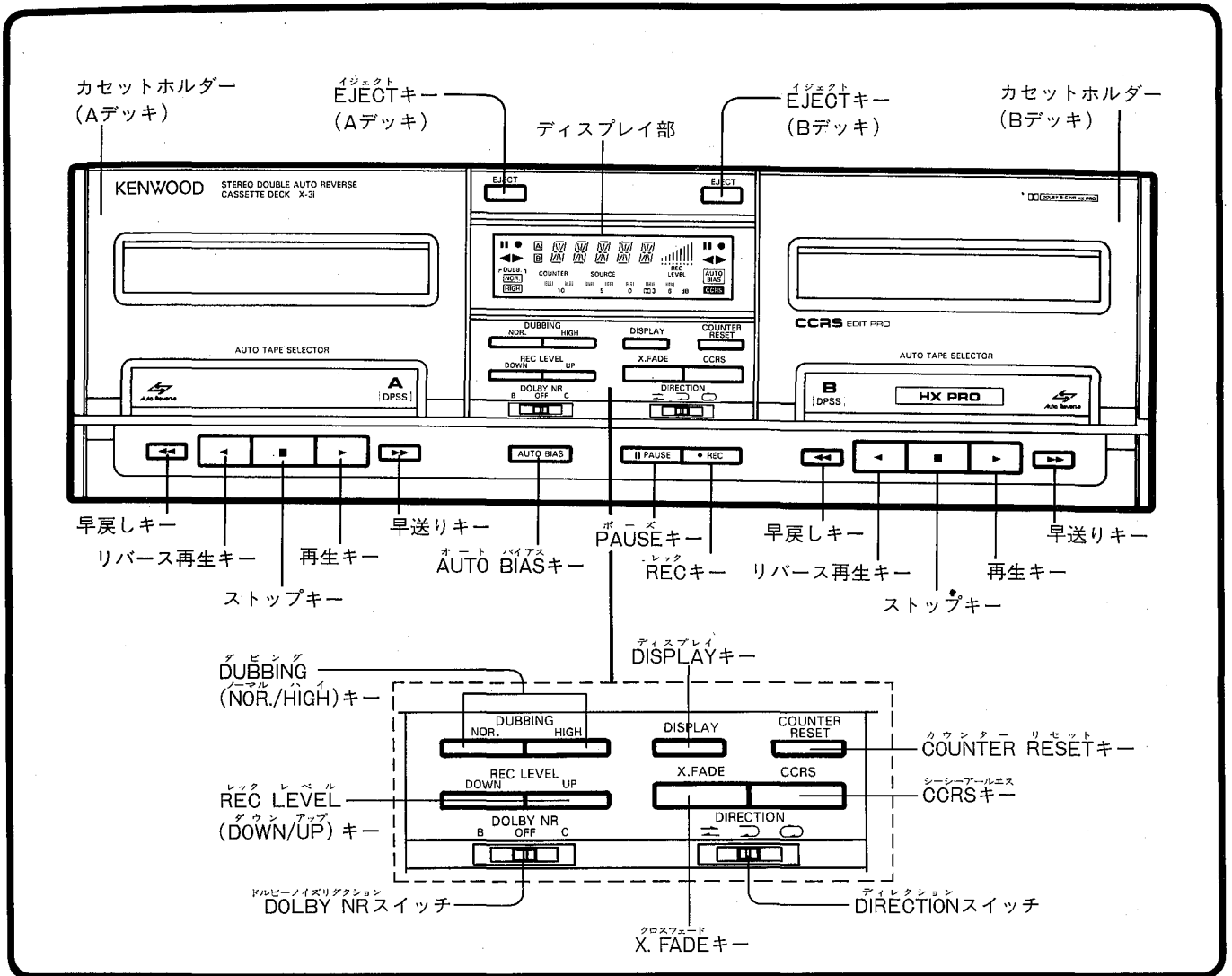
チューナー部



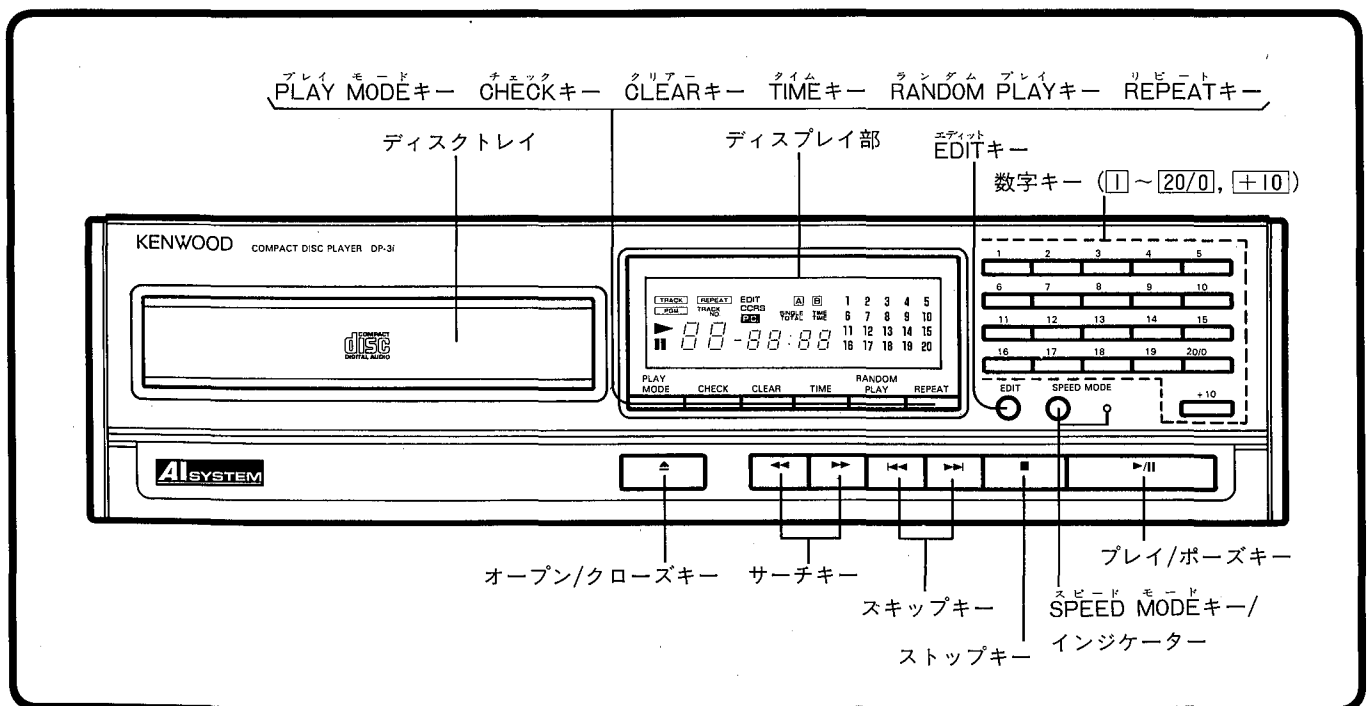
アンプ部



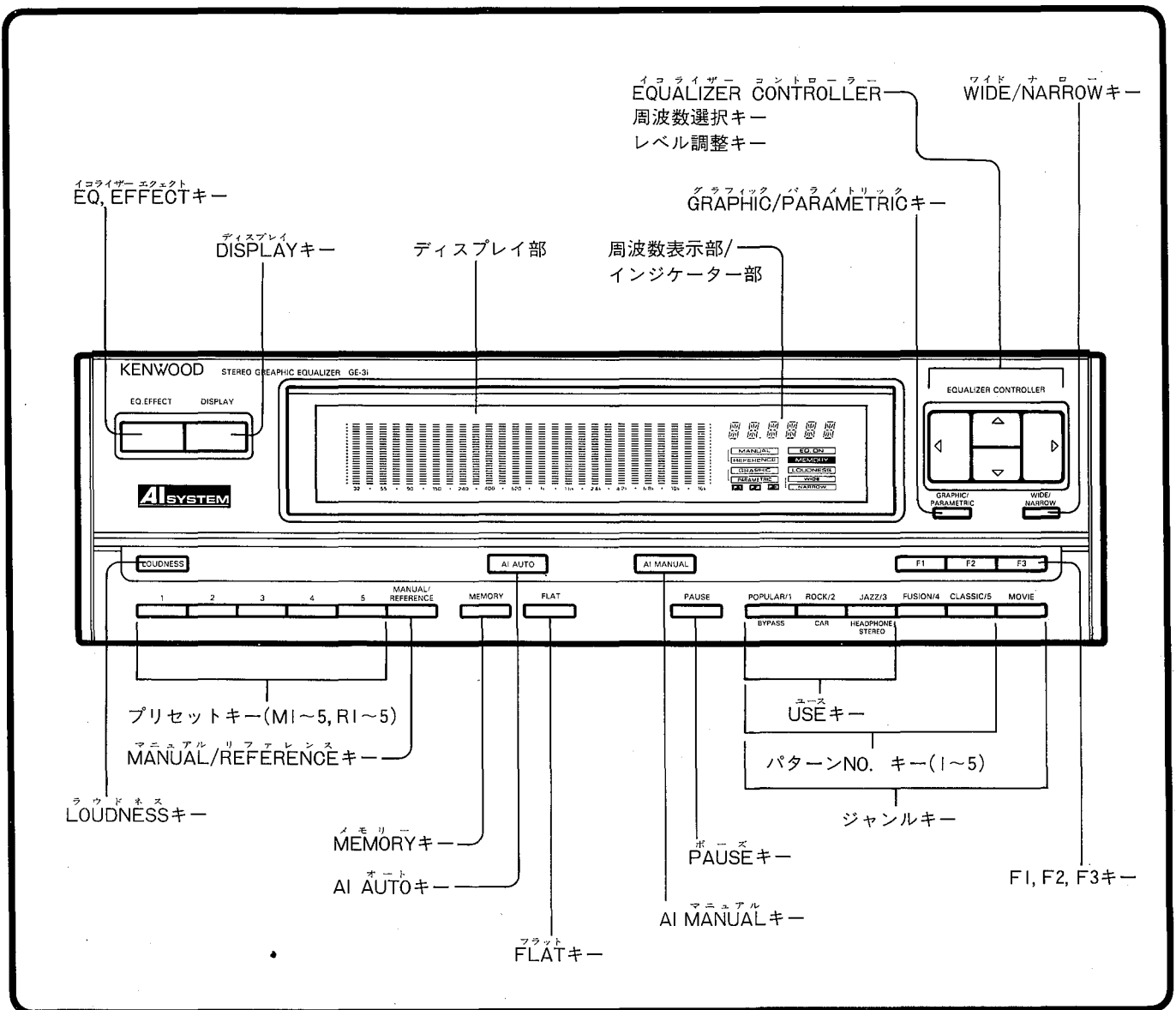
カセットデッキ部



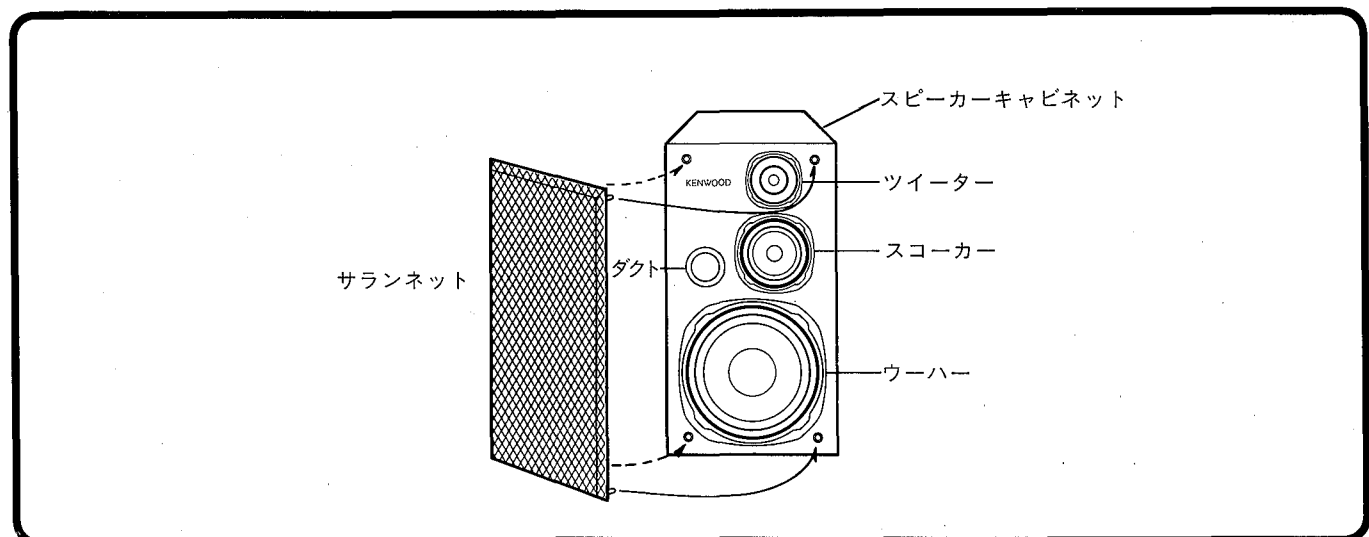
CDプレーヤー部



グラフィックイコライザー部

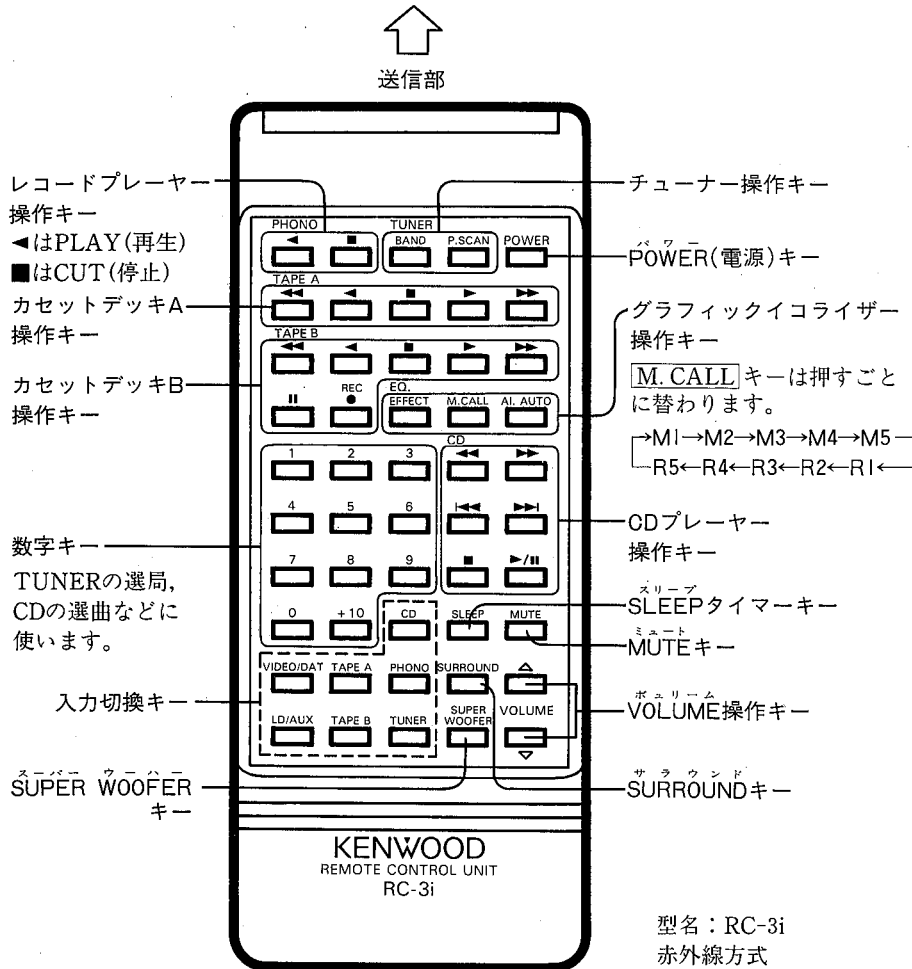


スピーカー部

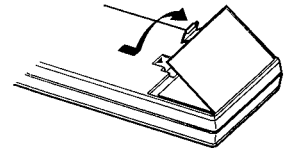


リモコンの使いかた

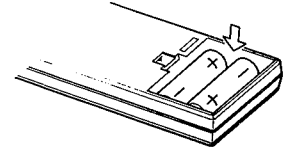
■電池の入れかた



1 ふたを開ける

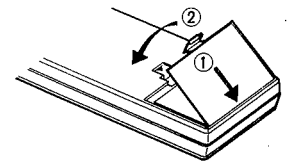


2 電池を入れる



単3乾電池(R6/SUM-3) 2個を極性マークに従って入れる。

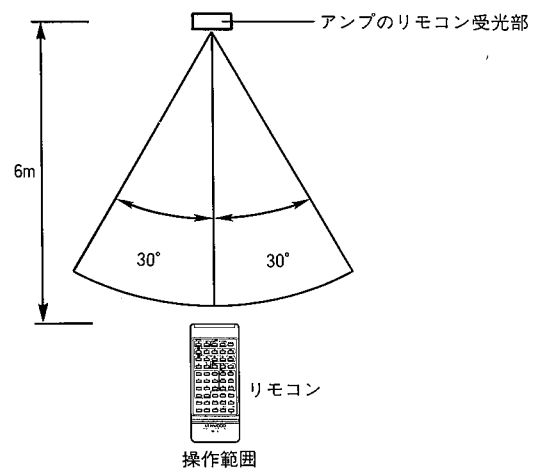
3 ふたを閉める



■操作のしかた

アンプの電源プラグをコンセントに差し込み、リモコンの**POWER**キーを押すと、電源がONになります。電源がONになったら、操作したい機器のキーを押します。

- リモコンの各操作キーを押してから次の操作キーを押すときは、約1秒以上の間隔をあけて確実に押してください。
- レコードプレーヤーなど当社の製品でシステムコントロールコードでつながっている機器も操作ができます。その場合、レコードプレーヤーの取扱説明書を参照してください。



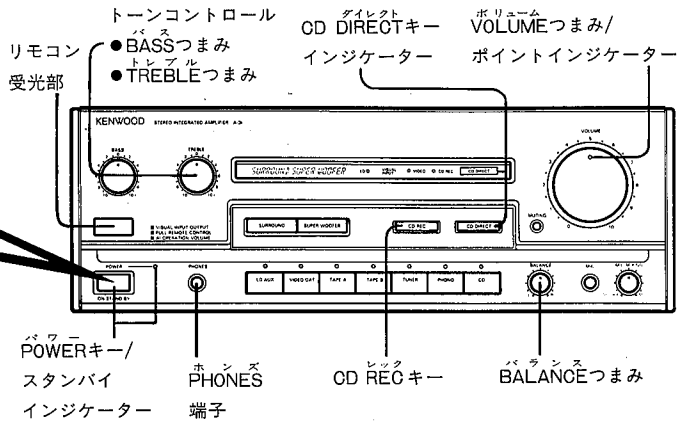
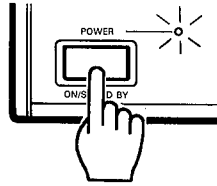
ご注意：

1. 付属の乾電池は、動作チェック用のため、寿命が短いことがあります。ご了承ください。
2. 操作できる距離が短くなったら、2個とも新しい電池と交換してください。
3. リモコン受光部に直射日光や高周波点灯（インバーター方式等）の蛍光灯の光が当たると、正しく動作しないことがあります。このような場合、誤動作を避けるために設置場所を変えてください。

アンプの操作

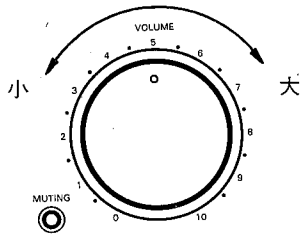
アンプの電源スイッチ (POWER) を押す。

- アンプのPOWERキーだけで基本システムの電源ON/OFFができます。

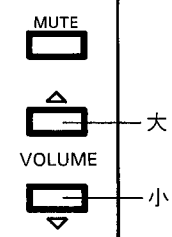


■音量を調節する

音量



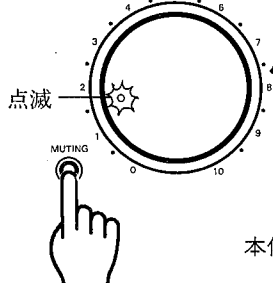
本体



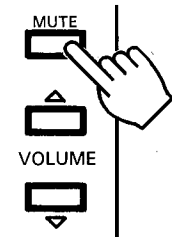
リモコン

- リモコンで調節すると、キーを押している間、VOLUMEつまみのポイントインジケーターが点滅しながら回転します。

一時的に音を消したいとき



本体



リモコン

- もう一度押すと、元の音量に戻ります。

■左右の音量バランスを調節する

バランス



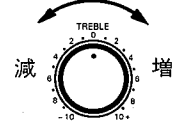
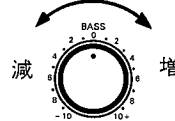
右側の音が小さくなる

左側の音が小さくなる

■音質調節

低音

高音



グラフィックイコライザーを使用するときは、24ページ以降をお読みください。

POWERキーのSTAND-BYについて

本機では電源プラグをコンセントに接続すると、電源ON/OFFに関係なくスタンバイインジケーターが点灯します。これは電源OFF時にも、メモリーの保護、およびタイマーを機能させるため、微弱な通電を行っているためです。これをスタンバイ状態といいます。スタンバイインジケーターが点灯しているとき、リモコン操作によっても電源のON/OFFができます。

アンプの入力切換とイージーオペレーション機能について

アンプの入力切換キー (TAPE A, TAPE B, TUNER, CD, PHONO) を押すだけで、選んだ機器が再生を始めます。逆に、ソースになる機器を再生させると、入力切換インジケーターが自動的にその機器に切り換わります。

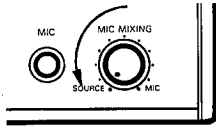
リモコンでも操作できます。

なお、電源を入れたときは、電源を切る前にきいていた入力ソース (TUNER, CDなど) になります。

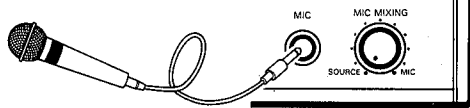
■マイクミキシング

本機は、マイクを通して、ソース（放送、テープ、CD、レコード）に合わせて歌ったり、話したりできます。

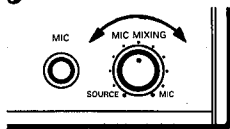
- 1 MIC MIXINGつまみをSOURCEの位置にする



- 2 マイクのプラグをMIC端子に差し込む



- 3 マイクとソースの音量のバランスを調節する



ご注意：

1. マイクを使用しないときはSOURCE側においてください。
2. テープの再生音とミキシングした音は、録音できません。
3. CD REC中は、マイクミキシングはできません。

■マイクだけの録音のしかた

- 1 CDプレーヤーからディスクを取り出し、アンプの入力切換キーをCDにする

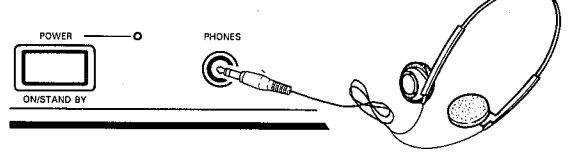
- 2 MIC MIXINGつまみをMIC側にする

- 3 カセットデッキのBデッキのRECキーを押し、録音状態にする

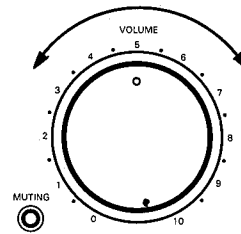
“CD RECキーの使いかた”については51ページをお読みください。

■ヘッドホンできく

- 1 ヘッドホンのプラグをPHONES端子に差し込む



- 2 音量を調節する

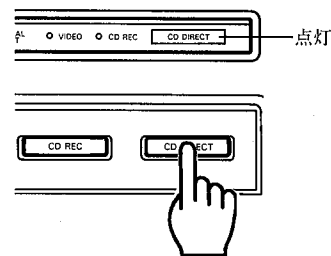


■CD DIRECTキーの使いかた

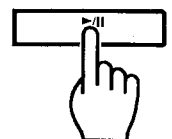
CDは理想的な再生条件をそなえています。その音質をなるべく損なわないように再生するのが「CD DIRECT」キーです。

CD DIRECT ON時は、トーンコントロール、グラフィックイコライザーは働きません。

- 1 CD DIRECTキーを押す



- 2 CDプレーヤーを再生する



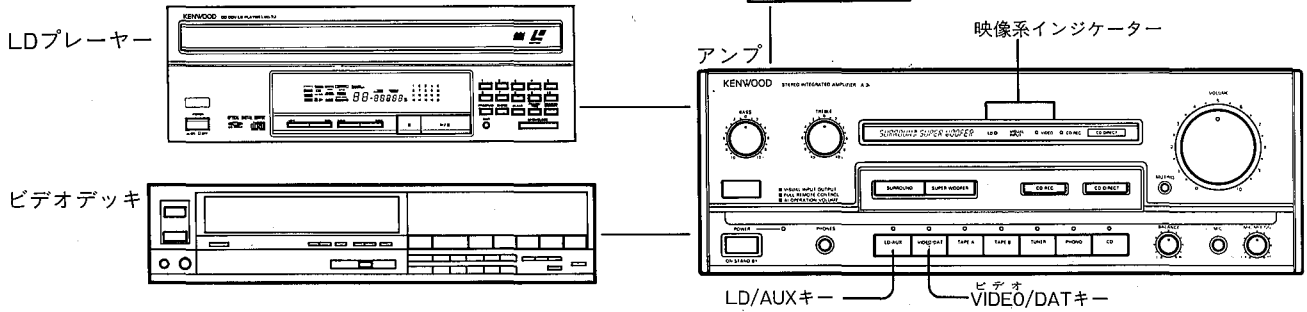
- 入力切換キーの選ばれた位置に関係なく「CD DIRECT」キーが優先されます。

解除するとき

再度「CD DIRECT」キーを押すか、CD以外の入力切換キーを押します。

映像機器を使用するには

各AV機器との接続は10ページをお読みください。
 接続や操作については、接続する映像機器の取扱説明書をあわせてよくお読みください。



■ビデオ再生のしかた

- 1 モニターTVの電源を入れる
- 2 アンプ部の入力切換キーのVIDEO/DATを押す
- 3 ビデオデッキを再生する

■ビデオ録画のしかた

- 1 アンプのLD/AUX端子に、録画したい機器を接続する
 - ビデオ再生デッキ、ビデオカメラ、LDプレーヤー、BSチューナなどが接続できます。
- 2 アンプ部の入力切換キーのLD/AUXを押す
- 3 録画したい機器を再生する
- 4 ビデオデッキを録画状態にする

■ビデオやLDを見ながら、CDやテープを聞くには

- 1 見たい映像機器を選ぶ
- 2 聞きたいオーディオソースを選ぶ
 - 見ている映像はそのまま、オーディオ系の音声だけが切り換わります。
- 3 選んだ映像機器およびオーディオ機器を再生する

ご注意：
 ビデオ録画のときは、GE-3iのラウドネスを解除してください。(26ページ参照)

サラウンドとスーパーウーハーの使いかた

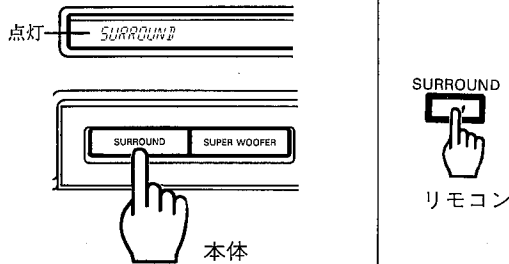
■サラウンド再生のしかた

別売サラウンドスピーカーを接続し、本機の **SURROUND** キーをONにすると、音場拡大効果が得られます。

なお、音楽ソースによってはサラウンドスピーカーからの音量が、小さいことがあります。

モノラルソースではサラウンド効果は得られません。

SURROUNDキーを押す

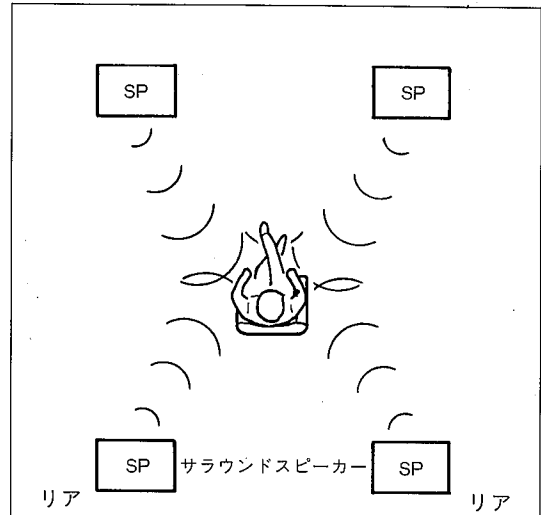


- もう一度押すと、通常の音に戻ります。

スピーカーの配置について

サラウンドスピーカーの配置は、部屋の大きさや、残響特性などにより、いろいろな置きかたが考えられます。

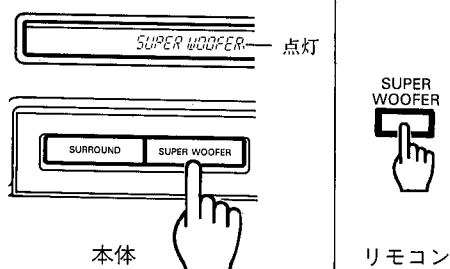
ここに示した配置例は、サラウンド効果をより効果的に楽しむためのお勧めの代表的なものです。これ以外にもいろいろな配置がありますので、お好みに合わせてセットしてください。



■スーパーウーハー効果を 楽しむには

別売KENWOODスーパーウーハーを接続すると、臨場感のある重低音が楽しめます。

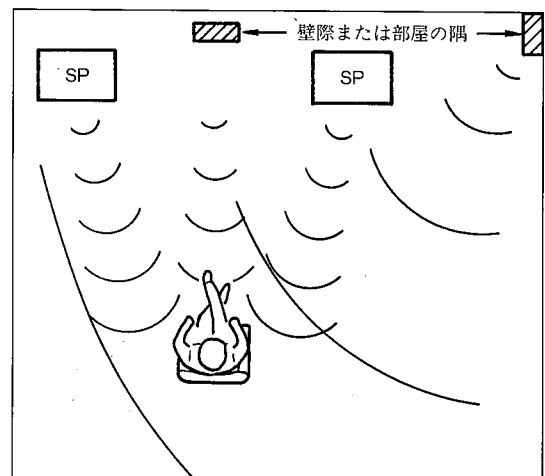
SUPER WOOFERキーを押す



- サラウンドスピーカーと同時に併用すると一層の効果を楽しむことができます。
- スーパーウーハーの音量は別売スーパーウーハーのLEVELつまみでお好みのバランスに調整します。
- アンプ部のVOLUMEつまみでスーパーウーハー、サラウンドスピーカーも含め同時に全体の音量調節ができます。
- 詳しくは別売スーパーウーハーの取扱説明書をお読みください。

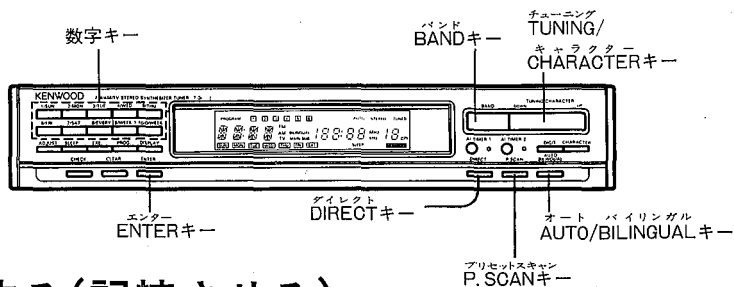
スーパーウーハーの配置について

スーパーウーハーの再生周波数は120Hz以下に設定されているため、重低音の方向感覚がなく、部屋のどこにでも置くことができます。重低音が広がりやすい、硬い壁際か、部屋の隅などが理想的です。



チューナーの使いかた

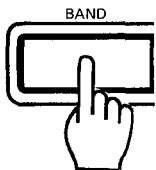
時刻合わせは、53ページをお読みください。



■放送を受信し、プリセットする(記憶させる)

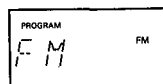
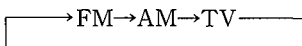
あらかじめ放送局を記憶させておくことをプリセットといいます。
FM, AM, TVそれぞれバンドごとに、10局まで記憶できます。

1 放送バンドを選ぶ

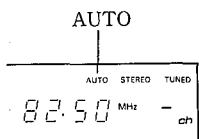
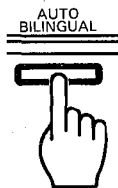


BANDキーを押すごとに切り換わります。

FMを選んだ例



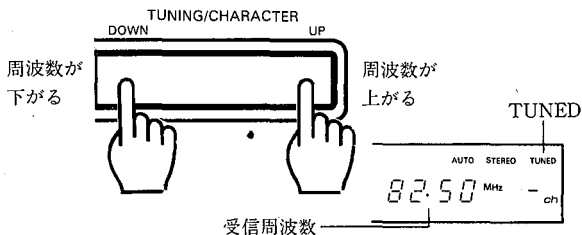
2 選局モードを選ぶ



押すごとにAUTOが点灯⇔消灯する。
(通常は点灯させておきます)。

	オート選局のとき	マニュアル選局のとき
AUTO表示	点灯	消灯
受信モード (FMのとき)	ステレオ⇔モノラル (自動切換)	モノラル
選びかた	通常のとき	電波が弱く雑音が多いとき

3 希望する放送局を受信する



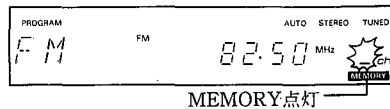
	オート選局のとき	マニュアル選局のとき
	一回押す (放送局を受信すると自動的に止まる。)	希望局を受信するまで繰り返し押す。または、押し続ける。
放送局を受信するとTUNEDが点灯する。		

4 放送局を記憶させる

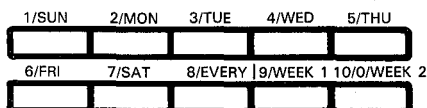
① ENTERキーを押す



●受信周波数が表示しているうちに押します。

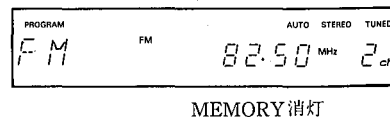


② 数字キーに記憶させる



MEMORYが点灯しているうちに押す。

●すでにプリセットされている数字キーを押したときは、新しいプリセット内容に変わります。

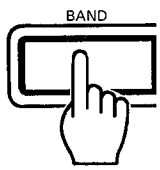


5 他にプリセットしたい局があれば手順1～5を繰り返す

●FM, AM, TVそれぞれのバンドごとに、10局(数字キー①～⑩/O)まで放送局を記憶させることができます。


■プリセットした局を受信する

1 放送バンドを選ぶ
FM, AM, TVのいずれか



2 希望する放送局を選ぶ
プリセットされている数字キーを押す

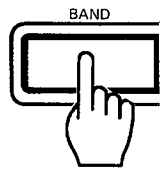
1/SUN	2/MON	3/TUE	4/WED	5/THU
6/FRI	7/SAT	8/EVERY	9/WEEK 1	10/O/WEEK 2




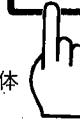
●受信した放送局の周波数、TVチャンネルを表示します。

■プリセットした局を順に きく(プリセットスキャン)

1 放送バンドを選ぶ
FM, AM, TVのいずれか



2 P.SCANキーを押す

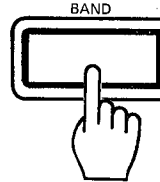
リモコン  または 本体 

- プリセットされている放送局を5秒間ずつ受信します。
- もう一度[P.SCAN]キーを押すと、そのときの放送局をそのまま受信します。
- TUNEDが点灯しないときは1秒間ずつ切り換わります。


■ダイレクト選局のしかた

放送局の周波数がわかっているとき、数字キーを使って直接受信することができます。

1 放送バンドを選ぶ
FM, AM, TVのいずれか



2 DIRECTキーを押す



3 希望する周波数またはTVチャンネルを数字キーで入力する

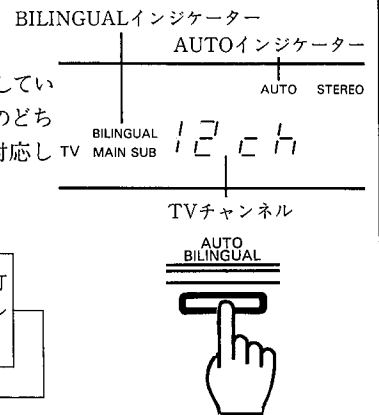
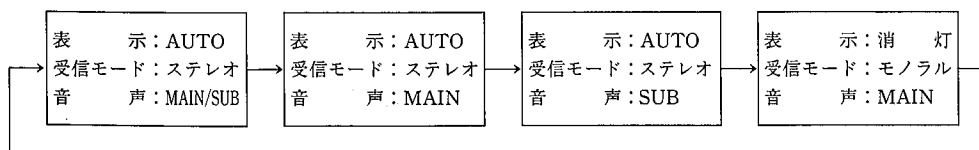
例

希望局	数字キーの押す順序
AM 810kHz	[8], [1], [0]
AM 1242kHz	[1], [2], [4], [2]
FM 80MHz	[8], [0], [0]
FM 82.5MHz	[8], [2], [5]
TV 1チャンネル	[0], [1]
TV 8チャンネル	[0], [8]
TV 12チャンネル	[1], [2]

TVの音声多重放送について

ディスプレイに、BILINGUALが点灯したときは、TVの音声多重放送(2ヶ国語放送)を受信しています。[AUTO/BILINGUAL]キーを押して、MAIN主音声(日本語)、SUB副音声(外国語等)のどちらかききたいほうを選んでください。AUTO点灯時は、ステレオ/モノラルが、放送内容に対応して自動的に切り換わります。

[AUTO/BILINGUAL]キーを押すごとに、モードはこのように切り換わります。



ご注意:

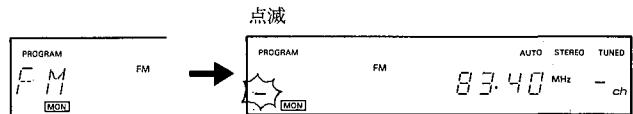
1. 本機でTVの音声を受信するとき、ビート(縞)発生を避けるため、ご覧になるチャンネルと同じにしてお使いください。
2. 本機のチューナーには映像出力はありません。

■放送局名を表示させるには

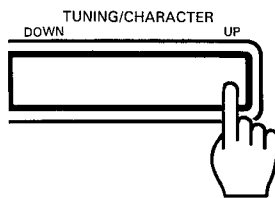
文字や記号などを最大4けたまで表示できます。

例：FM83.4MHzを受信し，“CBE”と文字を入力し，数字キーの**3**にプリセットする場合。

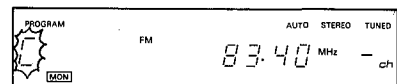
1 FM83.4MHzを受信し，CHARACTERキーを押す



2 TUNING/CHARACTERキーで，表示したい文字を選ぶ



例：“C”のときはUP側を3回押す。

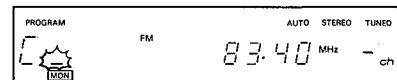


押すごとに文字が変わる（文字の種類は下表参照）。

3 DIGITキーを押す

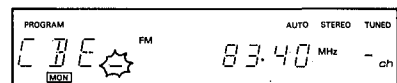


点滅が次のけたに移る



4 手順2，3を繰り返す

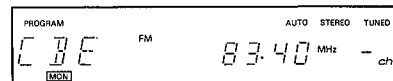
- スペースのときは，もう一度DIGITキーを押します。
- 途中でまちがえたときは，CLEARキーを押し，1けた目からやり直します。



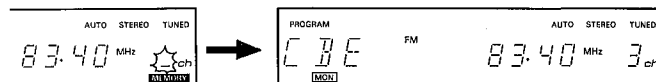
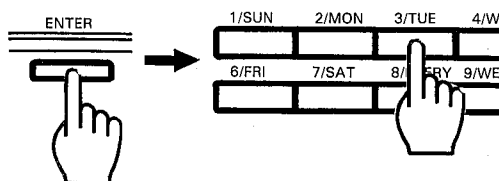
5 CHARACTERキーを押す



文字等の点滅が点灯に変わり，入力が確認される



6 ENTERキーを押し，5秒以内に数字キーの**3**に記憶させる



5秒間点灯

MEMORY消灯
(プリセット終了)

TUNING/CHARACTERキーを押すごとに，
表示文字は図の順で変わります。
DOWN側を押すと逆の順に変わります。

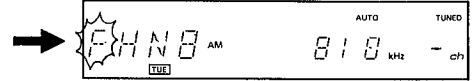
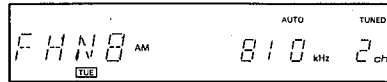
← DOWN側 UP側 →

A B C D.....X Y Z _ * + - / 0 1 2 3..... 9
 ↳ ブランク（1文字分の空白スペース）

■放送局名を変更するには

例：AMの[2]にメモリーされている，“FHN 8”というAM810kHzの局名を“FEN”に変更する場合。

1 AMの[2]をプリセット選局し、CHARACTERキーを押す



2 カーソル(点滅)を次のけたに移す

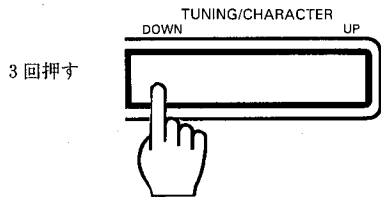


1 回押す

点滅が次のけたに移る



3 TUNING/CHARACTERキーで，“E”を選ぶ



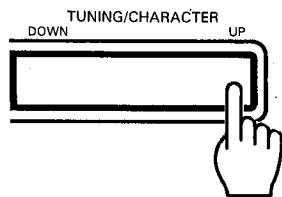
3 回押す



4 DIGITキーを2回押して、点滅を2けた移す



5 TUNING/CHARACTERキーで、ブランクを選ぶ



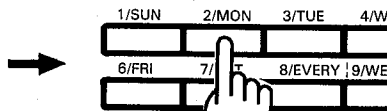
2 回押す



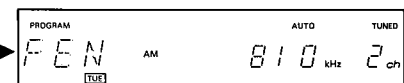
6 CHARACTERキーを押す



7 ENTERキーを押してから、5秒以内に数字キーの[2]を押す



5秒間点灯



変更終了

グラフィックイコライザーの使いかた

本機は27バンド表示の本格的なグラフィックイコライザーです。周波数(14ポイント)の細かな調整で、リスニングルームの音響補正ができるだけでなく、次のようなAI(人工知能)機能により、ミュージックソースにあった音質で楽しむことができます。

1. AI-AUTO (CD再生専用)

CDの録音内容を自動的に確認し、そのCDに適したイコライザーパターンが自動的に設定されます。簡単にCDの再生イコライザーパターンを選択したいときにお使いください。

2. MANUAL/REFERENCEモード

REFERENCE: 5つのプリセットパターンが登録されています。

MANUAL: 同じく5つのプリセットパターンが登録されていますが、このモードでは、自分で作ったイコライザーパターンを登録(記憶)することもできます。

それぞれ数字キーで簡単にイコライザーパターンを呼び出したり、登録するときに便利です。

3. AI-MANUAL (すべての入力ソースが対象)

6種類の音楽ジャンルに5種類の推奨音質パターンを組み合わせて、合計30種類の再生パターンがあらかじめ登録されており、音をきき比べながら簡単に選ぶことができます。同様にして、30種類のカーステレオ用録音パターン、30種類のヘッドホンステレオ用録音パターンが簡単に選べます。

音楽ジャンルや再生・録音の目的に応じてイコライザーパターンを選択してご使用ください。

4. GRAPHIC/PARAMETRICモード

PARAMETRIC: イコライザーカーブを低域・中域・高域ごとに手軽に調整できます。

GRAPHIC: イコライザーカーブを周波数ごとに細かく調整できます。あらかじめPARAMETRICモードで作ったカーブを利用して、更に細かく調整することもできます。このモードは、音響補正をより詳細に調整したいときにお使いください。

5. AI-ラウドネスコントロール

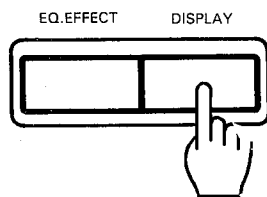
小音量時に効果的な、低域と高域増強のカーブが表示され、音が変化します。

■デモンストレーションのしかた

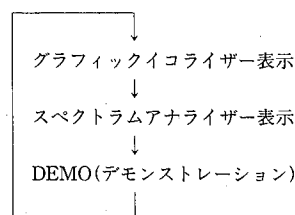
上記のイコライザー機能をよく理解して頂くために、各機能ごとにその代表パターンが表示され、個々のイコライザー効果が体験できます。

1 音楽ソースを再生する

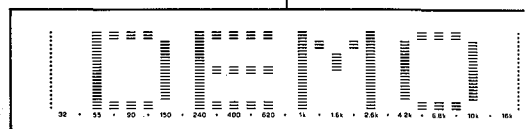
2 “DEMO”の表示にする



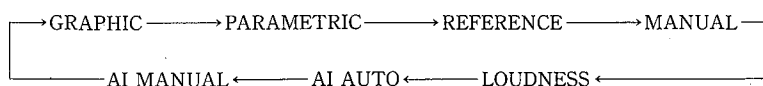
[DISPLAY] キーを押すごとにモードが変わります。



ディスプレイ部



● 次の順番でデモンストレーションが繰り返し行われます。(一周約5分)

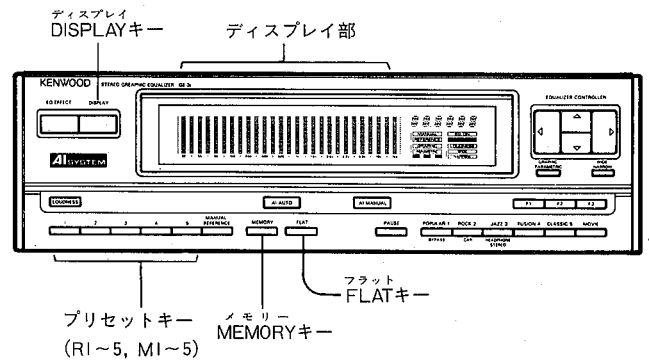


● デモンストレーションを止めるときは、[DISPLAY] キーを再度押します。

アンプの **CD REC** キーがON(インジケータ点灯)のとき、スピーカーから出る音には、イコライザー効果がかかりません。CD RECキーを使わないときは、必ずOFF(インジケータ消灯)にしてください。

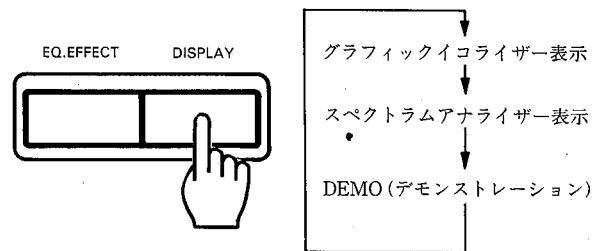
また、CD RECキーをONにしたあとは、グラフィックイコライザーの下記のキーは働きません。

1. **AI AUTO** キー
2. **AI MANUAL** キー
3. **DISPLAY** キーのDEMO表示



ディスプレイについて

DISPLAY キーを押すごとに、表示モードが順に切り替わります。

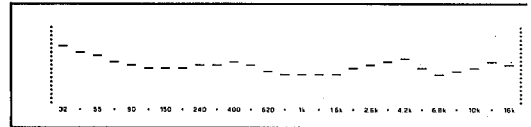


グラフィックイコライザー表示

各周波数が、どのように補正されているかを表示します。スペクトラムアナライザー表示のときにも、以下の操作をしたときだけ、約5秒間、グラフィックイコライザー表示に変わります。

1. 電源を入れたとき
2. その他、イコライザー操作に関連するキーを押したとき。

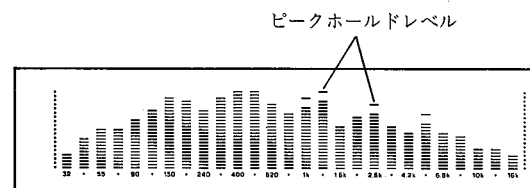
グラフィックイコライザー表示



スペクトラムアナライザー表示

再生中のソースの周波数分布を、一目でわかるように表示します。各周波数ごとに变化しているレベルのピーク値が、約0.5秒間保持されます。

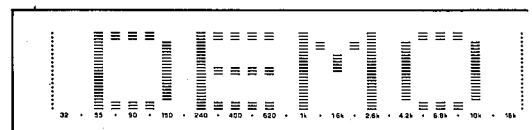
スペクトラムアナライザー表示

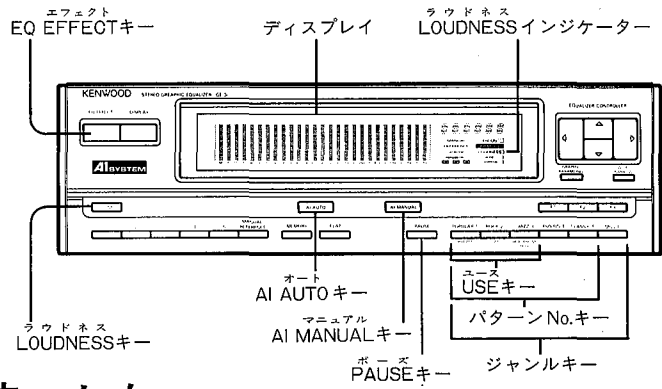


文字表示

ディスプレイキーに関係なく、操作内容によって英語による案内が表示されます。

例: DEMO, AI AUTO, AI MANUAL, GENRE, USE…………等。





■ AI AUTO (CD再生専用) の使いかた

AI AUTOキーを押すだけで、CDに合わせてイコライザーパターンが自動的に設定されます。

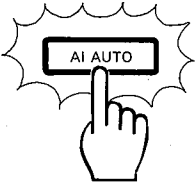
1 CDをセットする

(34ページ手順2参照)

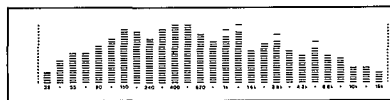


2 AI AUTOキーを押す

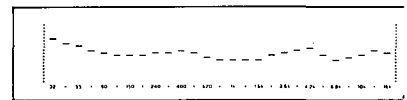
点滅



スペクトラムアナライザー表示



イコライザーパターン表示



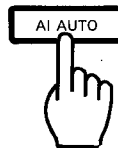
●CDは自動的にスタートし、音楽ソースのサンプリング分析が終了すると一時停止する。



- AI AUTOキーを押してから約40秒後にCDの再生が始まる。
- EQ.EFFECTキーは自動的にONになる。
- AI AUTOキーは点滅から点灯に変わる。

AI AUTOを解除するには

再度キーを押す



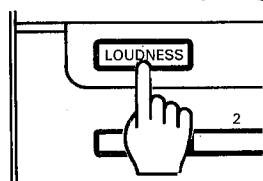
消灯

●CDプレーヤーの▲キーを押したときも解除されます。

■ AI ラウドネスコントロール

音量が小さいときの低音と高音不足を自動的に補います。

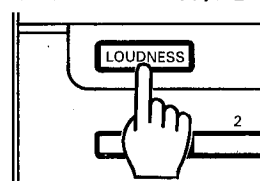
LOUDNESSキーを押す



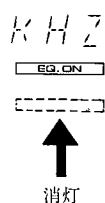
インジケーター点灯

- アンプのボリューム位置に対応したラウドネスカーブが選択され、表示されます。現在設定されているイコライザーパターンと、合成された音質になります。

ラウドネス効果を解除するには



再度キーを押す



消灯



- 18ページのビデオ録画のときは、ラウドネスを解除してください。

■ AI MANUALの使いかた

音楽ジャンルや、音質パターン、使用目的に合わせて、90通り(6ジャンル×5パターン×3使用目的=90)のイコライザーパターンが3段階で選べます。

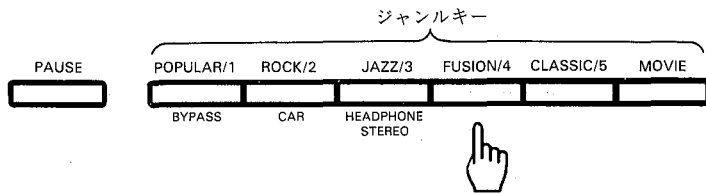
1 音楽ソースを再生する

2 AI MANUALモードにする

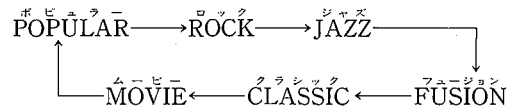
点滅  → 

●音楽ソースのサンプリングが開始され、約30秒後、“^{ジャンル}GENRE”の文字が表示され、**EQ.ON**が点灯します。

3 音楽ジャンルを選ぶ

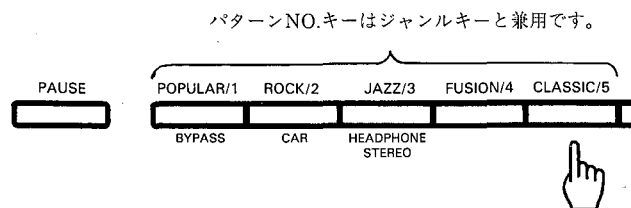


音楽ジャンルを選択するまでの間、ジャンル別パターンが(約7秒間)順次表示され、音質が変わります。

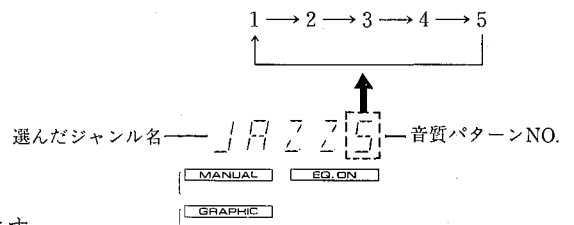


手順3または4で**PAUSE**キーを押すと、イコライザーパターンの繰り返しが止まり、そのときの音質が、確認できます。また、再度**PAUSE**キーを押すと繰り返しが再開されます。

4 お好みの音質パターンを選ぶ

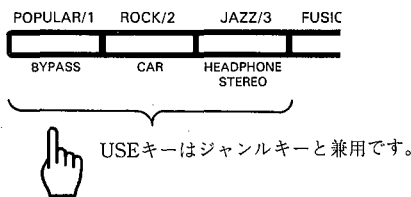


音質パターンを選択するまでの間、手順3で選んだジャンルの推奨音質パターンが順次表示され、音質が変わります。(5パターン)



●音質パターン選択後、ディスプレイに“USE”の文字が表示されます。

5 使用目的を選ぶ



USEキーの主な使用目的

- BYPASSキー： 通常の再生録音用
- CARキー： カーステレオ録音用
- HEAD PHONE
- STEREOキー： ヘッドホンステレオ録音用

カーステレオ用、ヘッドホンステレオ用はさらにそれぞれの録音専用カーブとして合成され、表示されます。イコライザー効果をかけた録音のしかたについては32ページ参照。

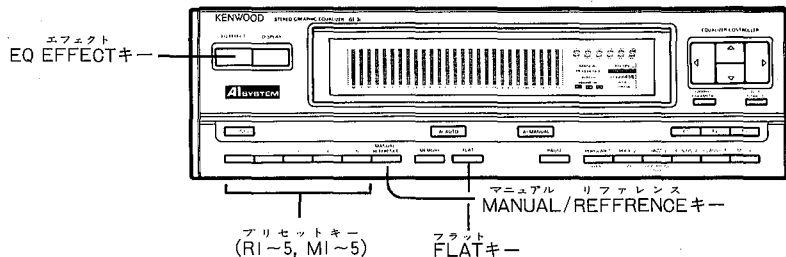
AI MANUAL キーが点滅から点灯に変わる

AI MANUALを解除するには

再度キーを押す



消灯



MANUAL/REFERENCEの使いかた

10通りのイコライザーパターンを手軽に呼び出すことができます。

REFERENCEモードのイコライザーパターンは、倍速録音時に、自動的に対応してカーブが変わります。

MANUALモードのイコライザーパターンは、主にサラウンド用(M1~M3)、カーステレオ、ヘッドホンステレオ用として、ご使用ください。

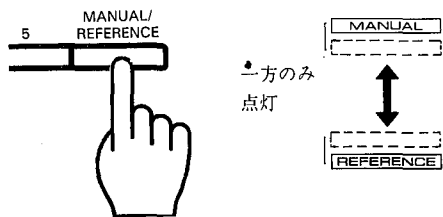
1 音楽ソースを再生する

2 EQ. EFFECT キーを押す



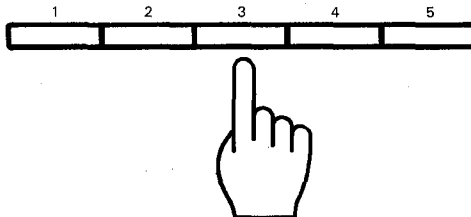
3 イコライザーパターンを選ぶ

① MANUAL または REFERENCE にする

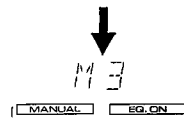


(イコライザーパターン一覧表参照)

② お好みのパターンを選ぶ



MANUALモードで
"3"を選んだ表示例



REFERENCEモードで
"4"を選んだ表示例



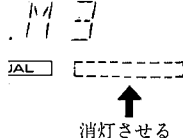
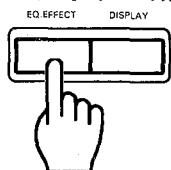
リモコンでも操作できます



M.CALL キーを押すごとに変わる

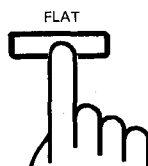
→M1→M2→M3→M4→M5
←R5←R4←R3←R2←R1←

イコライザー効果を解除するには

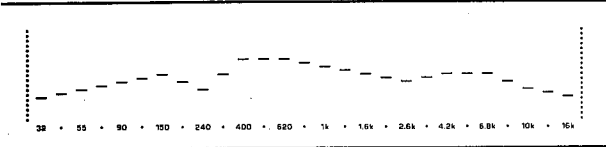
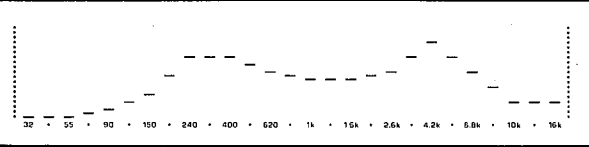
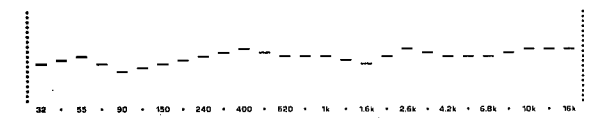
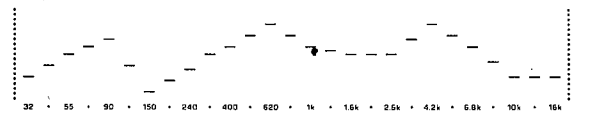
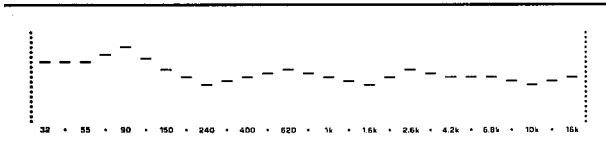
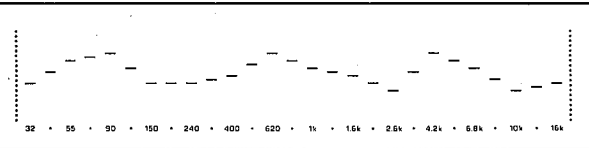
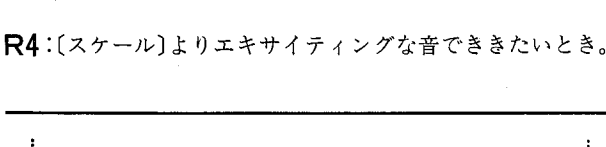
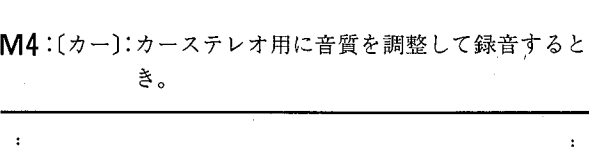
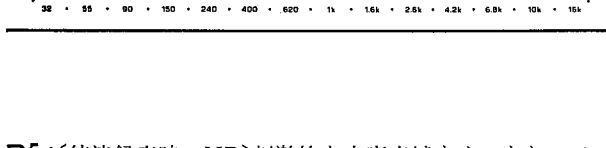
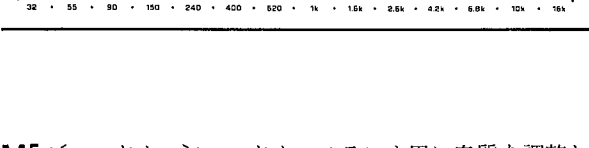


●ディスプレイ上のパターンはそのままです。

●**FLAT** キーを押すと、表示中のカーブがフラット(平坦)になります。これは、どのモードでも同じです。



■イコライザーパターン一覧表

プリセット (R1~R5) イコライザーパターン (REFERENCE) このモードでは倍速録音にも自動的に対応します。	プリセット (M1~M5) イコライザーパターン (MANUAL) このモードではパターンの登録が可能です。
<p>R1 : [ソフト] BGMなど、耳に優しい音ででききたいとき。</p> 	<p>M1 : [サラウンド 1] 広がりのあるソフトなサラウンドででききたいとき。</p> 
<p>R2 : [クリアー] 低域を抑えた、きらめくような音ででききたいとき。</p> 	<p>M2 : [サラウンド 2] より広がりを強調したサラウンドででききたいとき。</p> 
<p>R3 : [ヘビー] ロックやフェージョンのような音楽を、より一層迫力のある音ででききたいとき。</p> 	<p>M3 : [サラウンド 3] 広がりと迫力のあるサラウンドででききたいとき。</p> 
<p>R4 : [スケール] よりエキサイティングな音ででききたいとき。</p> 	<p>M4 : [カー] : カーステレオ用に音質を調整して録音するとき。</p> 
<p>R5 : [倍速録音時のNR] 刺激的中高音域をカットし、ソフトな音ででききたいとき。</p> 	<p>M5 : [ヘッドホン] : ヘッドホンステレオ用に音質を調整して録音するとき。</p> 
<p>倍速録音のときのみ②のパターンになります。再生のときは①のパターンになり、ノイズリダクション機能として利用できます。</p>	<p>● M1~M3を使用のときは、アンプのSURROUNDキーをONにして、お楽しみください。</p>

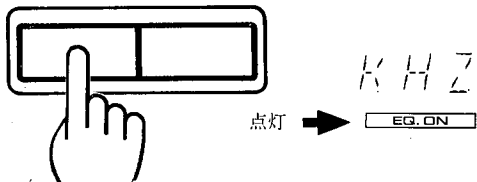
自由にイコライザーパターンを作るには

PARAMETRIC : ある周波数を中心とした音域のカーブが、低域・中域・高域の単位で手軽に作れます。また、調整したカーブの傾斜は、WIDE/NARROW (ゆるやかなカーブ/急なカーブ) のどちらかを選ぶことができます。

GRAPHIC : イコライザーカーブが周波数ごとに調整できます。PARAMETRICで作ったカーブを利用して、更に細かく調整 (音作り) することができます。

■ある周波数を中心とした音域のカーブを調整するには (パラメトリック)

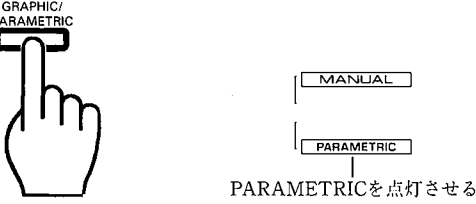
1 EQ.EFFECTキーを押す
EQ.EFFECT DISPLAY



点灯 →

2 パラメトリックモードにする

GRAPHIC/
PARAMETRIC

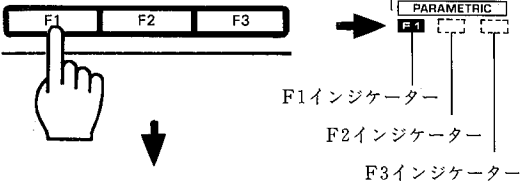


PARAMETRICを点灯させる

3 調整したい中心周波数を選ぶ

①音域を選ぶ

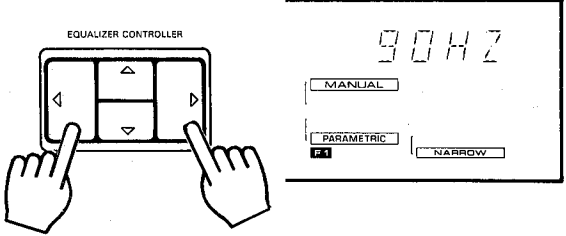
F1 F2 F3



F1インジケーター
F2インジケーター
F3インジケーター

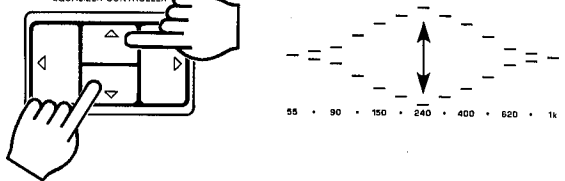
②周波数を選ぶ

EQUALIZER CONTROLLER



MANUAL
PARAMETRIC
F1
NARROW

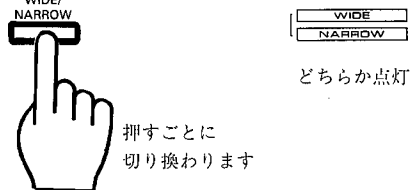
4 レベルを調整する
EQUALIZER CONTROLLER



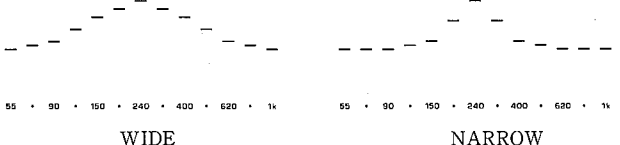
- **FLAT** キーを押すと、フラットの位置から調整することもできます。

5 音域カーブの傾斜を選ぶ

WIDE/
NARROW



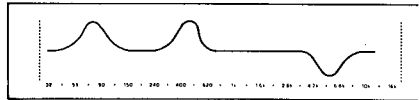
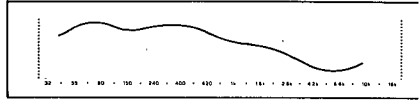
どちらか点灯
押すごとに切り換わります



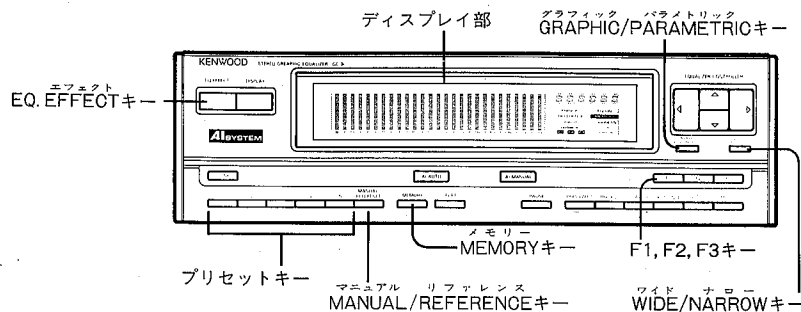
- 1度調整したカーブは、次に調整するときまで残っています。

6 更にF2, F3を調整するときは手順3~5を繰り返す

- 2つまたは3つのカーブが設定されると、数秒後に全体の合成カーブが表示されます。

- 細かく調整 (音作り) をするには、次ページの操作を行います。



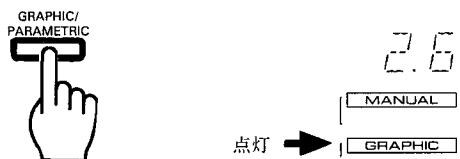
■周波数ごとに細かく調整するには(グラフィック)

■自分で作ったパターンの記憶のしかた

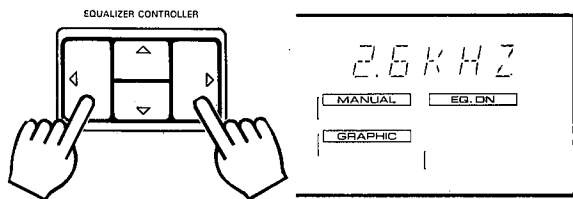
1 EQ.EFFECTキーを押す



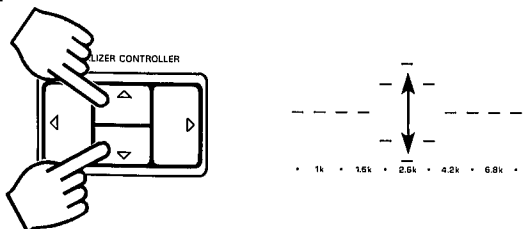
2 グラフィックモードにする



3 調整したい周波数を選ぶ



4 レベルを調整する



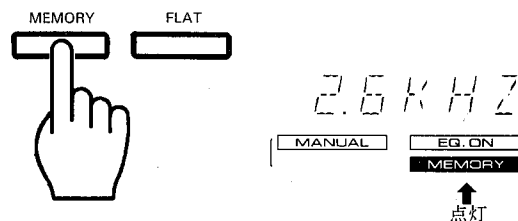
5 他に調整したい周波数があれば、手順3～4を繰り返す

1 好きなイコライザーパターンを作る

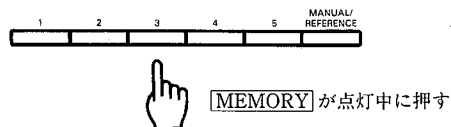
ディスプレイに表示されているイコライザーパターンは、すべて記憶することができます。

2 イコライザーパターンを記憶させる

①MEMORYキーを押す



②プリセットキーを押す



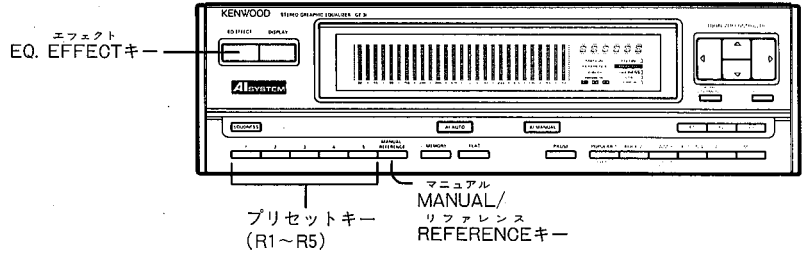
- 押されたNo.の数字キーに記憶されます。
- 同様に、5つまで記憶できます。
- すでに記憶されている数字キーを押したときは、新しい記憶内容に変わります。

自分で作ったパターンを登録したあと、初期設定パターン (29ページのプリセットM1～M5) に戻りたいとき

登録したキーを5秒以上押し続ける

ご注意: 「グラフィック」から「パラメトリック」に切り換えると、グラフィックで作ったイコライザーパターンは消去されます。

イコライザー効果をかいた録音のしかた

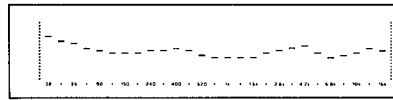


■通常のイコライザー効果をかいた録音のしかた

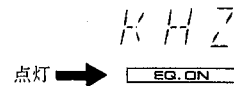
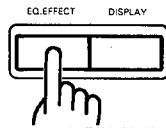
普通の録音の他に、専用の録音イコライザーパターン(29ページ参照)を使ってカーステレオ、ヘッドホンステレオでの効果的な再生が楽しめます。

1 イコライザーパターンをディスプレイに表示する

- ディスプレイに表示されたイコライザーパターンが、すべて録音の対象になります。



2 EQ. EFFECTキーをONにする

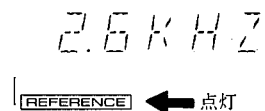
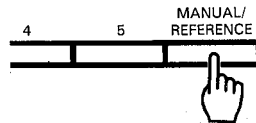


3 録音する

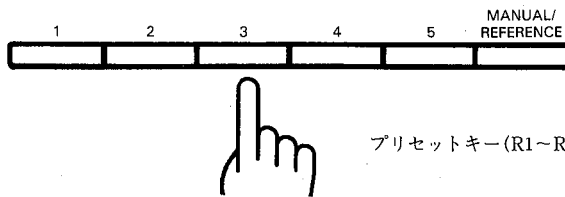
詳しくは43,44ページをお読みください。

■CDの倍速録音でイコライザー効果をかけるには

1 REFERENCEモードにする



2 イコライザーパターンを選ぶ



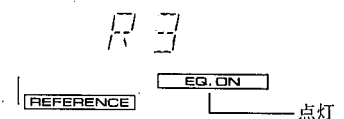
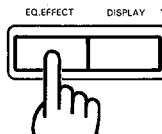
R1~R5を表示

R3



R1~R5(プリセットパターン)のみが倍速録音用として使用できます。(29ページ参照)

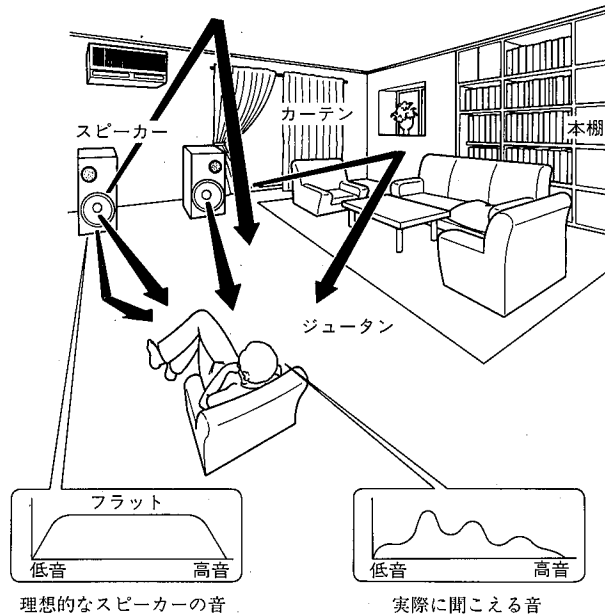
3 EQ. EFFECTキーをONにする



4 倍速録音する

詳しくは50ページをお読みください。

ご注意：録音レベルが高すぎると、イコライザーで強調された周波数の位置で音が歪むことがあります。



リスニングルームの音響補正

リスニングルームは様々なものが置いてあり、音を反射したり、吸収したりして、実際に聞こえる音が、かなり変化します。低域から高域までフラットに聞こえるようにグラフィックイコライザーで周波数特性が調整できます。

- ベッドやイスなどで低音が吸収されやすい。
- カーテンなどで高音が吸収されやすい。
- 部屋の構造で低音がこもったり、周波数によって音が大きくなったり、小さくなったりする。

お好みに合わせて

色々な楽器や音声が一緒に聞こえるとき、特定の楽器や音声を強調したり、弱めたりすることができます。

音質調整について

重低音域の調整(32Hz~55Hz)

これらのレベルコントロールを上昇させると、低音域の楽器、たとえばダブルベース、バスドラム、パイプオルガンなどがどっしりした安定感のある音として再生されます。また、重低音域が響きすぎると感じられるときは、適当と思われるところで下降させます。

低音域の調整(90Hz~150Hz)

日本の建築様式では、リスニングルームの共振点がこの周波数帯にあり、ブーミーな感じになりやすいものです。したがって、リスニングルームの共振を防ぐためにこの低音域を下降させることが多いようです。

中低音域の調整(240Hz~400Hz)

この中低音域は音楽の基礎となる周波数帯です。この音域の音はやせているとか、豊かだと感じられるところです。もの足りない音だと思われるときには、このレベルをわずかに上昇させると、豊かな感じの音になります。

中音域の調整(620Hz~1kHz)

この中音域を調整すると、バリトン・ソプラノなどの人の声が入っている曲では、歌手の声が前に出たり、奥にひっこむような感じになり、臨場感に大きな影響を与えます。音の奥行と深みに関係する帯域です。

中高音域の調整(1.6kHz~2.6kHz)

この周波数帯域は、刺激の強い、金属的で硬い音として感じられるところです。うまく調整すれば、爽快さとか明るさができますが、反面うるさい感じになることもあります。

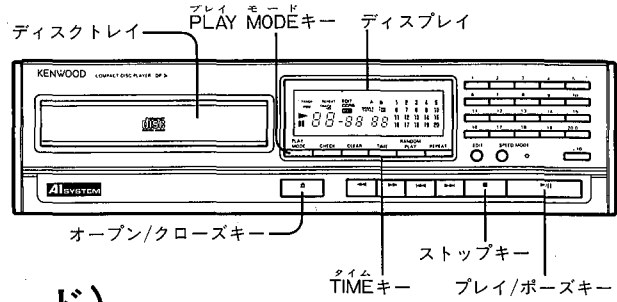
高音域の調整(4.2kHz~6.8kHz)

この周波数帯域は、かたい感じとか、やわらかい感じといわれるところです。上昇させると弦楽器(バイオリンなど)や管楽器(フルート、ピッコロなど)が強調され、艶のある音になり、下降させるとおとなしい感じの音になります。

超高音域の調整(10kHz~16kHz)

この周波数帯域は、音の広がりや繊細感に影響を与えるところです。上昇させると超高音域の楽器(トライアングル、シンバルなど)が快く響き、音の広がりや繊細感が増します。

CDのききかた

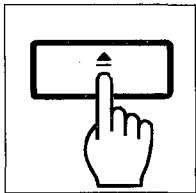


■CDを初めからきく(トラックモード)

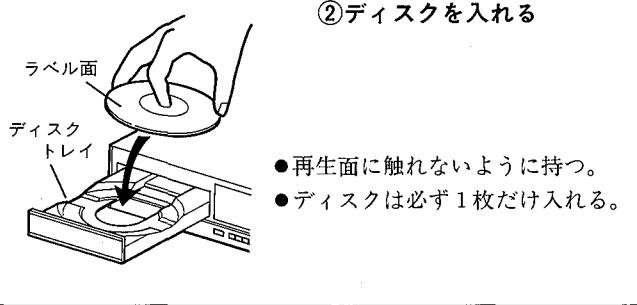
1 アンプの入力切換キーをCDにする

2 ディスクを入れる

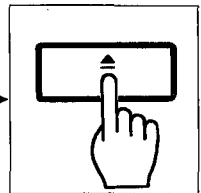
①トレイを開ける



②ディスクを入れる

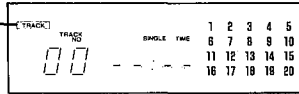


③トレイを閉める



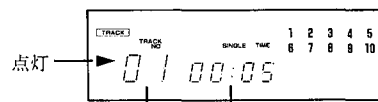
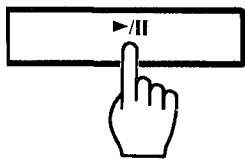
- 再生面に触れないように持つ。
- ディスクは必ず1枚だけ入れる。

TRACK 点灯
表示を確認する



収録されている
曲番を表示

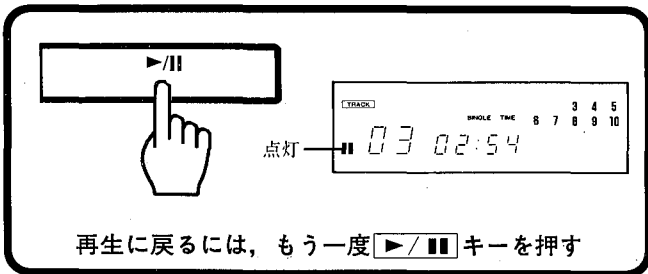
3 再生を始める



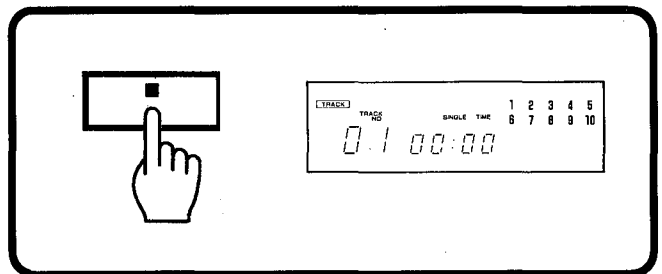
再生中の曲番 再生中の曲の経過時間

- 数秒後に1曲目から再生します

■一時停止する

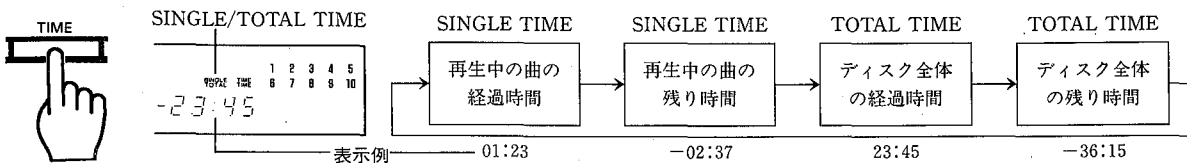


■再生を止める



TIMEキーについて

再生中の曲の経過時間・残り時間を知りたいとき、**TIME**キーを押してください。**TIME**キーを押すごとに、下のように切り換わります。44曲以上収録されているディスクを再生するときや、プログラムモードで選んだ曲の合計時間が100分以上のときは、時間表示をしないことがあります。この場合、表示は“--:--”になります。ランダムプレイ中はSINGLE TIMEのみ表示します。



好きな曲からきく

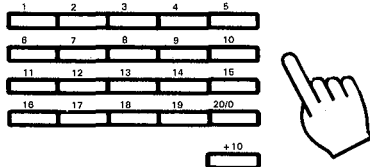
①ダイレクト選曲(TRACKモードのみ) ②スキップ選曲 ③サーチ選曲の方法があります。

ダイレクト選曲(選んだ曲以降を再生する)

1 TRACK表示の点灯を確認する

PGMが点灯しているときはPLAY MODEキーを押す。

2 ききたい曲番を選ぶ



入力例

23曲目は、+10を2回押してから3を押す。

40曲目は、+10を4回押してから20/0を押す。

- 20/0キーは、曲番の“20”を選ぶとき、または、30、40などの“0”を指定するときに使用します。

スキップ選曲(曲の頭から再生を始める)

飛び越したい方向のスキップキーを押す



- 再生中に[←]を1回押すと、その曲の初めに戻り、再び同じ曲をきくこともできます。

サーチ選曲(手を離れたところから再生する)

早送り・早戻ししたい向きのサーチキーを押す



- 押し続けるとさらに早くなります。

ご注意:

トレイを開けた状態でディスクにない曲番を選ぶとディスクの最後の曲を再生します。

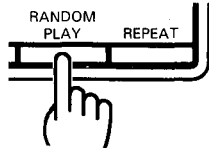
トレイを閉めたあと、または再生が始まってからでは、存在しない曲番は受け付けません。

順不同で再生する(ランダムプレイ)

1 TRACK表示の点灯を確認する

PGMが点灯しているときはPLAY MODEキーを押す。

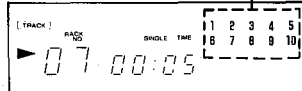
2 RANDOM PLAYキーを押す



- ミュージックカレンダーが点滅し、トラック番号20以内の曲が選択され、再生が始まります。

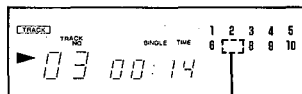
ミュージックカレンダー

最初に7曲目が選ばれた例



- 1曲の再生が終了すると、再び別の曲がランダムに選択され、再生が始まります。

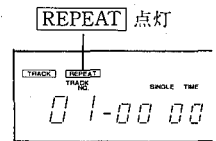
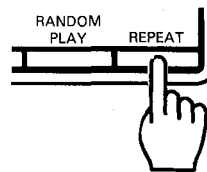
3曲目が選ばれた例



再生が終了したトラック番号は順に消えていきます

- 全曲の再生が終了すると停止します。

ランダムプレイを何回も繰り返すには

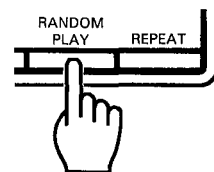


ランダムプレイ中に別の曲を選択するには



普通の再生に戻すには

再度キーを押す

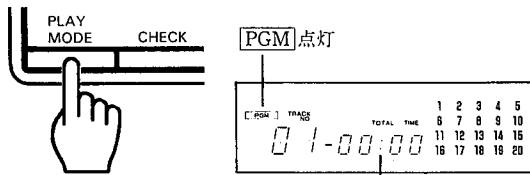


- 再生中の曲から普通の再生に戻ります。

好きな曲を好きな順番できく(プログラムモード)

1 プログラムモードにする

PLAY MODEキーを押す

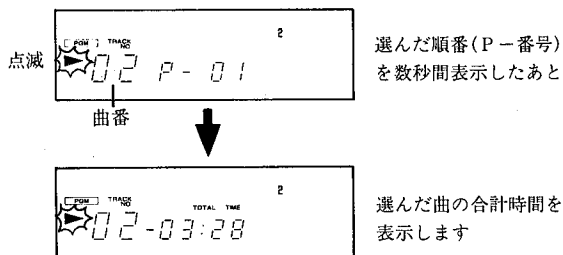


SINGLE TIMEからTOTAL TIMEに変わります。

2 好きな曲を順に選ぶ

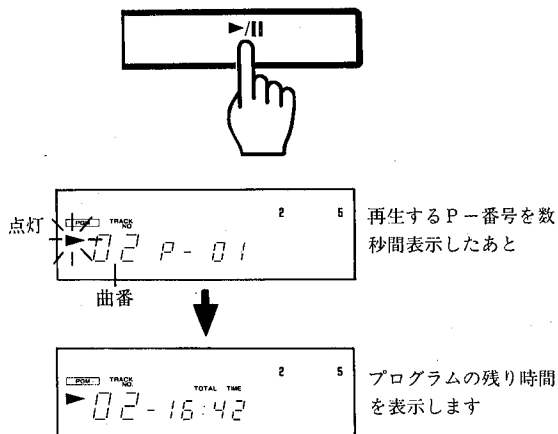
例: 2, 5, 25曲目を選ぶとき

数字キーで **[2]**, **[5]**, **[+10]**, **[+10]**, **[5]** の順に押す



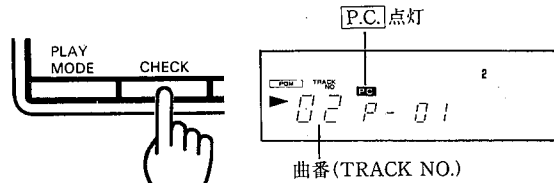
- 20曲まで選べます。
- 間違えたら、**[CLEAR]**キーを押して、選び直してください。
- トレーを開けた状態で、ディスクラベルを見ながら選ぶこともできます。
- 曲番44以降を選んだ場合は、時間を表示しません。

3 再生する



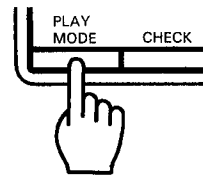
- 選んだ順(P-番号)に再生します。
- 再生中にスキップキー **[▶▶]** または **[◀◀]** を押すと、押した方向へ飛び越します。

選曲した順を確認するには



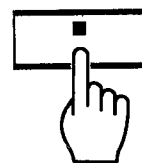
- 押すごとに選んだ順番(P-番号)と曲番を表示します。
- 数秒後に元の表示に戻ります。

普通の再生に戻すには



- 再生中の曲から曲番順の再生に戻ります。

再生を止めるには

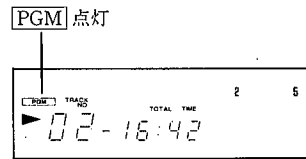


オートスペース機能について

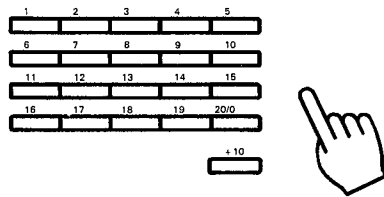
プログラムモードのとき、選ばれた曲と曲の間に約4秒間の音のない部分が自動的に作られます。これはカセットデッキのDPSSのためのものですが、クラシック音楽や、ライブ音楽など、曲と曲がつながっているものでも無録音部分を作ることがあります。

■ 選ぶ曲を追加する

- 1 プログラムモードであることを確認する

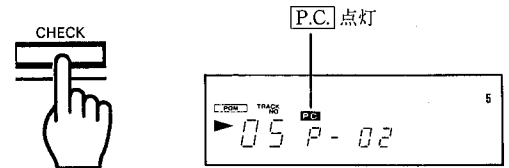


- 2 追加したい曲番号を押す



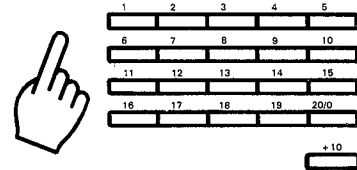
■ 選んだ曲を変更する

- 1 CHECKキーを押す



変更したい曲番号になるまで押していく。

- 2 変更する曲番号を押す



[P.C.]の点灯中に押す。

- 再生している曲は変更できません。

■ 選んだ曲を取り消す

①後ろから順に消していく ②全部消す方法があります。

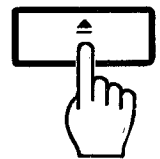
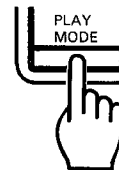
- ① 後ろから順に消していく

- 1回押すごとに最後の曲から1曲ずつ消えていきます。



- ② 全部消す

どちらかを押す

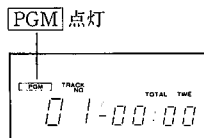
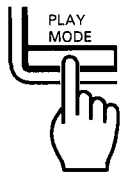


■ 繰り返しきく(リピートプレイ)

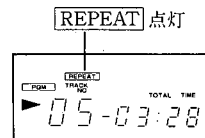
① 1曲だけ ② 選んだ曲全部 ③ ディスク全部を選ぶことができます。止めるまで繰り返します。

① 1曲だけの繰り返し

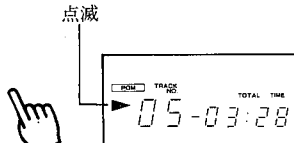
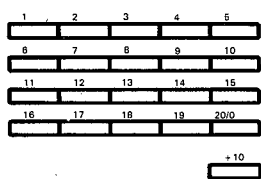
1 プログラムモードにする



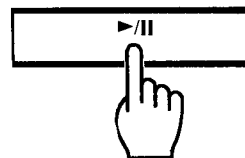
3 REPEATキーを押す



2 好きな曲を1つ選ぶ



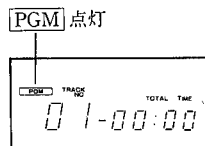
4 再生する



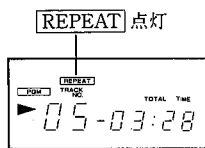
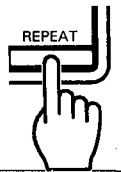
② 選んだ曲全部の繰り返し

1 プログラムモードで好きな曲を選ぶ

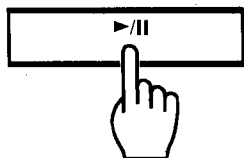
● 選びかたは36ページをお読みください。



2 REPEATキーを押す

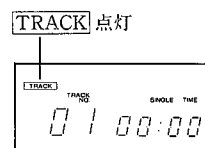
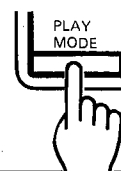


3 再生する

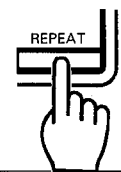


③ ディスク全部の繰り返し

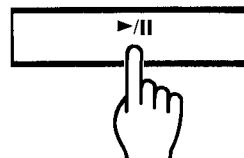
1 TRACKモードにする



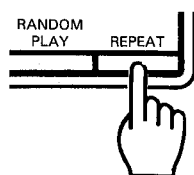
2 REPEATキーを押す



3 再生する



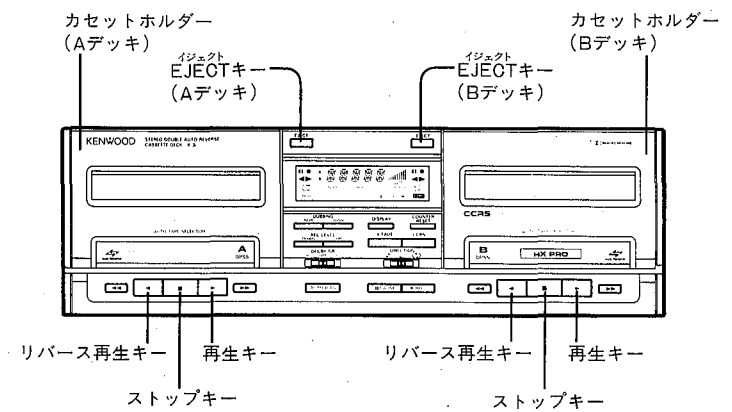
普通の再生に戻るには



REPEAT キーを再度押す

REPEAT 表示を消す

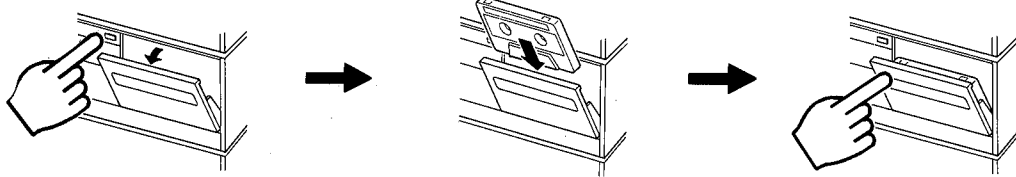
カセットテープのききかた



■テープの再生

1 カセットテープを入れる

EJECTキー
を押す

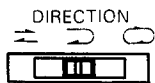


- ノーマル、クローム、メタルのテープ選択は自動設定されます。
- テープはたるみのない状態にして入れてください。

内側上部を押して
確実にしめる

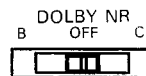
2 再生条件を決める

再生モードの選択



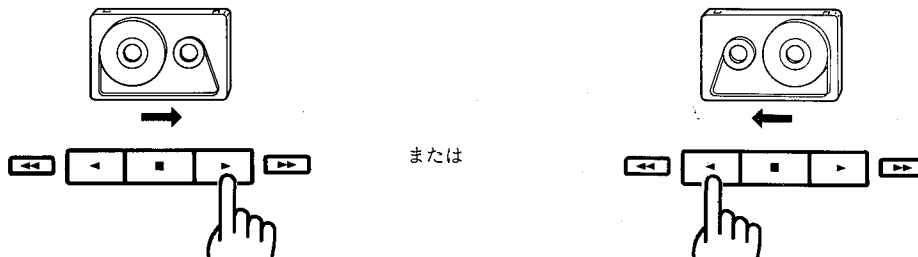
片面みの再生のとき……→
両面の再生のとき……→
エンドレス再生のとき……○

DOLBY NRの選択



テープに合わせて選ぶ

3 再生する



再生を止めるときは、ストップキー■を押してください。

ドルビーノイズリダクション[NR]システムについて

ドルビーNRシステムは、テープ再生の際に発生する“サー”というテープヒスノイズを、聴感上、極力小さくするためのシステムです。ドルビーNRシステムは、録音時と再生時とが同じ方式を使用することで初めて効果が得られます。異なった方式で再生すると正しい音質での再生音が得られません。必ず録音時と再生時のドルビーNR方式を合わせてください。

ドルビーB NR：一般普及型のドルビーNR方式として、一般家庭用機器でドルビーNRシステムといえばBタイプを指します。
ドルビーC NR：ドルビーB NRに比べ、さらに優れたノイズ低減効果が得られます。本機だけで録音再生するときはCタイプの利用をおすすめします。

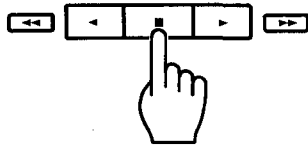
ドルビーNRシステムで録音したテープには“B”“C”の区別を明記しておきましょう。

ご注意：

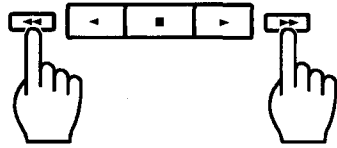
テープが停止しているとき以外は、EJECTキーを押さないでください。

■早送りのしかた

1 再生を止める



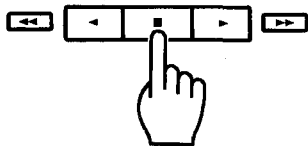
2 ◀◀ キー, または ▶▶ キーを押す



◀方向に早送りする

▶方向に早送りする

早送りを止めるには



■ゼロストップのしかた



◀方向に早送りする

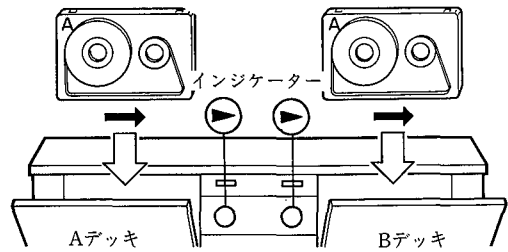
▶方向に早送りする

- カウンターが0000付近まで早送りして止まります。
(リモコンではできません)

■リレー再生のしかた

A, B両デッキに入れたテープを交互に繰り返し再生します。

1 テープを入れる

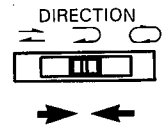
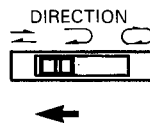


- テープはディスプレイの走行方向インジケーターの向きの面を再生します。

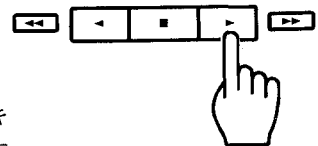
2 再生モードを選ぶ

片面リレー再生

両面リレー再生



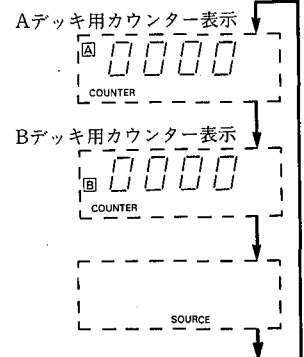
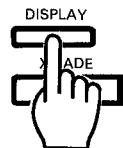
3 再生する



- 押したほうのデッキから再生を始めます。

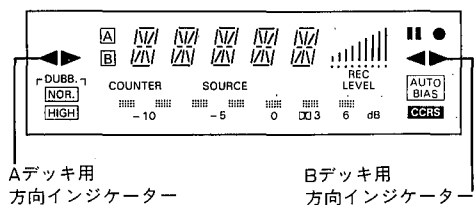
テープカウンター表示について

- 再生モードのときは、**DISPLAY** キーを押すごとに図のように表示が切り換わります。



走行方向インジケーター

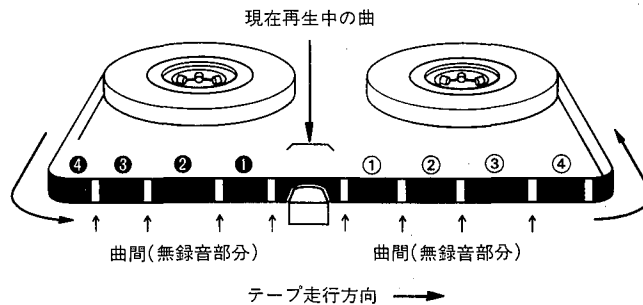
再生, または録音するテープが進む方向を◀▶インジケーターで示します。最後にテープを止めたときの方向が、電源を切ってもそのまま保持され、次の電源ONのときにも同じ方向になっています。走行方向を変えるときは、テープを入れたあと、反対向きの再生キーを押してください。



DPSSの使いかた

DPSS(Direct Program Search System)機能により、操作キーで指示を与えると、以下のような便利な使いかたができます。(両デッキ同時にはできません。) DPSSは曲と曲の間の4秒以上の無録音部分を検出して機能します。

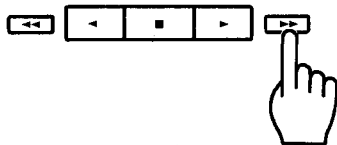
1. 飛越選曲 : 再生中に数曲先の曲(または前の曲)を選ぶと、途中の曲を飛び越して、選んだ曲の最初から再生します。最大16曲まで飛越選曲することができます。
2. 1曲リピート再生 : 同じ曲を16回繰り返し再生します。
3. 巻戻し再生 : テープを巻き戻し、テープの初めから再生します。
4. ダッシュ&プレイ : テープの途中に10秒以上の無録音部分があると、その間を早送りしながら、繰り返し再生します。



飛越選曲

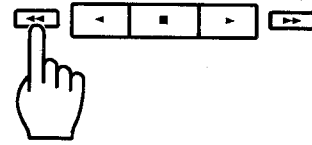
走行方向インジケータの向きが◀のときは、いずれの場合も図とは反対方向のキーを押します。

1曲先の曲をきくには
走行方向インジケータの向き: ▶



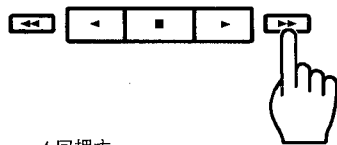
1回押す

再生中の曲を初めからきくには
走行方向インジケータの向き: ▶



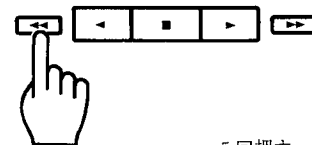
1回押す

4曲先の曲をきくには
走行方向インジケータの向き: ▶



4回押す

4曲前に戻してきくには
走行方向インジケータの向き: ▶



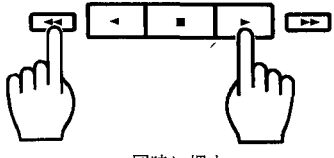
5回押す

次のようなテープでは、DPSSは正常に動作しません

- 会話、落語などで、音声は4秒ぐらい途切れるテープ。
- クラシック音楽など、曲のなかで極端にレベルの低い部分や、無録音部分があるテープ。
- 曲間に大きな雑音などが録音されているテープ。
- 曲間が4秒未満のテープ。
- 低いレベルで録音されたテープ。
- X.FADE録音されたテープ

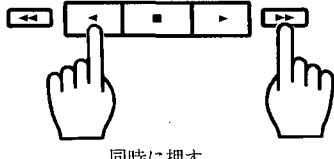
■ 巻戻し再生するには

走行方向インジケータ
の向き：▶



同時に押す

走行方向インジケータ
の向き：◀

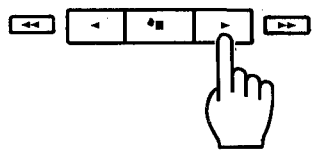


同時に押す

■ 1曲リピート再生するには

1 繰り返したい曲を再生する

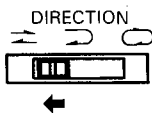
2 同じ方向の再生キーを押す
走行方向インジケータ
の向きが▶のとき



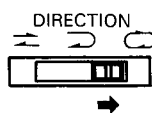
●同じ曲を16回繰り返したあと、通常の再生に戻ります。

■ ダッシュ&プレイのしかた

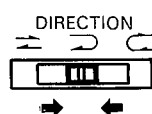
1 再生モード(条件)を決める



“◀”のとき……片面8回繰り返し



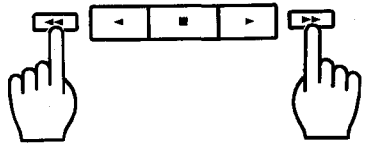
“▶”のとき……両面8回繰り返し



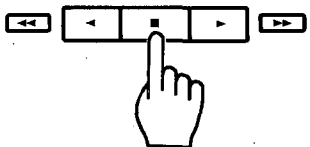
“◀▶”のとき……両面1回のみ

●DIRECTIONスイッチ “◀▶” でテープが両方のデッキに入っているときは、片方のデッキがダッシュ&プレイを終えると、他方のデッキがダッシュ&プレイを始めます。

2 ◀▶キーと▶▶キーを同時に押す



途中で解除するには

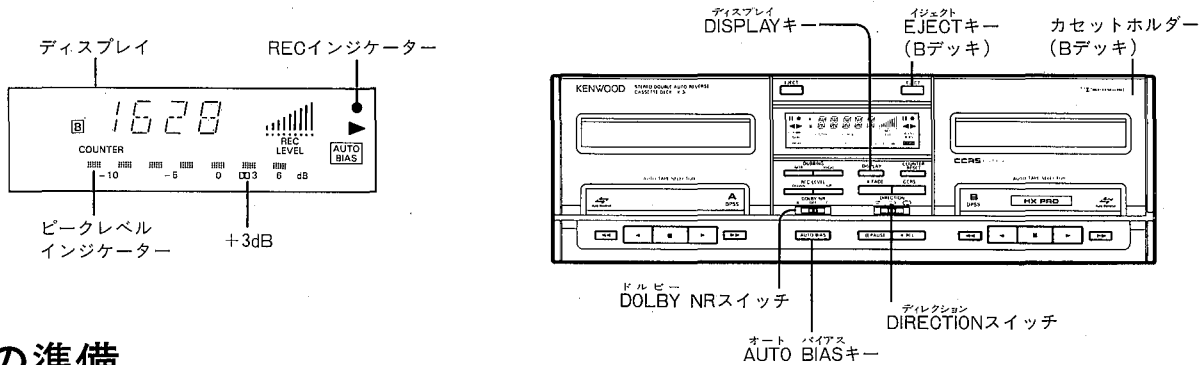


1回押す

ご注意：
“巻戻し再生”および“ダッシュ&プレイ”は、リモコンではできません。

録音のしかた(Bデッキのみ)

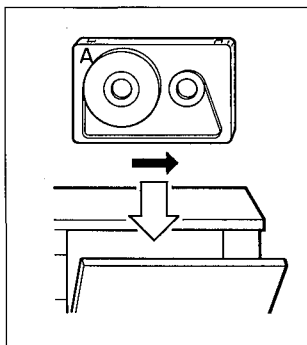
本体は、Dolby HX pro headroom extensionにより、高域特性の優れた録音ができます。



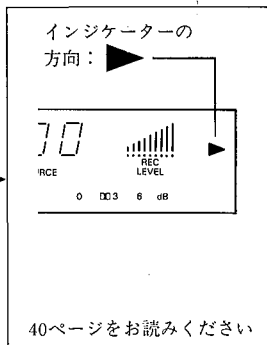
録音の準備

1 カセットデッキの準備をする

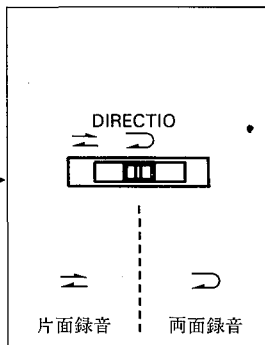
Bデッキにテープを入れる



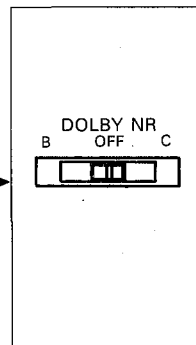
走行方向を合わせる



片面、両面の選択

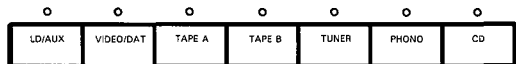


DOLBY NRの選択



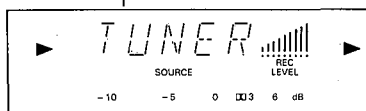
2 録音するソースを選ぶ

アンプの入力切換キーを押す



録音ソースにはなりません。

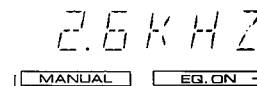
録音ソース表示
(チューナーを選んだ例)



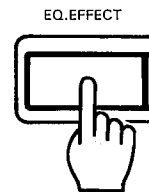
DISPLAY

●[DISPLAY]キーを押すと、録音ソースが表示されます。

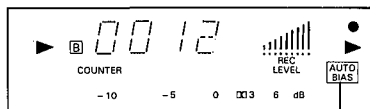
イコライザー効果をかけたいときは
[EQ.EFFECT]キーをONにします。



[MANUAL] [EQ.ON] 点灯



3 オートバイアスの設定



設定が終わると、点滅から点灯に変わる

- 約45秒で適正バイアス値が設定され、停止します。
- バイアス調整中に解除したいときは、ストップキー■を押します。
- オートバイアスの設定は省略しても録音できます。

オートバイアス機能とは

ノーマルテープ・クロームテープには普及品から高級品まで幅広い種類があり、特性も一様ではありません。本機には、どんな種類のノーマルテープ・クロームテープにも適した録音をするためのオートバイアス機能があります。ノーマルテープ・クロームテープのときは、オートバイアスのご使用をおすすめします。

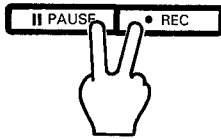
ご注意：

1. オートバイアス設定中は、Aデッキの早送りキー、巻戻しキー、ストップキー、Bデッキのストップキー以外は働きません。
2. テープの残量が少ないときは、設定が途中で解除され停止することがあります。

■録音レベルの合わせかた

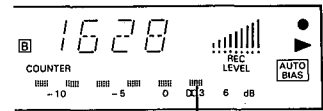
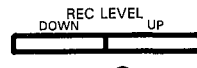
1 録音したいソースを再生する

2 RECキーとPAUSEキーを同時に押す



録音一時停止状態にする。

3 録音レベルを決める



ピークレベルインジケータが、□□ 3 付近まで時々点灯するように調整する。

4 ソースの再生を停止する

■放送の録音のしかた

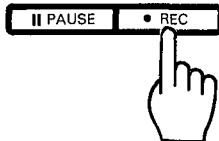
1 録音の準備をする

ソースはTUNERを選ぶ(43ページ参照)

2 録音レベルを決める

(44ページ参照)

3 録音する



1 回押す

●テープが終了すると自動的に停止します。

■録音の一時停止



1 回押す

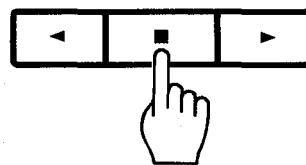
録音を再開するには



1 回押す

■録音の停止

1

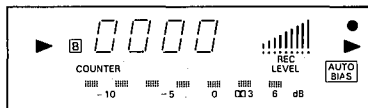


1 回押す

2 録音ソースを止める

カウンターを利用して

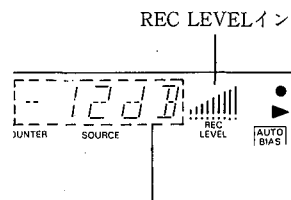
録音を始める前に[COUNTER RESET]キーを押して0000にしておきます。テープの途中で録音を終わりたいときなど、その数字をメモしておく、次の録音のときの場所を探すめやすになります。



録音レベルとREC LEVELインジケータについて

- 録音レベルはあらかじめアンプの入力切換に対応したレベルが設定されていますが、お好みによりそれぞれ変更することができます。
- [REC LEVEL]キーを押して録音レベルを決めると、そのレベルが記憶され、同じ入力切換のとき、再現されます。
- CCRS作動中、および入力切換キーがTAPE A、TAPE Bのときは録音レベルの表示はしません。

- REC LEVELインジケータは[REC LEVEL]キーの調整位置を示します。



- [REC LEVEL]キーを押すと約5秒間録音レベルを表示します。

■CDのシンクロ録音

カセットデッキとCDプレーヤーを同時にスタートさせることができます。

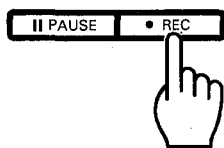
1 録音の準備をする

43ページ参照。

2 録音レベルを決める

44ページ参照。

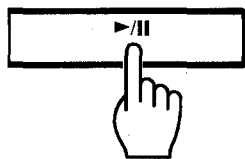
3 録音待機状態にする



続けて2回押す

- デッキは約4秒間の無録音部分を作り、録音一時停止状態になります。

4 CDを再生する



- 同時に録音が始まります。
- CDプレーヤーの再生が終わると、デッキも録音を終了し、停止します。

- 一時停止……CDプレーヤーのプレイ/ポーズキー
▶/||を押す
- 再録音……CDプレーヤーのプレイ/ポーズキー
▶/||を押す
- 停止……CDプレーヤーのストップキー
■を押す

■レコードのシンクロ録音

別売レコードプレーヤー(P-3J)を接続すると、両方を同時にスタートさせることができます。

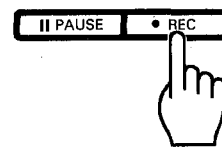
1 録音の準備をする

43ページ参照。

2 録音レベルを決める

44ページ参照。

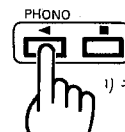
3 録音待機状態にする



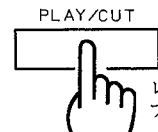
続けて2回押す

- デッキは約4秒間の無録音部分を作り、録音一時停止状態になります。

4 レコードを再生する



リモコン



レコードプレーヤー

- 同時に録音が始まります。
- レコードプレーヤーの再生が終わると、デッキも録音を終了し、停止します。

- 一時停止……レコードプレーヤーのCUEINGレバーを上げる(▲)
- 再録音……レコードプレーヤーのCUEINGレバーを下げる(▼)
- 停止……レコードプレーヤーのPLAY/CUTキーを押す(リモコンは を押す)

ご注意：カセットデッキのストップキー■を押すとカセットデッキは止まりますが、CDやレコードプレーヤーは止まりません。

■録音をとり直しするには

録音開始位置の前に4秒間の無録音部分が必要です。

▶方向録音中は



◀方向録音中は



- 録音は中止され、録音を始めた位置まで戻り、前の曲から約2秒間の無録音部分を送った後、停止します。

RECキーを2回押す



4秒間の無録音部分を作る

RECキーを1回押す



- 録音が始まります。

CDの録音のしかた(CCRS)

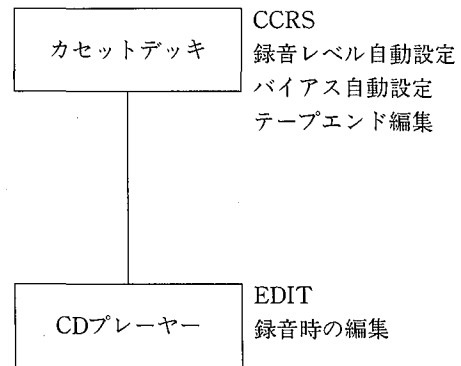
録音するディスクの最適録音レベルと、テープの録音バイアスを自動的に設定し、録音を開始する CCRS 機能と組み合わせ、次のような便利な録音ができます。(“CDのききかた”の項目をあわせてご覧ください)

- トラックモードによる録音** : CDの1曲目から順に録音し、曲の途中でテープの折返し部になったとき、フェードアウト/フェードインで折返して録音します。
- PGMモードによる録音** : プログラムされた順番で録音し、曲の途中でテープの折返し部になったとき、中途半端になった曲を消去し、その曲から改めて裏面に録音します。
- CD EDITによる録音** : 録音時間を指定すると、最後の曲がとぎれないように自動的に編集し、無駄なく録音します。最大20曲まで編集できます。
- X. FADE録音** : 曲の終わりと初めをフェードアウト/フェードインし、曲の切れ目のない音楽テープが作れます。
- CCRS倍速録音** : CDを2倍の速さで録音します。グラフィックイコライザーも倍速に対応しています。

CCRS(Computer Controlled CD Recording System)とは

CCRSキーを押すだけで、次のことを自動的にを行いCD録音を始める機能です。

1. CDが再生を開始し、ディスクの収録レベルから、ピーク値をサンプリングします。
2. サンプリングしたピーク値から、そのディスクの最適録音レベルを決め、設定します。
3. カセットデッキが録音するテープのバイアスを自動的に設定します。
4. 約90秒で以上の録音準備を終え、録音を始めます。
5. 録音が終了(CDプレーヤーが停止したときまたはテープが終わったとき)すると、デッキとCDプレーヤーは停止します。



X. FADE(クロスフェード)録音とは

音楽を再生するとき、小音量から始めて通常の音量までだんだん大きくしていくことをフェードインといい、逆に通常の音量からだんだん小さくしていったって終わることをフェードアウトといいます。

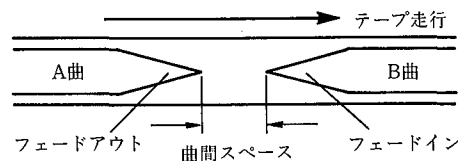
X. FADE録音は、前の曲のフェードアウトと後の曲のフェードインを同時に行ない、曲と曲の切れ目をなくし次々と連続して録音する方式です。

ディスコの音楽のように、次々に音楽が変わるテープライブラリーを作ることができます。

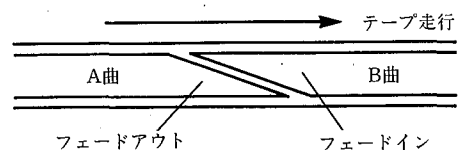
X. FADE録音はCCRSと同様に[X. FADE]キーを押すだけで、自動的に録音に入ります。

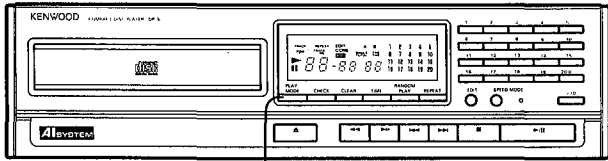
- カセットデッキのディスプレイに“FADE”と表示されます。

一般のフェードアウト・フェードイン録音

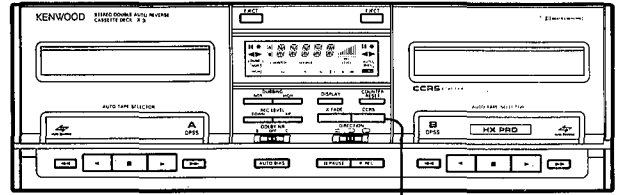


X. FADE録音





プレイモード
PLAY MODEキー



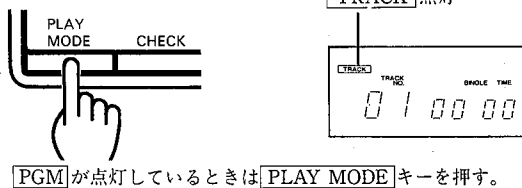
CCRSキー

■ TRACKモードによる録音

テープの折り返し部で、フェードアウト／フェードインします。

1 CDプレーヤーにディスクを入れる

2 CDプレーヤーのモードをTRACKにする

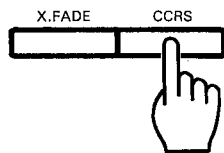


PGMが点灯しているときはPLAY MODEキーを押す。

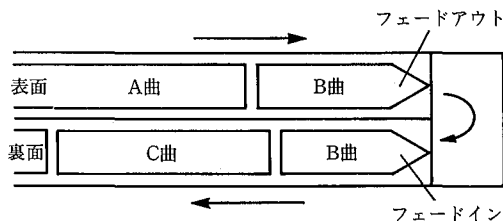
3 カセットデッキの録音準備をする

(43ページ手順1参照)

4 録音する



- CCRS機能により、約90秒後、録音が始まります。
- ディスクの曲順番に録音します。
- テープの折り返し部では、次のようになります。



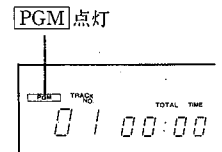
■ PGMモードによる録音

テープの折り返し部で、曲がとぎれないように録音します。

1 CDプレーヤーにディスクを入れる

2 録音する曲の順番を選ぶ

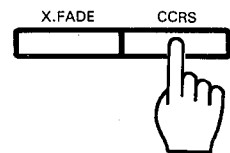
(36ページ手順1, 2参照)



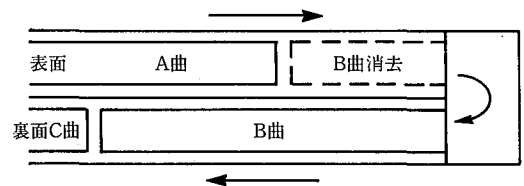
3 カセットデッキの録音準備をする

(43ページ手順1参照)

4 録音する



- CCRS機能により、約90秒後、録音が始まります。
- 選んだ曲の順に録音します。
- テープの折り返し部では、次のようになります。



ご注意：

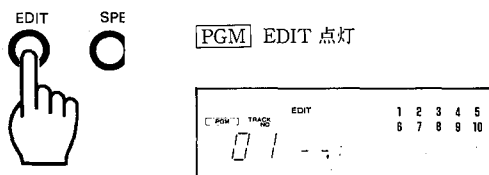
1. CDプレーヤーの再生中に[CCRS]キーを押すと、再生を中止し、CCRS設定に入ります。
2. 録音するテープは、どちらかに完全に巻き戻してから、カセットホルダーに入れてください。
3. 一度CCRS録音レベルが設定されると、CCRS継続中に録音レベルの調節はできません。
4. CCRSはディスクのピークレベルを約90秒で探すため、ごくまれに最適レベルの調節ができないことがあります。
5. CCRSの録音レベル設定は、CDプレーヤーのオープン/クローズキー[▲]を押したとき、または電源を切ったときに解除されます。
CDプレーヤーのディスクを取り換えて、カセットデッキ部の[CCRS]インジケータが消えない場合は、再度CDプレーヤーのオープン/クローズキー[▲]を押して、ディスクトレイを開閉してください。
6. クラシックなど、1曲が長いものは、テープの片面に録音しきれないためCCRSが使えません。この場合は、“CDのシンクロ録音のしかた”を参照し、録音してください。
7. もともとフェードアウト／フェードインされた曲をX.FADE録音すると曲間が空いてしまうことがあります。
8. ライブ録音など、録音に区切りがないCDをCCRS録音すると自動的に曲間スペースをつくることがあります。
9. カセットデッキの[DIRECTION]スイッチが C になっていると、それぞれのテープエンドの処理は表面のみになります。

■編集(EDIT)による録音のしかた

1 CDプレーヤーにディスクを入れる

2 編集(EDIT)をする

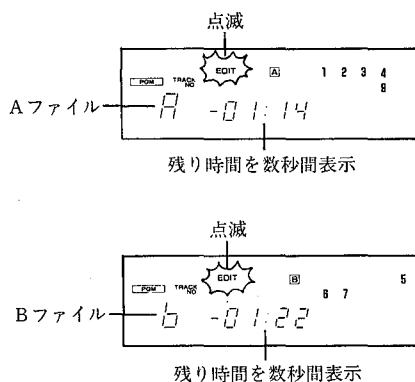
①CDプレーヤーのEDITキーを押す。



②EDITが点灯しているうちに、CDプレーヤーの数字キーで、録音するテープの往復時間を入力する。

例：C-60は、**+10**キーを6回、**0**キーを1回押す。
例：C-46は、**+10**キーを4回、**6**キーを1回押す。

編集 中



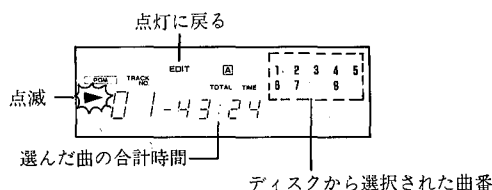
編集はつぎのように行われます。

(1)設定時間が二分割され、一方のAファイル(テープA面用)に収まるような曲が、曲番の小さい順に選択されます。

●数字キーで時間を設定する前に、あらかじめ、**RANDOM PLAY**キーを押しておく、曲番はランダムに選択されます。

(2)数秒後、Aファイルの残り時間がディスプレイに表示され、続いてBファイル(テープB面用)も同様に編集されます。

編集 終了

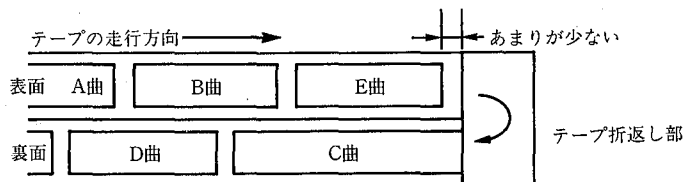
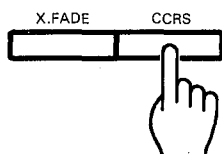


3 カセットデッキの録音準備をする

43ページ手順1 参照

4 録音する

- CCRS機能により、約90秒後、録音が始まります。
- 録音が終わるとカセットデッキ、およびCDプレーヤーは自動的に停止します。



録音の停止



カセットデッキ

どちらかを押す

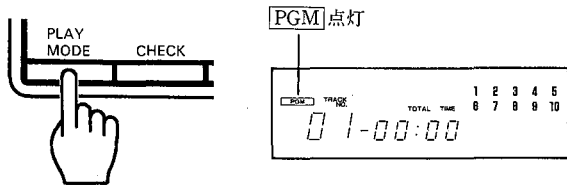


CDプレーヤー

■好きな曲を優先的に編集 録音したいときは

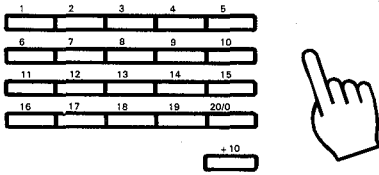
1 CDプレーヤーにディスクを入れる

2 プログラムモードにする



TRACK] になっていたら、PLAY MODE] キーを押す。

3 数字キーで好きな曲番を選ぶ

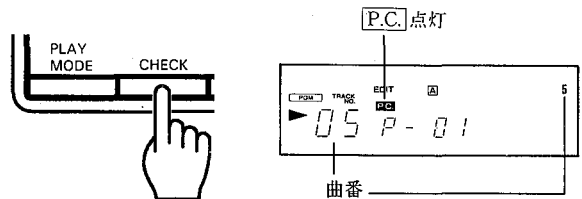


4 CD EDIT録音をする

48ページの“編集(EDIT)による録音のしかた”
手順2に進んでください。

■編集された内容の確認の しかた

CHECKキーを押す

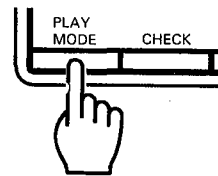


●押すごとに編集された曲番が順番に表示されます。

■編集内容(順番)を変更 したいときは

曲番をランダム(順不同)に編集します。

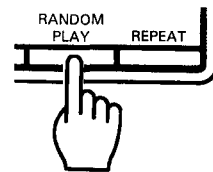
1 編集内容を取り消す



2 編集(EDIT)をする

48ページの手順2—①をおこなう

3 RANDOM PLAYキーを押す

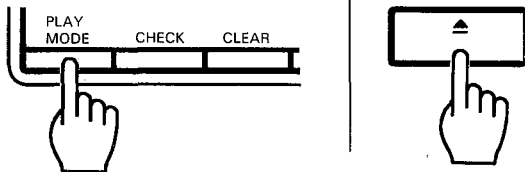


4 48ページの手順2—②へ進む

■編集した内容を取り消す

全部消すとき

どちらかを1回押す



後から順に消していくとき

●編集の終了後、CLEAR] キーを押すごとに、最後の曲
から順に消すこともできます。

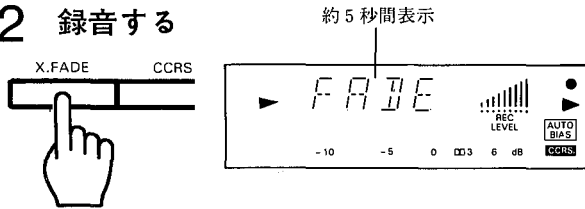
クロス フェード

■X.FADE録音のしかた

1 カセットデッキの録音準備をする

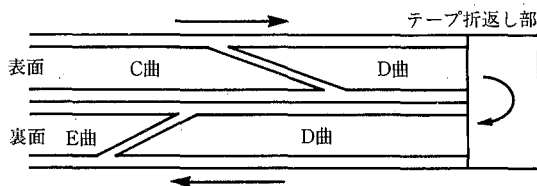
(43ページの手順1参照)

2 録音する



- CCRS機能により、約90秒後、録音が始まります。
- CDプレーヤーのモードに従った録音になります。

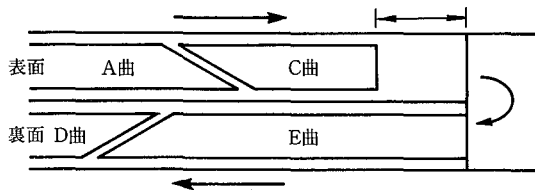
TRACKまたはPGMモードのとき



D曲の始めから録音をし直します

先に編集(EDIT)したとき

予定より時間があまります



■CCRS倍速録音のしかた

1 CDプレーヤーにディスクを入れる

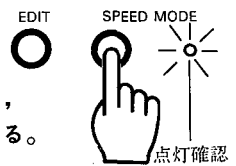
2 カセットデッキの録音準備をする

(43ページの手順1参照)

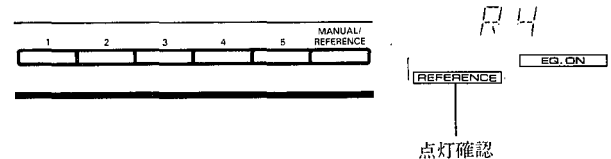
- DOLBY NRスイッチはOFFにしてください。

3 倍速モードにする

CDプレーヤーのSPEED MODEキーを押し、インジケーターを点灯させる。

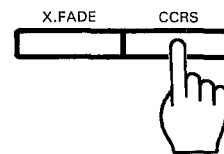


イコライザー効果をかける場合



- REFERENCEモード(R1～R5)が倍速録音に対応します。(32ページ参照)

4 録音する



- 約90秒後、自動的に録音を始めます。
- 録音が終了すると、カセットデッキは約6秒間の無録音部分を作った後停止し、CDプレーヤーのSPEED MODEインジケーターが消灯します。
- 操作手順をまちがえたときは初めからやり直してください。
- 録音の編集内容は通常CCRSと同様にできます。

ご注意：

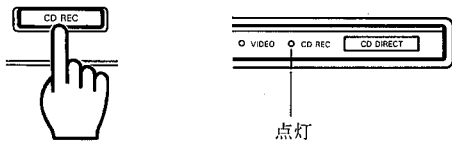
- 1.CCRS倍速録音中、他のソースをさくことはできません。
- 2.SPEED MODEキーを押した後、マニュアル(手動)でCDプレーヤーを再生すると、CCRS倍速録音は解除されます。
- 3.倍速モードでX.FADE録音はできません。
- 4.DOLBY NR録音はできません。

■CDを録音しながら、他の音楽ソースをきくには

あらかじめ **EQ EFFECT** キーを ON にしておくと、イコライザー効果をかけた録音もできます。
(32ページ参照)

ただし、きこえてくる音楽ソースには、イコライザー効果はかかりません。

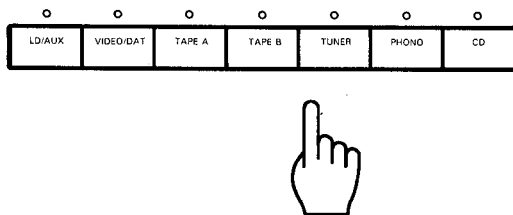
1 アンプのCD RECキーを押す



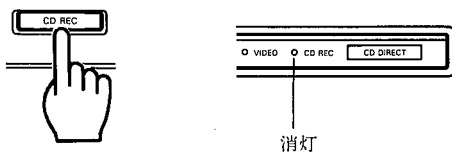
2 “CDの録音のしかた”に従い、録音を始める

●45～50ページのCD録音に適応できます。

3 好きな音楽ソースを選ぶ



4 録音終了後CD RECを解除する

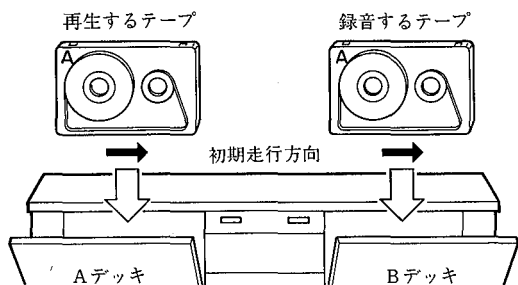


ダビングのしかた

録音済みのテープを別のテープへコピーすることをダビングといいます。(Aデッキのテープ→Bデッキのテープ)

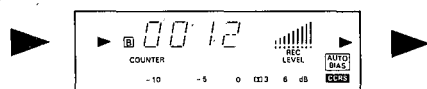
ノーマルダビング：通常でコピーします。
高速ダビング：通常約2倍の速度でコピーします。

1 テープを入れる



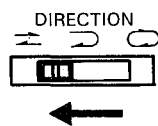
2 テープの走行方向を合わせる

●40ページをお読みください。

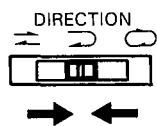


3 片面、両面を選ぶ

片面ダビングするとき



両面ダビングするとき

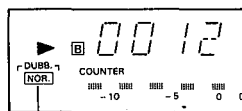
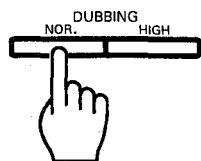


4 AUTO BIASキーを押す

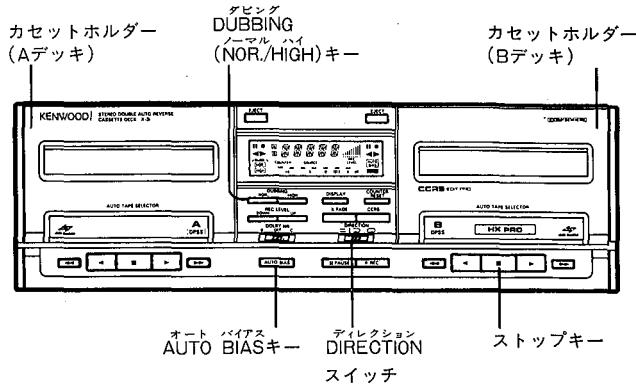
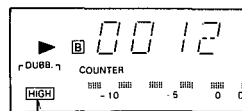
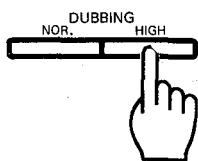
●約45秒で適正バイアス値が設定され、停止します。

5 ダビングを始める

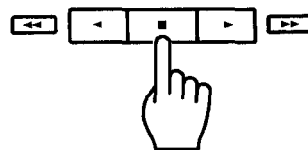
ノーマルダビングのとき



高速ダビングのとき



■ダビングの停止



Bデッキ用

●A, Bデッキとも停止状態になります。

■ダビングの一時停止

ノーマルダビングのとき：NOR. キーを押す

高速ダビングのとき：HIGHキーを押す

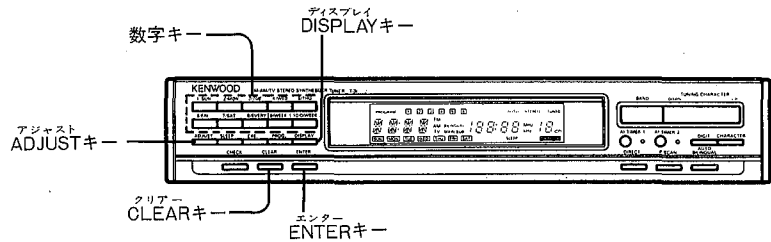
- ノーマルでは約4秒間、高速では約6秒間の無録音部分を作った後、Bデッキのみ一時停止状態になります。
- ダビング中に、ダビングしたくない曲を飛ばしたいときは、Aデッキの▶▶キーを押します。
- ダビングを再開するときは、押したDUBBINGキー (NOR. または HIGH) を、もう一度押します。

ご注意：

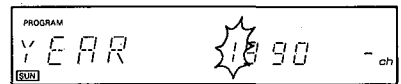
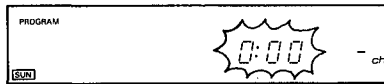
1. ダビング時は、録音レベルの調節ができません。
2. ダビング時は、DOLBY NRスイッチは働きません。
3. TVのそばで高速ダビングをするとTV雑音が入ることがあります。TVから離してください。
4. 録音レベルが高いテープを高速ダビングすると音質を損なうことがあります。このようなときは、ノーマルでダビングしてください。

時刻合わせ

チューナーには、時計機能がついています。プログラムタイマーを使う前に必ず正確な時刻を合わせてください。



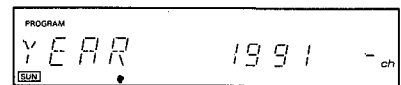
1 時刻合わせモードにする



時刻表示の一番左が点滅します

2 西暦年を数字キーで入力し、ENTERキーを押す

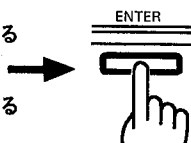
例、1991年は [1], [9], [9], [1] と入力する



3 月、日を入力し、ENTERキーを押す

例、3月7日は [0], [3], [0], [7] と入力する

例、12月30日は [1], [2], [3], [0] と入力する

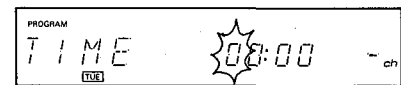


4 時刻を合わせる

例、午前9時5分は [0], [9], [0], [5] と入力する

例、午後4時50分は [1], [6], [5], [0] と入力する

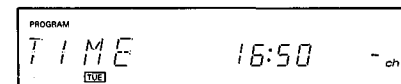
●数字キーを間違えて押したときは、[CLEAR]キーを押して、やり直してください。



5 ENTERキーを押す



●時報と同時に押すと正確な時刻合わせができます。



ご注意：

停電があったり、電源プラグをコンセントから抜いた場合は時刻表示が点滅します。そのときは、もう一度時刻合わせをしてください。

ディスプレイの表示とDISPLAYキー

[DISPLAY]キーを押すごとに、放送局を受信しているときは、周波数/年月日/時刻表示に切り換わります。年月日または時刻表示のとき、チューナーの選局に関するキーを押すと、自動的に周波数表示に切り換わり、数秒後、元の表示に戻ります。電源がOFFのときは、年月日/時刻表示の切り換えになります。

タイマーの使いかた

本システムのタイマーには、次のような機能があります。

プログラムタイマー：指定した時刻に放送受信および録音、テープまたはCDを再生し、指定した時刻に電源が切れます。時刻設定のできるプログラムパターンは4通りあり、最大6つのプログラムを設定することができます。

AI TIMER 1… タイマーONで電源が入ったとき、音量が3段階で大きくなります。

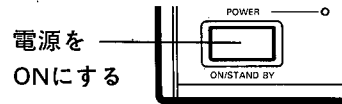
AI TIMER 2… タイマーONで電源が入ったとき、CDを2曲再生したあと自動的にチューナーへ切り換わります。

スリープタイマー：最大90分で電源を切ります。

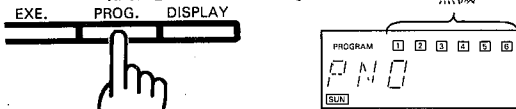
■プログラムタイマーの準備

53ページの“時刻合わせ”を済ませておきます。

例：プログラム②に、毎日、午前7:30～8:00を設定する。

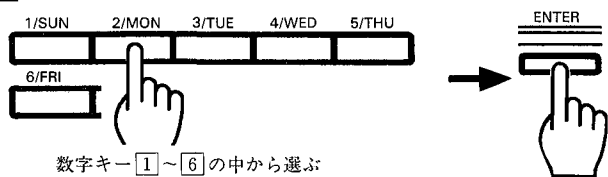


1 プログラム設定モードにする



●次のキー操作は、5秒以内に押してください。

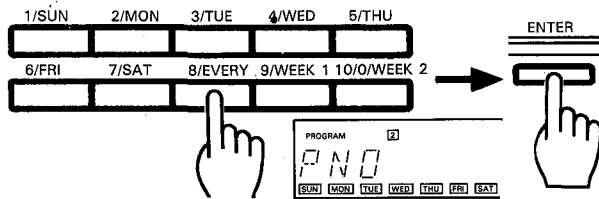
2 プログラムしたい番号を選ぶ



数字キー①～⑥の中から選ぶ
プログラムNo.②を押した例

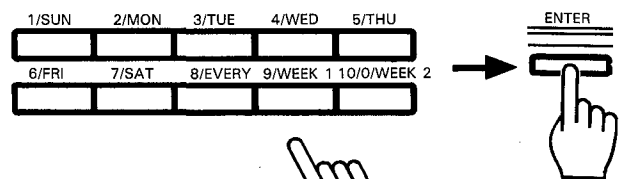
3 プログラムパターンを指定する

下のプログラムパターン表を参考にしてください。



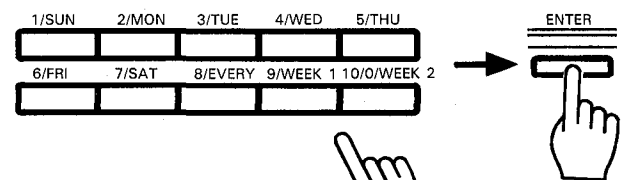
例、毎日を指定したとき……この表示は変化しません。

4 ON時刻を入力する



例、午前7時30分は
0, 7, 3, 0と入力する

5 OFF時刻を入力する



例、午前8時00分は
0, 8, 0, 0と入力する

MODE表示の待機状態となります。

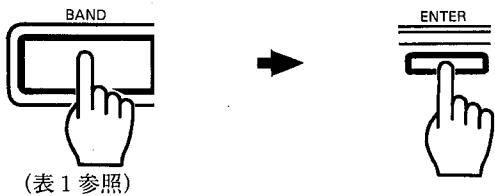
プログラムパターン表

プログラムパターンの種類	指定する数字キーと表示例
①指定した曜日の時刻に1回だけON/OFFする	日曜日 月曜日 火曜日 水曜日 木曜日 金曜日 土曜日 1/SUN 2/MON 3/TUE 4/WED 5/THU 6/FRI 7/SAT
②毎日、同じ時刻にON/OFFする	8/EVERY [SUN] [MON] [TUE] [WED] [THU] [FRI] [SAT]
③月曜日～土曜日の間、同じ時刻にON/OFFする	9/WEEK 1 [MON] [TUE] [WED] [THU] [FRI] [SAT]
④月曜日～金曜日の間、同じ時刻にON/OFFする	10/O/WEEK 2 [MON] [TUE] [WED] [THU] [FRI]

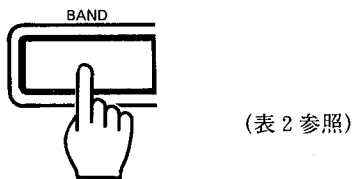
■タイマーで放送受信をするには

準備：1.20ページの放送局のプリセットを済ませる。
2.54ページの準備1～5を済ませる。

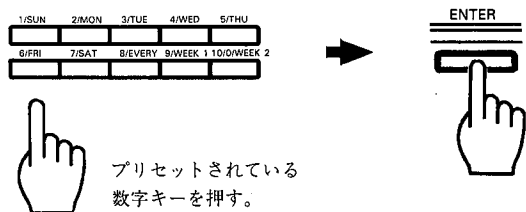
1 PLAYモードを選ぶ



2 チューナーのバンドを選ぶ

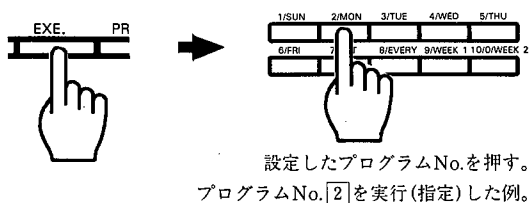


3 希望する放送局を選ぶ



プログラムの設定完了

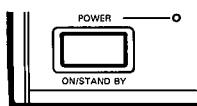
4 プログラムタイマーを動作させる



5 音量・音質を調整する

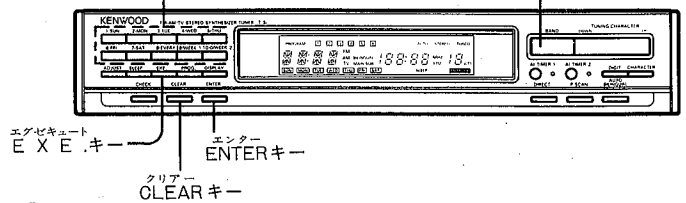
(表3 参照)

6 電源を切る



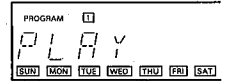
数字キー(プリセットチャンネル, プログラム番号)

BANDキー

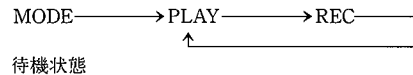


【表1】

PLAY, RECモードの選択

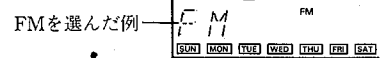


- **BAND** キーを押すごとに切り換わります。

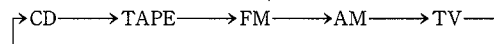


【表2】

入力ソースの選択



- **BAND** キーを押すごとに切り換わります。



- プログラムは、それぞれが重ならないように設定してください。
ON時間が重なったときは、プログラムNo.の若い方のみ動作します。
- プログラムの途中で操作を間違えたときは、**CLEAR** キーを押してやり直してください。
- プログラム設定後の変更は、初めからやり直してください。
- すでにプログラムされている数字キーを押したときは、新しいプログラム内容に変わります。

【表3】

- 58ページのAI TIMER 1を使うときは、音量調整の必要はありません。

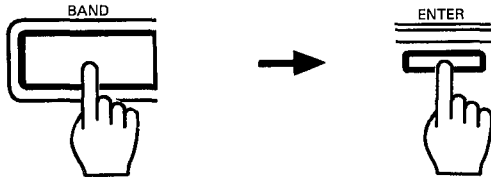
タイマーがONになったあと、そのまま放送を受信したいとき

- OFF時刻になる前に**CLEAR** キーを押し、実行中のプログラム数字キーを押してください。

■タイマーでCDを再生するには

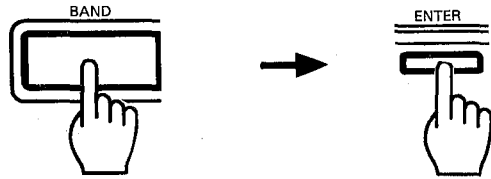
準備： 1. 54ページの準備1～5を済ませる。
2. CDプレーヤーにディスクを入れる。

1 PLAYモードを選ぶ



55ページ表1参照

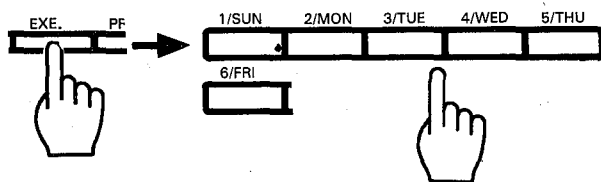
2 CDを選ぶ



55ページ表2参照

プログラムの設定完了

3 プログラムタイマーを動作させる

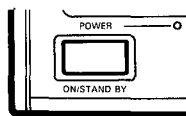


設定したプログラムNo.を押す

4 音量・音質を調整する

55ページ表3参照

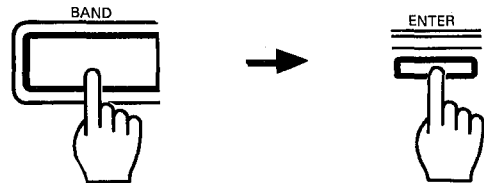
5 電源を切る



■タイマーでテープを再生するには

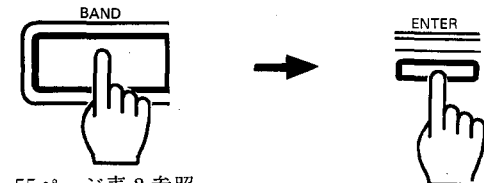
準備： 1. 54ページの準備1～5を済ませる。
2. カセットデッキに再生するテープを入れる。
(A, Bデッキとも可能。Aデッキが優先)。

1 PLAYモードを選ぶ



55ページ表1参照

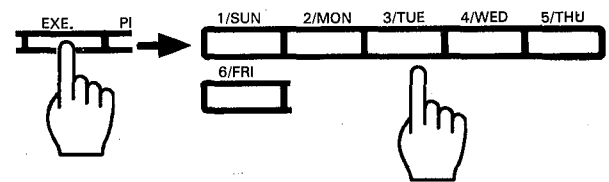
2 TAPEを選ぶ



55ページ表2参照

プログラムの設定完了

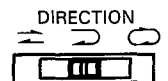
3 プログラムタイマーを動作させる



設定したプログラムNo.を押す

4 再生条件を決める

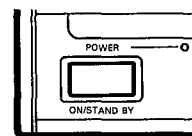
39ページ参照



5 音量・音質を調整する

55ページ表3参照

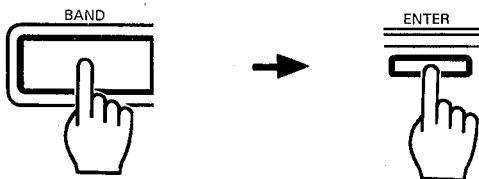
6 電源を切る



■ タイマーで放送録音をするには

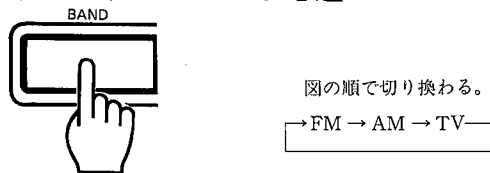
1. アンプのCD RECインジケータが、消えていることを確認する。
- 準備: 2. 43ページの録音の準備を済ませる。
 ●オートバイアスは使えません。
3. 44ページの録音レベルを調整する。
4. 54ページの準備1～5を済ませる。

1 RECモードを選ぶ



55ページ表1 参照

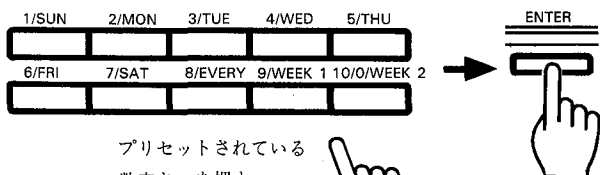
2 チューナーのバンドを選ぶ



図の順で切り換わる。

→FM → AM → TV←

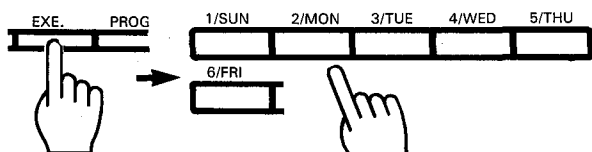
3 希望する放送局を選ぶ



プリセットされている
数字キーを押す。

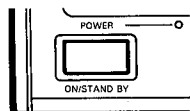
プログラムの設定完了

4 プログラムタイマーを動作させる



設定したプログラムNo.を押す。

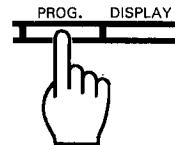
5 電源を切る



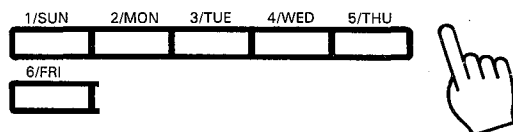
- プログラムタイマーの働きで電源が入ると、音量は自動的にさがります。

■ タイマーの内容を確認するには

1 PROG.キーを押す



2 確認するプログラムの数字キーを押す



- プログラムの内容を約3秒ずつ表示していきます。そのあと元に戻ります。

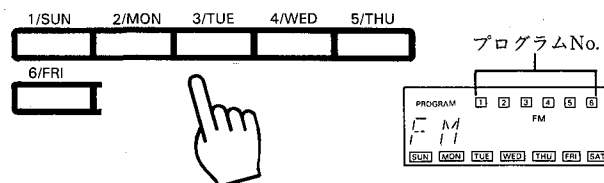
■ タイマーの動作をキャンセルするには

タイマー動作を取り消してもプログラムの内容は消えません。

1 CLEARキーを押す



2 キャンセルしたいプログラムの数字キーを押す



- プログラムNo.インジケータが消灯します。

タイマー動作をキャンセルしたあとの再実行

- プログラムは記憶していますので、タイマーの内容を確認のうえ、それぞれ手順4または3の“プログラムタイマーを動作させる”から行います。

ご注意:

タイマーで電源がONしているときに、**CLEAR**キーを押したり、**POWER**キーを押すと、正常に作動しなくなります。

AI TIMERの使いかた

プログラムタイマーをセットし電源を切ったあと、**AI TIMER**キーを押すと、下記の使いかたができます。
AI TIMER 1, AI TIMER 2ともに録音モードのときは働きません。

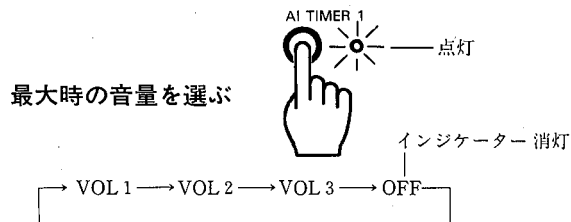
■ AI TIMER 1 の使いかた

プログラムタイマーの働きで電源が入ると、音量が3段階で大きくなる機能です。
最大時の音量は3種類選べます。

1 タイマーのセットを完了する

- 放送受信のときは、55ページをお読みください。
- CDまたはテープの再生のときは、56ページをお読みください。

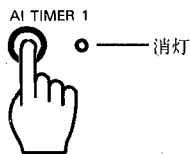
2 AI TIMER 1 キーを押す



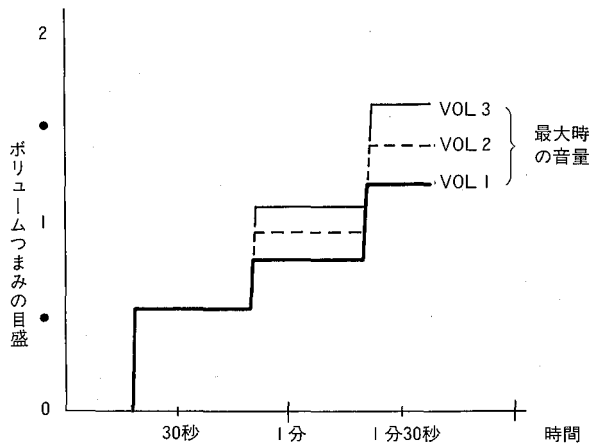
- 押すごとに最大時の音量が選べます。

AI TIMER 1 を解除するには

プログラムタイマーの動作が終了しても、インジケーターは消えません。AI TIMERを使わないときは、必ずOFF (消灯) にしてください。



音量の目安



- VOLUMEつまみは音量に合わせてまわります。
- グラフィックイコライザーのカーブも変化します。

■ AI TIMER 2 の使いかた

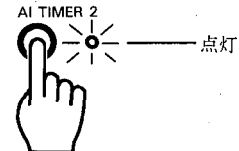
プログラムタイマーの働きで電源が入ると、CDを2曲再生した後、自動的にチューナーへ切り換わる機能です。
他のプログラムタイマーよりも優先されます。

1 CDプレーヤーにディスクを入れる

2 “タイマーで放送受信をするには”を済ませる

- 55ページをお読みください。

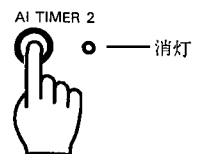
3 AI TIMER 2 キーを押す



- 音量を3段階で大きくしたいときは**AI TIMER 1**を押します。

AI TIMER 2 を解除するには

プログラムタイマーの動作が終了しても、インジケーターは消えません。AI TIMERを使わないときは、必ずOFF (消灯) にしてください。

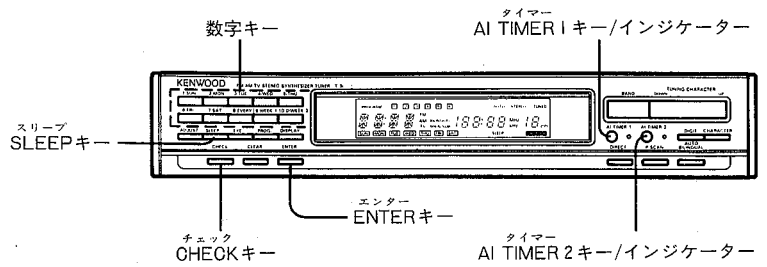


ご注意：

AI TIMER 2を使うとき、プログラムタイマーのON/OFF時間の設定は、再生するCDの2曲分より長い時間を設定してください。

設定時間が短かいと、曲の再生途中で電源が切れ、全ての機器が停止します。

また、CDプレーヤーが再生中に、CDプレーヤーおよび他の機器を操作すると、AI TIMER 2の機能は解除されます。

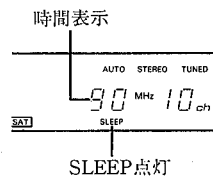


■スリープタイマーの使いかた

スリープタイマーは指定した時間が過ぎると電源が切れます。10分単位で最大90分まで指定できます。タイマーはスリープタイマーが優先します。

1 電源を入れる

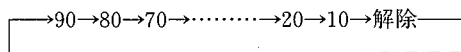
2 SLEEPキーを1回押す



3 希望の時間になるまで押す



●リモコンでもできます



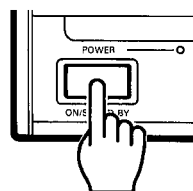
1回押すごとに10分ずつ減っていく

解除するとき

SLEEP キーを解除
まで押していく



POWER キーを
一度OFFにする

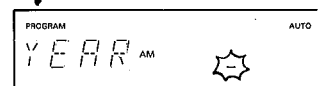


どちらかをする

■カレンダーチェックのしかた

西暦年、月、日を入力すると、その日が何曜日かを知ることができます。検索できる範囲は、1900年1月1日～2099年12月31日の間です。

1 CHECKキーを押す



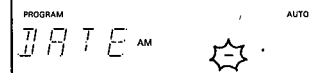
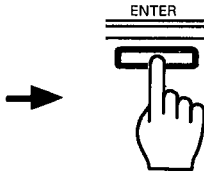
2 西暦年を入力する

数字キーを押す

ENTERキーを押す

例：1991年は

1, 9, 9, 1



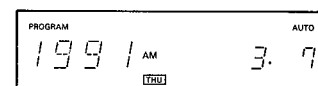
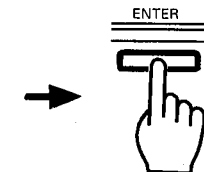
3 月、日を入力する

数字キーを押す

ENTERキーを押す

例：3月7日は

0, 3, 0, 7



- 入力した日の曜日が、自動的に点灯します。
- 数秒後に元の表示に戻ります。

故障と思われる症状ですが……

調子が悪いと故障と考えがちですが、サービスに依頼する前に症状に合わせて一度チェックしてみてください。

リモコン部

症 状	原 因	処 置
リモコンで操作ができない。	<ul style="list-style-type: none"> ●電池切れ。 ●平行コードおよびシステムコントロールコードが正しく接続されていない。 ●操作する位置が遠すぎる、角度がずれている。または障害物がある。 ●再生しようとする機器に、レコード、テープ、CDが入っていない。 ●録音中のカセットデッキで再生しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●新しい電池に入れかえる。 ●“接続のしかた”をみて正しく接続し直す。 ●操作範囲内で操作する。 ●再生しようとする機器に、レコード、テープ、CDを入れる。 ●録音が終わるまで待つ。

アンプ部・スピーカー部

症 状	原 因	処 置
音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> ●スピーカーコードがはずれている。 ●音量を最小にしている。 ●アンプのMUTINGがONでVOLUMEポイントインジケータが点滅している。 	<ul style="list-style-type: none"> ●“接続のしかた”をみて正しく接続し直す。 ●適当な音量にする。 ●MUTINGをOFFにする。
入力切換インジケータが点滅し、音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> ●スピーカーコードがショートしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●一度電源スイッチを切り、ショートを取り除き、再度電源スイッチを入れる。
スピーカーの片側だけ音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> ●スピーカーコードがはずれている。 ●BALANCEつまみが片側いっばいに絞られている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●“接続のしかた”をみて正しく接続し直す。 ●左右のバランスを調節する。
サラウンドスピーカーから音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> ●[SURROUND] キーがONになっていない。 ●サラウンドスピーカーコードがはずれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●[SURROUND] キーをONにする。 ●“接続のしかた”をみて正しく接続し直す。
入力切換キーをPHONOにすると、ブーンという音が出る。	<ul style="list-style-type: none"> ●プレーヤーのオーディオコードがPHONO端子にしっかりと差し込まれていない。 ●プレーヤーのアース線が接続されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●オーディオコードをPHONO端子に完全に差し込む。 ●アース線を背面のGND端子に接続する。

チューナー部

症 状	原 因	処 置
時刻表示がある時間で止まったまま、点滅している。	<ul style="list-style-type: none"> ●停電があった。 ●電源プラグを一度抜いた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●現在時刻をもう一度合わせる。 ●現在時刻をもう一度合わせる。
タイマーが作動しない。	<ul style="list-style-type: none"> ●現在時刻を合わせていない、停電があった。 ●タイマーのON時刻とOFF時刻を設定していない。 ●タイマーの実行指定をしていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●“時刻合わせのしかた”をみて、現在時刻を合わせる。 ●タイマーのON時刻とOFF時刻を設定する。 ●[EXE]キーで実行指定をする。
放送局を受信できない。	<ul style="list-style-type: none"> ●アンテナを接続していない。 ●放送バンドが合っていない。 ●受信したい放送局の周波数に合っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●アンテナを接続する。 ●放送バンドを合わせる。 ●受信したい放送局の周波数に合わせる。

症 状	原 因	処 置
プリセットしたあと、数字キーを押しても受信できない。	<ul style="list-style-type: none"> ●プリセットした放送局が受信できない周波数である。 ●長い間、電源コンセントを抜いていたため、メモリーが消えてしまった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●受信できる周波数の放送局をプリセットする。 ●もう一度プリセットする。
雑音が入る。	<ul style="list-style-type: none"> ●自動車のイグニッションノイズ。 ●電気器具の影響によるもの。 ●テレビが近くにある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●外部アンテナを道路から離れたところに設置する。 ●電気器具の電源を切ってみる。 ●テレビから離す。

カセットデッキ部

症 状	原 因	処 置
再生キーを押しても音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> ●ヘッドが汚れている。 ●巻き取りムラがあり、テープが重くなっている。 ●未録音テープを再生している。 	<ul style="list-style-type: none"> ●“ヘッドのお手入れ”をみて、ヘッドを清掃する。 ●テープを交換してみる。 ●録音済テープを使う。
操作キーを押しても作動しない。	<ul style="list-style-type: none"> ●カセットホルダーが完全に閉まっていない。 ●カセットホルダーを閉めてすぐ操作キーを押している。 ●電源を入れてから3秒以内に操作キーを押している。 ●テープが入っていない。 ●巻き取りムラがあり、テープが重くなっている。 ●テープがどちらかに巻き取られている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ホルダーを完全に閉める。 ●ホルダーを閉めて何秒かたってから操作キーを押す。 ●3秒以上たってから操作キーを押す。 ●テープを入れる。 ●テープを交換してみる。 ●走行方向を変える、またはテープを裏返す。
DPSSが誤動作する。	<ul style="list-style-type: none"> ●曲と曲の間が短いなど、DPSSに不適当なテープを使っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●“DPSSの使いかた”をお読みください。
CCRSが作動しない。	<ul style="list-style-type: none"> ●Bデッキに録音できるテープが入っていない。 ●CDプレーヤーにディスクが入っていない。 ●ディスクが汚れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●Bデッキに録音できるテープを入れ、CCRSキーを押す。 ●CDプレーヤーにディスクを入れ、CCRSキーを押す。 ●ディスクを清掃したあと、CDプレーヤーに入れ、[CCRS]キーを押す。
AデッキとBデッキでダビングの終わる時間が違う。	<ul style="list-style-type: none"> ●テープの長さや、カセットデッキのメカニズムの特性によるもの。 	<ul style="list-style-type: none"> ●多少の時間差は故障ではありません。
EJECTキーを押してもホルダーが開かない。	<ul style="list-style-type: none"> ●録音中、または再生中に押している。 	<ul style="list-style-type: none"> ●停止状態で押す。
RECキーを押しても録音できない。	<ul style="list-style-type: none"> ●カセットテープのツメが折れている。 ●カセットホルダーが完全に閉まっていない。 ●録音レベルが最小になっている。 ●アンプの入力切換キーがTAPE AまたはTAPE Bになっている。 ●テープがどちらかに巻き取られている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ツメの折れていないテープを使う、または穴をふさぐ。 ●ホルダーを完全に閉める。 ●“録音のしかた”をみて、録音レベルを調節する。 ●入力切換キーを録音したソースにする。 ●Bデッキの走行方向を変える、またはテープを裏返す。


故障と思われる症状ですが……

症 状	原 因	処 置
音がかすれたり、高音が出なくなる。	<ul style="list-style-type: none"> ●ヘッドが汚れている。 ●テープがのびたり、ワカメ状になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●“ヘッドのお手入れ”をみて、ヘッドを清掃する。 ●テープを交換する。
音がひずむ。	<ul style="list-style-type: none"> ●録音する時、録音レベルを上げすぎている。 ●はずんだ音で録音されたテープを再生している。 	<ul style="list-style-type: none"> ●“録音のしかた”をみて、録音レベルを調節する。 ●テープを交換する。
雑音大きい。	<ul style="list-style-type: none"> ●ヘッドが磁気を帯びている。 ●外部の雑音を誘導している。 ●録音レベルが低い。 ●ドルビーONで録音したテープを、OFFで再生している。 	<ul style="list-style-type: none"> ●“ヘッドのお手入れ”をみて、消磁する。 ●電気器具、テレビから離す。 ●“録音のしかた”をみて、録音レベルを調節する。 ●DOLBY NRスイッチをBかCにする。
音がふるえる。	<ul style="list-style-type: none"> ●キャプスタン、ピンチローラーが汚れている。 ●テープに巻き取りムラがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●“ヘッドのお手入れ”をみて、ヘッドを清掃する。 ●テープの端から端まで通して早送り、巻戻し、または再生をして巻き直す。

グラフィックイコライザー部

症 状	原 因	処 置
音が小さい。	●イコライザーレベルが全帯域にわたり低い。	●イコライザーレベル調整キーでレベルを上げる。
音がひずむ。	●トーンコントロールが右いっぱい調節されている。	●トーンコントロールをセンターに合わせる。

CDプレーヤー部

症 状	原 因	処 置
ディスクを入れても再生できない。	<ul style="list-style-type: none"> ●ディスクが裏返しに入っている。 ●ディスクがひどく汚れている。 ●ディスクに傷がついている。 ●光学レンズが結露している。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ラベル面を上にして、正しく入れる。 ●ディスクを清掃してから再生する。 ●ディスクを取り換える。 ●“露付きにご注意”をみて、露を蒸発させる。
音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> ●ディスクが入っていない。 ●再生状態になっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ディスクを入れて再生する。 ●プレイ/ポーズキー  を押す。
音とびがする。	<ul style="list-style-type: none"> ●ディスクが汚れている。 ●ディスクに傷がついている。 ●本機に震動が加わっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ディスクを清掃してから再生する。 ●ディスクを取り換える。 ●震動のない場所に設置する。

ご注意：

1. テープの種類によっては、自動的にテープが止まったときに“キュー”という音がすることがあります。これはテープ保護機構が働くため、故障ではありません。
2. 120分テープは、テープ厚がうすくワカメ状になりやすいため、ご使用にならないでください。
3. 本システムはマイコンを使用していますので、外部からの雑音や、妨害ノイズにより、正常に動作しない場合があります。そのような場合は、電源コードを一度抜いてからあらためてご使用ください。
4. 接点復活剤は、故障の原因となることがありますので、ご使用にならないでください。特にオイルを含んだ接点復活剤は、プラスチック部品を变形させることがあります。
5. 本システムのTV受信回路はFM受信回路と兼用しています。そのため、地域によってはテレビの2又は3チャンネルの音声受信時にFM放送が混信することがあります。

アフターサービスについて

1. 保証書—この商品の保証書は別途添付しております。必ず所定事項の記入および記載内容をご確認いただき大切に保管してください。
2. 保証期間—お買い上げの日より**1年間**です。正常なご使用状態でこの期間内に万一故障を生じた場合には、保証書の記載内容によりお買い上げの販売店またはケンウッドの営業所が**無料修理**いたします。
3. 保証期間経過後の修理についてはお買い上げの販売店またはケンウッドの営業所にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合にはお客様のご要望により**有料修理**いたします。
4. 補修用性能部品の最低保有期間は製造打切後**8年間(カセットデッキは6年間)**です。性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。
5. なおアフターサービスについて、ご不明な点はお買い上げの販売店またはケンウッドの営業所にご遠慮なくご相談ください。

サービス依頼について

本システムの修理を依頼される時は、本体のままお渡しにならないで、必ず何かに包装してお渡しください。本体のまま修理にだされますと、途中の事故等で外観に傷がつく恐れがありますのでご注意ください。

※ダンボール箱はぜひ保管し、アフターサービスや引越しの際大切な機器を保護するためにご利用ください。

修理のためお買い上げの販売店またはケンウッドの営業所にセットをお持ちになる時は、お買い上げのセット全部をお持ちください。(スピーカーを除きます。)

定 格

アンプ (A-3i)

出力

実用最大出力 (EIAJ, 6Ω).....78W + 78W
全高調波ひずみ率
(CD, 40Hz ~ 20kHz, 1/2定格出力, 6Ω).....0.09%

S/N比 (EIAJ)

PHONO (MM).....78dB
CD, TUNER, LD/AUX, VIDEO/DAT, TAPE A, TAPE B...80dB

入力感度/インピーダンス

PHONO (MM).....2.5mV/47kΩ
CD, TUNER, LD/AUX, VIDEO/DAT, TAPE A, TAPE B.....
150mV/47kΩ

トーンコントロール

BASS.....±10dB (100 Hz)
TREBLE.....±10dB (10kHz)

[電源・その他]

電源電圧

定格消費電力 (電気用品取締法に基づく表示).....130W
(システム接続したとき).....180W

外形寸法.....幅 360mm
高さ 129mm
奥行 373mm

重量.....正味 7.7kg

チューナー (T-3i)

[FMチューナー部]

受信周波数範囲.....76MHz~90MHz
アンテナインピーダンス.....75Ω 不平衡
実用感度 (モノラル).....16.3dBf (1.8μV, 75Ω)
高調波ひずみ率 モノ.....0.4% (1kHz)
ステレオ.....0.5% (1kHz)
S/N比 モノ.....78dB (65dBf)
ステレオ.....72dB (65dBf)
ステレオセパレーション.....40dB (1kHz)
周波数特性.....30Hz~15kHz, +0.5dB, -3.5dB

[AMチューナー部]

受信周波数.....531kHz ~ 1602kHz
実用感度.....14μV (500μV/m)
S/N比.....49dB

[TVチューナー部]

受信方式.....音声多重復調回路内蔵
受信チャンネル.....VHF: 1~12CH
UHF: 13~62CH

[その他]

外形寸法.....幅 360mm
高さ 69mm
奥行 354mm

重量.....正味 2.0kg

グラフィックイコライザー (GE-3i)

コントロール周波数……………32Hz, 55Hz, 90Hz, 150Hz, 240Hz
400Hz, 620Hz, 1kHz, 1.6kHz, 2.6
kHz, 4.2kHz, 6.8kHz, 10kHz, 16
kHz

S/N比 (IHF A)……………100dB

〔その他〕

外形寸法……………幅 360mm
高さ 109mm
奥行 344mm
重量……………正味 3.4kg

コンパクト ディスク プレーヤー (DP-3i)

型式……………コンパクト ディスク デジタル オーディオシステム
読み取り方式……………非接触光学式読み取り (半導体レーザー)
チャンネル数……………2チャンネルステレオ
回転数 (定速時)……………200rpm~500rpm (CLV)
(倍速録音時)……………400rpm~1000rpm (CLV)
周波数特性……………20Hz~20kHz (EIAJ)
S/N比……………90dB以上 (EIAJ)
全高調波ひずみ率……………0.07%以下 (1kHz T.H.D)
チャンネルセパレーション……………80dB以上 (EIAJ)

ワウ・フラッター……………測定限界以下
〔その他〕

外形寸法……………幅 360mm
高さ 107mm
奥行 352mm
重量……………正味 3.3kg

これらの定格及びデザインは、技術開発にともない予告なく変更することがあります。

※「防磁形(EIAJ)」とは、(社)日本電子機械工業会 (EIAJ) の技術基準に適合したスピーカーシステムです。

カセット デッキ (X-3i)

トラック方式……………4トラック 2チャンネル ステレオ
録音方式……………交流バイアス (周波数: 105kHz)
ヘッド

Aデッキ用 再生用……………1
Bデッキ用 録音/再生用……………1
消去用……………1

モーター Aデッキ用……………2
Bデッキ用……………2

早巻き時間……………約90秒 (C-60)

周波数特性 (Bデッキ)

ノーマルテープ……………30Hz~16kHz ±3dB
クロムテープ……………30Hz~16kHz ±3dB
メタルテープ……………30Hz~15kHz ±3dB

S/N比

EIAJ……………55dB
DOLBY NR OFF……………58dB
DOLBY B NR ON……………67dB
DOLBY C NR ON……………75dB

ワウ・フラッター……………0.08% (WRMS)

〔その他〕

外形寸法……………幅 360mm
高さ 119mm
奥行 352mm
重量……………正味 4.0kg

スピーカー (S-3i)

エンクロージャー形式……………バスレフ
スピーカー構成「防磁形(EIAJ)」……………3ウェイ
ウーハー……………250mmコーン型
スクーカー……………100mmコーン型
ツイーター……………50mmコーン型
インピーダンス……………6Ω
最大入力……………80W
出力音圧レベル……………91dB
周波数特性……………40Hz~20kHz

外形寸法……………幅 295mm
高さ 534mm
奥行 270mm
重量……………正味 9.0kg (一本)

アフターサービスのお問い合わせは、
購入店または最寄りの当社サービスセンター
営業所をご利用ください。
商品に関するその他のお問い合わせは、
お客様相談室をご利用ください。
電話(03)3486-5515

KENWOOD

株式会社 ケンウッド

東京都渋谷区渋谷2-17-5(シオノギ渋谷ビル)〒150
電話(03)3486-5511